

高校の体育

十週年記念号



10号

群馬県高等学校体育連盟



初代会長
現前橋市教育長
中村武雄氏



第二代会長
現県立前橋女子高校長
大村武男氏



第三代会長
現県立前橋高校長
野村吉之助氏

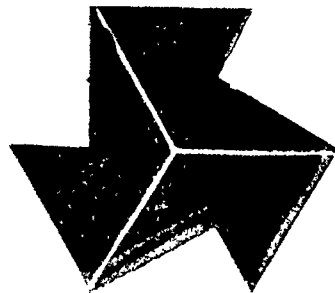


現会長
前橋商業高校長
松岡重三郎氏

高 校 の 体 育

第 十 号

十 周 年 記 念 号



群馬県高等学校体育連盟

高校の体育 第十号 目次

人間の肉体についての探求	群馬県高等学校体育連盟会長	松岡重三	1
次の強いステップを	前会長(前高校長)	野村吉之助	3
発展を祝して	前会長(前橋市教育長)	中村武雄	4
十周年を迎えて	前理事長	茂木正夫	5
県高体連十周年を省みて	理事長	正木徳次郎	7
△随想	寒毛卓立	北井柳太郎	11
△先輩寄稿	高崎女子高校	相原信行	13
体操	高工高出身	川島武	15
陸上	前高出身	浜松ヨシ江(旧姓高橋)	17
スキー	沼女高出身	堀和子(旧姓林)	20
レスリング	館高出身	磯晴彦	21
水泳	高高出身	清水健	23
△国体参加記			
第十二回国民体育大会に想う(弓道の部)	富岡高野	山口益弘	24
第十四回国体に優勝して	富岡今	井正明	25
第八回国体回想録	高高山	山口英雄	29
国体優勝の思い出	高高山	中原射鹿	30
△十年を回顧して			
水泳部十年を回顧して	委員長	津田貞	33
高体連ハンドボール部	委員長	町田五郎	35
群馬スケートの歩み	委員長	深田五郎	38
△国体視察報告			
第十四回国民体育大会軟式庭球観戦雑感		洪女高	43

△特別寄稿

体育研究会後記……………桐生市立商業高等学校 岡

高校体操競技に審判基準を……………前高教諭 石田

スキー技術の考え方……………高体連スキー委員長 林 千

△十周年記念行事記録及専門部報…………… 春 郎 重

バスケット部報告……………清 貞

十年前を省みて……………清 貞

サッカー部……………飯 島 善 徳

バレーボール部……………栗 原 好 農

ソフトボール部……………石 井 重 夫

卓球部……………岡 田 由 好

ラグビー部……………萩 原 一 重

軟式野球部……………井 上 正 二

体操部……………下 田 泉 英

陸上競技部……………奥 泉 宗

バドミントン部……………竹 内 善 一

定時制軟式野球部……………田 見 井 善

軟式庭球部……………田 見 井 善

相撲部……………浅 山 清 一

剣道部……………豎 林 千

スキー部……………林 千

ダンス部……………佐 藤 千

水泳部……………津 田 貞 け

柔道部……………今 井 考 造

ハンドボール部……………磯 貝 角 五

弓道部……………磯 貝 角 五

△事務局報告

昭和三十五年度六年度高体連役員名簿

△編集後記……………松 井 国 平

……………136

……………133

……………131

……………126

……………122

……………120

……………118

……………114

……………111

……………104

……………99

……………97

……………91

……………86

……………83

……………80

……………74

……………69

……………63

……………59

……………56

……………51

人間の肉体についての探求

群馬県高等学校体育連盟会長 松岡重三郎

人間は肉体と精神において形成されていながら従来とかく精神だけが高く評価され肉体が精神に隷属するかの如く解されていた事は全く誤った考えである。精神については古来組織的に体系的に探究され、追求されて来たにもかかわらず、正常な肉体についての深い研究、組織的な探究については精神のそれに対し極めて遅れて居り等閑に付されている。勿論医学と言うものがあり、人間の肉体について研究はしているが、それはあくまでも病める肉体、破壊されたる肉体、つまり正常ならざる損われた肉体の究明がその領域の大部分を占めていて、正常なる肉体の正常なる状態、そして正常なる行動についての体系的な追求、組織的な探求についてはまことにおろそかにされて来たと言うのが厳然たる事実である。これについては我々が戦前の保健体育の教科等がいかにあつかわれたかを想起するならばきわめて明らかなことである。唯一年に一度の体格検査等で罷事了れりとし、家庭等においても我が子にとつても最も大事な肉体について病気になるれば上を下への大騒ぎをやりながら、学校においての体育等については全くのうわの空。数学や国語、理科等には神経質ほど気を配りながら学校体育については一顧だにしなかつたと言うのが戦前までの学校教育の実態ではなかつたらうか。

私はいつも思っていた。人間の精神について精神科学が成立して体系的、組織的な追求、探求がなされているならば当然肉体についての同様な究明もなされ、精神の面においての科学、そして精神の面に力点をおいての芸術、哲学が存立するように肉体の科学、そして肉体の芸術肉体の哲学も存立すべきであると。

ところが世界第二次大戦後我が国だけの例をとって見てもあらゆる面において人間の肉体と言うものが充分に尊重されるようになり特に教育の面において、病める損われた肉体の問題だけでなく正常な健康な肉体の組織的体系的な究明がなされつつあることは当然のこととは言いながら喜ばしいことである。更に戦前において体育スポーツといったら只々無味乾燥な徒手体操と兵式教練に終っていたものが終戦後の体育スポーツのいかに飛躍向上し、かつ又その保健養護の面においても、画期的進歩をしたか思いなかに過ぎるものがあると思う。全く最近の児童生徒は戦争前の号令をかけられ、強いられた体育でなく、嬉々として音楽のリズムにのり、芸術的でさえある遊戯、スポーツに楽しい生の悦びを味わっている。戦前のかたくなな体育の時間しか知らない我々には今の体育は極言するならば地獄と天国である。又我々が終戦後のスポーツの大会、例えば国体とかアジア大会等に出席して見て痛感することは、最早人間の肉体の演出、表現するスポーツは旧概念によって考えられたような単なるスポーツではないと言うことである。例えば平均台において、平行棒において、さては自由な徒手の体操においてリズムカルにそしてすばらしい均齊的な調和をもって行われる若い女流選手達の演技を見てみると、それはさながら肉体の織りなす具象の芸術である。又機械体操において鉄棒、リング等に人間技と思われぬ神技を演ずる若人の演技には人間の肉体力の限界概念と言うものにふれてゆき、人間の不撓の努力、不断の研究たえざる創意工夫によって、人間の肉体の極限と思われた領域も更に躍進をとげてゆくのだと言うことを直覚せざるを得ないのである。ここにおいて我々は肉体の哲学と言うものにもふれてゆくのである。

私は今にして、従来考えていた肉体の科学肉体の芸術、肉体の哲学と言うものが眼前に建設されつつあるのを見て、感激を新たにすると同時にこれに向って微力ながら一臂の力を惜しまぬものである。

次の強いステップを

前会長（前高校長） 野村吉之助

惨澹たる敗戦のあとであるにもかかわらず、この十五年間における青少年の体位の向上は全くわれわれの目をみはらせるものがあります。いろいろな要因が考えられましょうが、その大きな一つに民主的、合理的な近代体育の実践ということがあげられると思います。戦前、学校教育の中で軽んぜられ、もしくは誤られていたかに見える体育が、その本然の意義を確立して機能を発揮しつつあるのだとも言えるようです。

高校必修教科としての体育を魅力あるものたらしめる使命をもって発足した高等学校体育連盟の、現在までの十年間の歩みを見ると、全国の高校体育人の絶えざる努力によって今日の姿にまで到達したのだとつくづく思います。その間、さまざまの隘路や障害の多かったことを知るものとして改めて関係者各位に敬意と感謝とを捧げずにはおられません。

思えば、高校の体育については、まだかずかずの解決すべき問題や欠陥があることは否めません。すべてこれから取組み、解明し、克服してゆかねばならぬ課題であります。ここに、十周年を心から祝うとともに、本連盟が更に一層の新しい研究と実践とに踏み出してゆくことを念願し期待してやみません。

発展を祝して

前会長（前橋市教育長） 中 村 武 雄

わが群馬県高等学校体育連盟は結成以来目覚ましい発展の歴史を築いて、このたび機関紙「高校の体育」十周年記念号の発行を見るに至ったことは、本県高校体育振興のためまことに意義深く御同慶にたえません。かえりみて本連盟発足当時を想起し、まことに感慨無量なものがあります。

戦後の虚脱と窮乏の中に混迷する若い生徒達のために、明かるい希望と気魄を与えてくれたものは何といってもスポーツであったと思うのですが、戦時中ただ戦力にだけ奉仕させられて来た体育はほとんど運動や競技を衰減させて、これが復興には非常な困難がありました。とくに物資の欠乏から完全な用具は容易に手に入らず、また食糧事情から練習にも容易ならぬ苦労があったわけでありますが、指導者は選手生徒と共によくこれらの悪条件を克服して各種スポーツの復興は年と共に目覚ましくなってきました。もとより競技であって見れば校内だけでなく他校との相互切磋の機会や方法等一そう適正なものとするため全国的研究協力態勢の必要が叫ばれるに至り、本連盟設立の機運が熟し、昭和二十三年高等学校新制度の実施と共に発足を見るに至りました。申すまでもなく現場指導者の自主的な研究協力の組織として、新教育の趣旨にそった高校体育の正しい在り方、各種運動競技会の運営等真摯な研究と努力が続けられることになりました。

当時私は本連盟運営の中心的責任者たる理事長茂木正夫君の在任校の校長ということで初代会長の重任を仰せつかったわけでありましたが、柄でもない私の微力なこととはもとより、経費さえも不如意なこの連盟の運営を軌道に乗せるまでの幹部役員の苦勞はなみだいていのことではなかったと思います。私は翌昭和二十四年に任をはなれることになりましたが、その後における本連盟が幹部役員を中心とする関係者の真摯な協力運営により年と共に業績を挙げて、高校体育群馬の声価を今日に高めるに至りました。

私はこの記念号発行にあたり本連盟が挙げられた業績と幹部役員はじめ関係者各位の努力に対し、心から敬意を表すると共に本県高校体育の振興のため本連盟の隆運を祈念して止まない次第であります。

十周年を迎えて

前理事長 茂 木 正 夫

高体連が発足したのは、終戦後間もない昭和二十四年四月のことであった。当時はまだ敗戦の痛手のなまなましい時で、社会状態はきわめて不安定な状態にあり、国民もまた何によって現実の生活を生き甲斐のあるものにすべきかその方途を見失い、精神的にも物質的にも不安と動揺の中に明け暮れていた。そのような環境にあって、かつての明治神宮大会が国民体育大会という民主的な名前に生れかわって復興されたのは、まことに時宜にかなった措置であった。灰色のような社会に各種のスポーツは、確かなる芽生えを示し、一般の国民や学生、生徒の間に辛うじて生の喜びを満たしてくる唯一のものとしてすばらしい勢いで普及し、虚脱状態におかれた当時の人々の唯一の光明となり得たのであった。

こうして戦後の荒廃した社会に芽生えたスポーツは、反面、享樂的な希求が正面に押し出されたり、或は技術一辺倒と言うか勝敗のみこだわる傾向が強くなり、ともするとスポーツマンシップが忘れられがちであった。これはスポーツの普及化という面からみれば或程度止むを得ない事態かも知れないが、学生のスポーツの指導に携わる私たちの間には次第に疑念が生じて来て、何とかこれを改善しなければならぬ責務を痛感するようになった。然し滔々として流れる時代の波には抗すべくもなく、仲々これが打開策は考えられないまま時日は経過して行った。

偶々この問題が、全国の体育指導者の間に大きな問題としてとりあげられ、確乎たる学生スポーツの在り方を樹立しなければならぬという雰囲気盛り上ってきた為、本県の学校体育指導者一同はいち早く賛意を表し、この全国的な運動に参画することになった。県体育協会、各種スポーツ連盟、高等学校校長等にも心から協力と援助の笑を示して頂いたので、きわめて自然な姿で現在の高体連の発足をみるようになったのである。

さてこうして高体連は発足したものの、今までは一切の運営や事務的仕事が県体育係や各種のスポーツ連盟の方々に委ねられていた、ところが今度は学校に事務局が置かれ、すべての仕事は現場の教員に託されることになった。こうなると今度は教員の仕事が増重となり、有形無形の負担に悲嘆の声も聞かれたが、幸い会長である学校長の深い理解と有効、適切な指導助言によっ

て、ともかくも本連盟は軌道に乗り、次第に社会体育と学校体育の間にあざやかな一線が画されることになった。昭和二十七年十二月事務局である前橋高等学校の火災によって、発展途上の連盟にも、一抹の不安がもたらされたが、すでに当時は名実共に充実し、盤石の態勢が確立していたので、事務局は支障なく昭和二十八年の四月より現在の前橋商業高校に引き継がれることになった。

一方全国、関東並びに各専門部の組織もがっちり体系づけられ、本県に於いてもいくつかの高体連独自の対外的な行事も開催され、中でも、スキー、バレーボール等の全国大会は忘れることの出来ない収穫の一つであろう。

最初は全日制が主体となっていたが、昭和三十三年には定時制も全員加盟ということになり、高校生の体育行事は硬式野球を除いて完全に一本となり、行事面も運営面も学校の延長であるような好ましい状態になった。恐らく現在の高体連主催の大会及び研究会を観る者は、我田引水になるかも知れないが、一糸乱れない統制と秩序を保ちつつ、きびきびと行動する生徒達の競技する姿に思わず、すばらしい、感じがいいなあと思うであろう。

競技の成績にしておては他にあるのでここに一々あげるのは避けるが、全国大会に出場しての優勝者もかなりの数に達し、中には卒業後この道に精進して日本の代表選手に選ばれ、世界の檜舞台で思う存分に上州健児の意気を外地まで輝かせたものもある。

四年後にはオリムピック大会が日本で開催されることになった今日、恐らく現在の高体連の仲間から必ずや誰かが出場することになるであろう。いや必ず出現する。よく本県人は全国的にながめると体位が劣っていると云って悲感するものがあるが、素質は決して悪くはないということを過去の先輩が立派に証明している。たゆまざる努力と研究を積むならば決して無理ではない。十周年を迎えた今日先輩の築いた輝かしい跡を思い出し優秀な人材の出現を期待する次第である。



県高体連十周年を省みて

理事長 正木徳次郎

昭和二十四年四月に創立された県高体連も十周年を迎え、去る五月記念行事として体育大会を実施したが、県営陸上競技場で大々的に開催しようとした入場行進並に式典は中止のやむなきに至ったことは残念であった。而し十周年を記念として作成された優勝旗五十三旒は優勝校持廻りであるだけに当分残るであろう。

理事長のバトンを茂木前理事長より受継いだのは私が十二年間勤務した県教委より前橋商高へ転任した昭和二十八年であり、それからもう七年の歳月が流れたが、過ぎ去った七年間を省みて感無量のものがある。誕生当時より三・四才までのよちよち歩き時代については茂木前理事長が詳細に苦心談を別記して下さることになっておるので私は私の在任中のことについて幾つかのことを書いて見たいと思う。

昭和二十八年頃は高体連も一応落着きを見せ、一般社会でも高体連の位置が認められ、平和の波がおしよせて来た感じがした。この七年間、本連盟の内部に台風は勿論大波もおしよせず、全般的に平静な毎日であったように思われる。これは実に役員各位の全面的協力と融和の賜であつて感謝の言葉もない。他の社会、職域団体等には内部抗争やら又腕力をふるう斗争もあることを耳にするが、本連盟にはかつて一度もない。明朗なそして団結の連盟であることを声を大にして叫ばずにはいられない。

而し悩みは幾つかあった。高等学校野球連盟との合併問題が全国会議に創立当時より昭和三十年後まで毎年議題として必ず提出されて論議された。しかしその効果なく、とうとう合併されずに一応落着いたかたちとなつてしまった。高校スポーツの中で硬式野球のみが独立して単独の団体を結成してしまつたのである。このことの是非は今論じようとは思わない。ただこの二、三年会議に一口も出なかつたことだけは報告しておき度いと思う。

次に話題に上つた問題は文部省の「学徒対外試合の通牒」である。終戦直後のスポーツの乱立と無統制を憂え、スポーツを学徒に対して教育的に実施させるため設立された本連盟は、文部省の通牒の趣旨と学徒スポーツのあるべき姿と相反する点を統制しようと苦心した。その一つとして新聞社共催の問題である。長い歴史を持つ高校野球と新聞社の関係について結論の出るまでに七、八年の長年月を費し一昨年始めて次のような結論が出た。即ち新設されたスポーツ審議会が教育的であると認めたものは共催を認めるということになり、春、夏の高校野球は高野連と毎日、朝日の両新聞社と共催すること、冬、秋の高校野球は毎日、朝日の両新聞社と共催すること、四、五月の両新聞社と共催すること、その他の大会は新聞社と共催することを認められた。時代の流れに押された感じがする。その二つとしては大会の回数点である。乱立気味の大会の統合、廃止等は他の団体やら新聞社が入っている場合、仲々困難であるが五、六年を費し、通牒の「全国大会一回、ブロック大会一回」の線ですっきりされた感じがする。本県に關係する行事としては両毛大会、北関東大会、東日本大会というものが廃止された。

その他、全国大会、ブロック大会の開催要項が確立され、各スポーツ団体との関係も円満になり、最近の大会開催日は摩擦がなくなり誠に喜ばしいことである。

今後の問題は四年後に迫った「東京オリンピック」の強化のために次代を背負う現高校生の練習方法であろう。高校生のスポーツ強化を計る体協スポーツ振興策と教育との両立を願う文部省、高体連とが如何に手を握って実施するかが、協議の中心になると考えられる、思いを本県に転じて見よう。

昭和三十一年に永年未解決のままだった定時制並に分校の全面的加盟が実現したことは私の最も喜びとする所である。その年より定時制の県下選手権大会が開催され、定時制生徒より喜ばれている。昭和三十年より高校保健体育科研究会を開催する。当時大会運営にのみ主力を注いでいたと一部より批難されていたが、正課の研究を目標にして毎年二校宛実施して頂き、体育科教員の研修を図って本日に至っているが、世の評判はよい。今迄実施した校名を挙げ、感謝の意を表したい。

- 昭和三〇年度 前橋高校、高崎女子高校
- 昭和三一年度 富岡高校、太田女子高校
- 昭和三二年度 利根農林高校、渋川女子高校
- 昭和三三年度 館林高校、高崎市立女子高校
- 昭和三四年度 桐生工業高校、桐生市立商業高校

この他、新規事業、並に予算面を挙げれば、各種目の講習会の開催、国体視察員の派遣、定時制校の映画の巡回、高体連旗の改訂等である。国体視察員は予算があれば十名前後派遣したいものである。

吾が国体育大会中、規模、内容共に最も充実されている国体を見学することによって、施設、運営、技術等参考になること多大であると信ずる。

昭和三十一年に会費は三十円(定時制・分校半額)に値上げされたが、近き将来、四十円に値上されることを期待する。他県の状況を見ても大半が値上げされつつあり、値上げされることによって、大会参加費も半減されるであろう。この件について充分検討して頂きたい。

以上過ぎ去った歳月を省みて、いくつかの問題を述べ、私個人の希望を述べて来たが、本年十一才になった高体連を立派に成人するよう皆様の全面的協力を願って筆をおきます。

(附 録)

- 一、本県に於て実施された関東大会名
- (一) 昭和二七年度 陸上競技(前橋)
- (二) 昭和二八年度 体操競技(高崎) 軟式庭球(桐生)
- (三) 昭和二九年度 バレーボール女子(前橋)
ソフトボール(高崎) ラグビー(前橋)
柔 道(伊勢崎)
- (四) 昭和三〇年度 バドミントン(桐生) スキー(片品)
全国大会
- (五) 昭和三一年度 剣道(高崎) バレーボール(女子)(前橋)
- (六) 昭和三二年度 卓球(前橋) 相撲(前橋) レスリング(館林)
登山(尾瀬) 自転車(前橋)
- (七) 昭和三三年度 バレーボール男子(前橋)

ソフトボール(桐生) ハンドボール(前橋)

(ハ) 昭和三四年度 軟式庭球(高崎)

(ウ) 昭和三五年度(予定) バスケットボール女子(高崎)

水上競技(前橋) レスリング(前橋)

ボクシング(高崎)

二、本連盟の役員をして頂いた方々の御名前を列挙し感謝の意を

表します。(括弧内は現職)(○印現役員)

会長 中村 武雄(前橋市教育長) 大村 武男(県指導課長)

野村吉之助(前高校長) ○松岡重三郎(前商校長)

副会長 森野 善一(共愛) 岩根 義成(桐高校長)

富田 俊一(安中原市町) 平野 武男(太田高校)

○田中友次郎(高女校長) ○大島礼爾(前工校長)

茂木 正夫(前高教諭)

理事長 茂木 正夫() ○正木徳次郎(前商)

常務理事 塩原(洩高) 中沢(中高) 高坂(伊女) 森 (伊高)

萩原(群大) 上田(県体育課) ○飯島(館高)

○新井(太高) ○須藤(高商) 沢田(安高) 北井(高女)

町田(富高) 坂爪(洩女) 林(利農) 池谷(盲学校)

井上(前市女) 市川(他県転出) 浅見(勢農)

田村(高商) 茂木(前高) ○神谷(伊女) 松井(前工)

古川(桐女) 大橋(高工) 富田(松高) 坂爪(沼女)

○山口(沼高) ○下田(前女) 津田(伊工) 天笠(太女)

○武井(富東) ○横山(前工) ○木暮(太高)

木村(高工) 根岸(洩高) 反町(高商) 福島(中高)

専門
委員長

阿部(佐農) ○松川(勢農) 本間(桐工) 坂東(高商)

○萩原(高市女) 窪庭(蚕糸) 宮下(藤高)

○高橋(洩高) ○高橋(洩女) ○高橋(洩工)

○神辺(吾高) ○新島(藤女)

陸 上―下田(高工) ○田村(高商)

バスケットボール―清水(高々)

バレーボール野口(前女) 須藤(高商) ○多胡(前高)

庭球―高橋(洩女) ○田部井(前工)

卓球―○石井(前高) ラグビー―富田、○岡田(高々)

サッカー―○飯島(館高) ソフト―沢田(安高)

池谷(下高) 栗原(太女) ○関田(桐市商)

ハンド―○町田(富高) 水泳―○津田(伊工)

体操―松井(前工) ○井上(前市女) スキー―○林(利農)

バトミントン―上田(県体育課) 古川(桐女)

○奥泉(前市女) スケート―○塩原(洩高)

柔道―森(伊高) ○今井(高々) 相撲―森(伊高)

○浅見(勢農) 松川(勢農) 山岳―川浦(大高)

○大隅(前商) ダンス―高坂(伊女) 阿部(藤女)

白田(前女) 井上(桐女) 佐藤(高女) ○下山(桐ヶ丘)

剣道―吉永(高工) ○堀越(高工)

軟式野球―(全) ○萩原(高工)

軟式野球―(定) ○竹内(前工)

総合部―茂木(前高) 大橋(高工)

レスリング―○久保田(館高) 弓道―○磯貝(富東)

事務局員

自転車―茂木(前高)○塩原(渋高)
 ボクシング―○大橋(高工)
 ウエトリフティング―○大橋(高工)
 茂木、石田、多胡、内田(以上前高)池谷(盲)
 萩原(群大)白田(富高)○正木○竹田○高橋○山本
 ○福島(以上前商)

三、桑原体育賞授与者

最後に過去に於て立派な成績を挙げた選手諸君の名前を列挙して見よう。昭和二十七年より全国優勝又はそれに準じた成績を挙げたものに対し桑原体育賞を授与する規程があるので、表彰された方々の名前を年度別に記載する。

昭和二十七年 園部 勝(沼高) スキー(回転)
 林 和子(沼女) スキー(〃)
 滝 作子(館女) 陸上(走高跳)
 小杉 卓司 自転車(五千米)
 福村、斎藤 〃(四千団体)
 小杉、土屋 〃(追抜)
 桐工ハンドボール部 ハンボール
 昭和二十八年度 宮沢 登(前商) 卓球
 桜井 栄次(伊工) ボクシング
 林 和子(沼女) スキー
 滝 作子(館女) 陸上(走高跳)
 高商陸上競技部 陸上(八〇〇米リレー)
 高々ラグビー部 ラグビー

〔註〕一緒に表彰された高橋ヨシエ選手(中大)も元会員であった

昭和二十九年度 八木原正敏(館高) レスリング

伊藤 勉(館高) 〃
 レスリング部 〃

今井ふじ子(前市女) 卓球(ダブルス)
 立石 一枝(前市女)

高崎技芸バレーボール部 バレーボール

国体自転車高校チーム 自転車
 (深町、石倉、近藤、田中)

昭和三十〇年度 金子 宗平(高工) 陸上(円盤投)
 増尾 柁美(高市女) 〃(八〇米H)
 五種競技

加藤 恭子(前市女) 卓球(ダブルス)

時沢 幸子(前市女) 卓球(ダブルス)

神藤 稔(館高) レスリング

小塚 健次(〃) 〃

田口 高貴(前高) 自転車(一、〇〇〇米)

高々ラグビー部

〔註〕林和子選手(水上ク)四年連続表彰さる。

昭和三一年度 大橋 弘次(館高) レスリング

岡田 七郎(〃) 〃

〔註〕元会員であつた相原信行(日体大)清水健(立教大)

高橋ヨシエ(中大職)も同時に表彰される。

昭和三二年度 小磯 晴彦(館高) レスリング

野口 盛弘(富高) 弓道(大的…団体)

白石 幸一

高橋 寛

「註」金子宗平(日大) 田村武雄(群大) 相原信行(日体大)
園部勝(国鉄)も表彰される。

昭和三三年度 川島 武(前高) 体操(徒手)

清水 利次(伊高) 自転車(道路競走)

加藤 初枝(渋女) 陸上(槍投)

和田真利子(〃) スケート(五〇〇米)

「註」渡辺愛子(群大体操) 金子宗平(日大)も表彰され
る

昭和三四年度 上武洋二郎(館高) レスリング

岩上 武三(〃) 〃

矢ヶ谷政幸(館高) 〃

久保村 寛(前商) 自転車一、〇〇〇米

国体高校自転車チーム
(久保村、宮一、稲村、原) 〃 (団体追抜)

今井 正則
松井 照光
牛込 栄 (富高) 弓 道

「註」田村武雄(陸上) 田中精(専大―自転車) 中沢邦夫
(日体大―庭球) 門倉文子(専大―スケート) 大橋
弘次(レスリング) 小塚健次(レスリング) 相原信
行(体操) 諸田みや子(バドミントン)等数多くの
先輩が表彰される。

随想

寒毛卓立(さむけがよだつ)

県立高崎女子高校 北井柳太郎

昨日を送り今日なる日を迎え、そしてその今日も時ならずして永
久に私達より去り逝こうとしつつある。かくて県高体連もまた十周
年という年令を重ねてきたのである。私達は此の時、此の際、自ら
を反省し、将来への指針を誤らしめないようにしたいものである。
ここでいう自らとは自分自身のことと高校体育指導者としての私達
仲間自身のことと県高体連自身のこととを含めているのである。教
師という職場に立ってから、体育指導者という実践的研究の場(sta-
tion)の構成に努力するという立場に立ってから、私達が教師と
して、体育指導者として真であり、美であり、善であると考えて生
徒に指導し、実践してきたことが果して、生徒にとって真なるもの
であり、美なるものであり、善なるものであったであろうか。同時
に私達が教師として、体育指導者として悪であり、無価値であると
考え、これを禁じて嫌らったことが果して生徒にとって不必要な嫌
悪すべきことであつたであろうか。生徒の中には直線的曲折をもつ
て形づくられている性行、曲線の調和をもつて形づくられている性
行と種々な型の性行の者がいるが、教師が、体育指導者が自らの好
みの型の性行によって、これら生徒の性行を云々することが果して
正しいことであろうか、そしてまた許されべきことであろうか。

人は深きが故に矛盾し、強きが故に悩み苦しむと云われている。矛盾に悩み、煩悶に苦しむだけに、その人は真面目であると云われている。私達が「先生」と云われる生活の事務化に麻痺し、そこに矛盾が生じてても矛盾を感じず、何の苦悩も味わうことなく、「けが無きが名馬」という諺を安易に解釈して、その日、その日を事無かれ主義で過ごして行くというような事実があったとしたらどうであろうか。

運動場に、体育館に、教室に、プールに、雪山に、氷盤に自らの修養と教養の不充足という寂寥感を痛切に感じたとしても、自らの生活を後悔したくはないと思う。後悔の念が起るのは、自らの力を信じ過ぎるからであり、自意識過剰の現われではなからうか。自らのあり方につき後悔の念を懺悔（ざんげ）の念に転ずることが必要なことで、そこにはじめて「ある姿」から「あるべき姿」への道がひらけるのではなからうか。

体育全般は勿論、特に高校体育の振興、推進、充実に對しての行政指導のあり方は不充足な環境と条件のもとに現場の実践的研究と指導に努力している高校体育指導者の将来性は。教科としての保健体育科の指導実践上の問題点（特に新指導要領なるものへの移行措置上の諸問題）の解決は。女子高校における男女指導者の協調、協力上の問題点とその解決は。クラブ活動の実態と對外試合、特に選手権大会との問題点等々。時は惜しみなく逝く。私達は私達なりに仕事を残してきたけれども、現に何が、その証（あかし）として残されているだろうか。このような状態でよいのであろうか。私達は県全体の体育のあり方は勿論、特に高校の体育のあらゆる現実から、

ものの方、考え方を修正し、修正されたものの方、考え方によって将来への誤りなき指針を見出して行く必要はないだろうか。

ゲーテの言葉を想い起す

「ローマへ着いた日以来、自分は二度目の誕生日を、即ち真の再生を得たと考えている。」「今や自分にとって新たな時代が始まった。」「何と自分は元の自分に似ていることだろうか。」「実際、ワイマールの自分とパレルモの自分との間には非常な隔りがあると思ふ。」「自分はやはり同じ自分であるが、しかも骨の髄までも変化したように思われる。」

—— 県高体連十周年を迎え、本県体育のある姿と、あるべき姿とを考え感深きものがある。私達は過去よりも将来を、註釈よりも開拓を、空虚な恫喝よりも断乎たる決意を。

私達の斯かる生活態度こそ、躍進する高体連の個性創造と発現とを可能ならしめるものと信じている。そしてまたこのことが本県体育のあるべき姿の実現を可能ならしめることに大いに役立つことになるのではなからうか。——

私の体験記

高工先輩 相原 信 行 (体操)

私は中学校を卒業するまで体操競技と云うものを知らなかった。これは田舎に育った関係もあろう、しかし高等学校に入學する早々体操に非常な興味を持つようになり部に入部する事にした。

当時私は大変体が堅く恩師大橋先生に、そんな堅い体で体操は出来ないといわれたが何とも仕方なかった。又ジャンプ力にも大変乏しく跳箱の一〇センチ位の高さのものが跳べず一日五〇回位跳ばされた事もあった、御蔭でこの二点は現在に至りやと人並になった。

次に体操は技が出来るかと云うだけでは物にならない。人が見て美しいという感じが出せなければならぬのである。この点私は身長もあまりなく脚は典型的なO脚である。身長の問題は仕方ないにしてもO脚だけは直さなければならぬと現在まだ苦しんでいる状態である、次は感覚の問題であるが、これには個人差があり私は大変にぶい方である。故に人は四、五回で出来る技でも自分には十回位やらないと出来ない事も多い。これは種目によっても異なるが全般的にいえるであろう。このような点は回数によって補って行くのであるが、結果的に見ると早く覚えた者よりもかえって回数により体得した者の方が試合に強い。私が苦心したのは基礎練習が充分出来ていなかった事である。特に振が成って居らず、鉄棒運動には泣いた。

これは体が堅ったのと、力に頼り過ぎていた為に脱力運動が出来なかった原因であろう。

練習と生活

私は練習イコウル、日常生活と結びつけた。一般に練習と云うと、体育館で器具を使って行なうものである、と考えがちであるがこれは誰も考える事であり又行なっている事であろう。一日は二十四時間あるが、その内練習する時間は平均して二、三時間位である。睡眠時間を充分取っても、後十何時間は残る、しかしその生活がふしだらであつては、三時間 練習も無になつてしまふ結果になる。人の上に立とうとする者は、かならずそれ相当の苦勞をしている。これは体操ばかりに限らない。人の体には色々特徴がある。普通個人差と云っているが、その人の体の部分に於てかならず、強い所と弱い所とがある。もしないとするならばその人は非常に運動を行なう上に、理想的な体の持主であろう。しかし一般に云つて、大変体が堅いのではないだろうか。運動家に取つて柔軟度は切り離せない関係にあるが、特に体操には必要である。倒立一つにしても、すつきりとした、安定性のある、美しさを出す為には、力と柔軟によつて見出しされる。歩く事一つでも美しい歩き方が望ましい。特に女子に於ては直接平均台等に関係して来る問題である。現在日本の生活では座る事が多い。この座り方にも色々関係が出て来る。例えば正座をする事により脚力が増し足首の柔軟度と共に、O脚の矯正にもなる、ただ一つ弊害となるのは、美的観念から見て膝が出る、と云えるかもしれない。

基礎練習の不足

現在体操競技は非常な成長ぶりを見せて来た。中学、高校生に愛好者が増したと云う事は、大変嬉しい限りである。体操競技に於ては種目が多く、男子六種目、女子四種目が一応に出来なければならぬ。二、三種目しか出来ないのでは困るわけである。一般に、すぐ試合と云う事を目標に練習しがちであるが、あまり試合に重点を置く事によって、基礎的な練習の段階を踏まず、高度な種目に取りかかる結果となる。その為に、かえって高度な種目も覚えられず、怪我をしたり、次の新しい技が出て来ても覚えにくい。もし出ても安定性のある美しい技が出来なくなるであろう。よく十年選手と云うけれども、体操に於ても全々見た事もなければ、新人が急に現われると云う事はあり得ない。なぜならば、小さな試合から、少しずつ成長し始めて自信をつけ、国際試合にまで発展して行かなければならぬのである。

練習段階

一、準備運動 色々な運動競技を行う上にも準備運動は欠く事が出来ないであろう。この準備運動にも、その種目によって、独特の方法が取られているはずであり、体操に於ても行われている。準備運動のねらいは、各関節の柔軟と、筋肉の活動力を促進させる為のものであると同時に、怪我の防止と云う事が大きなねらいである。体操では腰の柔軟を中心に、肩関節、手首、足首、アキレス腱を伸ばす運動や、又腕立腹臥の屈伸運動を行い、筋肉に力の刺戟を与える、と云ったものが行われる。

二、マット運動の必要性 体操を行っている者であれば誰でもマット運動を行うであろう。これは柔道であれば最初に受身を行うの

と同様、基礎練習の一つである、ここで私が云いたいのはこのマット運動に充分時間をかけ、みっちりやって欲しい、マット運動には他の器具を行う上に、欠く事の出来ない所の要素が、多分に含まれているからである。柔軟性、転回の感覚、返動の使い方、捻りの感覚と云ったような体操になくはならない所の平衡感覚敏捷性、巧緻性を養う為の最も早道であると云えるであろう。

三、器具に於ける練習段階 第一にその器具に対しての運動の性質を早く知る事である、例を取って云うならば、鉄棒運動では振る事(スウィング)が必要である、これは鉄棒運動の基礎を成して居り正しいものを覚えなければならぬ。鉄棒の種目の中にも色々な技が含まれているが、蹴上り一つにしても色々な練習段階がある。最初に、足掛上り、これは両手の外に掛けるのと、両手の中に掛けるのがある。次に股掛上りを行う、この時の足の運びを見て見ると鉄棒に掛けた方の足は中貫を行い、反対の外の足は蹴上りを行つて居る。これだけ出来れば、後は簡単に蹴上りも出来る。又同じ蹴上りの中にも、長振と、短振がある。この様に一つの技を覚える事によって、その技に関連した種目がたく山出て来る。技が大きい、小さいにしろかならず正しい練習段階を踏んで行くと云う事は忘れてはならない。

種目の選択について

色々な自由種目等を選ぶ場合、人にはかならず、個性がある。上半身が特に強い、又非常に体が柔軟である、腕の押しが強い、引きが強い、身長が大きい、小さい等の条件によって、かならずその人にマッチした種目があるはずである。何か人と異った自分独特の技を身に

つけ、個性を生かし、始めてよい結果が得られるものではなからうか。

矯正運動と時間の関係

一口に矯正と云うと体力増強の為の強正のみを考えがちであるが、ここでは、体の癖を直す矯正を特に取り上げたい。体操競技に向く体、理想的な体と云うのは、身長も人並で、体が大変柔軟であり、かつ筋肉の収縮力が強く、必要に応じて力も出せる体の持主である。故にこの理想に近づく為には色々の適正な方法を取らなければならぬ。現在私は起床を六時半としている。睡眠時間は、八時間取っているが、起床早々体育館に行き一時間の矯正運動を行なう。

これは体育館でなくても充分間に合う程度のものであるが、便利な為である。私の場合大変体が堅く、特に弧関節が堅い。又O脚を直す事、足首を伸ばす事と云ったような柔軟運動が第一である。第二に引が弱い為自転車チューブを利用して引きの練習、第三にジャンプ力をつける為に縄跳を行なう、此等が目的である、続いて午後の練習となるが簡単に強い運動に入って行ける利点がある。前にも述べたように人体には個人差がある。起床後早々少しでもよいから、短所を少くするよう努力する必要があるであらう。ソ連の学説にも一日二回朝と晩に刺戟を得るのが最も有効的であると云って居り、体の堅い者は、柔軟、力のない者は補強運動等を行っているようである。よく体操は芸術であるとまで云われるが、此等全てが整って始めて美しさが表現出来るのではなからうか。運動神経が敏感に働くのは起床後五、六時間経たなければならぬとも云われて居るが、うなづける点も多い。運動の性質と変化、ある一つの運動を起そうとする場合にはかならず重心の移動を行なうであらう。これは運動の

大、小によって変化をするのは当然である。人の体で一番大きな変化を起せる部分は腰であらう。通常アフリが速い遅いと云うのは腰の反動を意味するのであって、反動の使い方に二つの方法がある、曲っている腰を伸ばすのと、伸びている腰を曲げる場合とがあって此等はほとんどの運動に当てはまると云ってよいであらう。

高校生活を回顧して

埼玉大学経済学科 川島 武

高校を押し出されてから早や一年を経過し、時の推移の激しいに今更ながら驚かされる次第です。喜びと苦しみ入り交った三年間の高校生活も今や、一步一步なつかしい思い出としての条件を具備しつつあります。高校生活に於て運動の占める位置は、勿論高等学校の本来的使命である勉強という事に比べて第二義的な意義を持つべきものでありましたが、それはそれとして又別の意義に於て私にとっては非常に大きなものがありました。サークル活動の果す役割として特に人格的な面が強調されると思いますが、高校が大学の予備校化の傾向をたどる今日、その生活が殺伐なものとなればなる程サークルの持つ意義はより貴重なものになると思えます。サークルの重要性について高校から直接社会に雄飛する者に関しては是非を問うまでもないが、大学進学者にとってはその障害が、懸念され私もその問題で悩んできた一人ですが、結局は程度問題であって、サークルと学習の比率をどの程度にするか、各個人個人の実

情に即応して決めれば障害と効果をプラス・マイナスして十分にプラスになし得ると確信します。しかしスポーツは多くチーム形式をとるが故に一旦そのクラブに属してしまうと、チームの団結ということに束縛されて否応にもサークルの比重が大きくなってくる場合があるかも知れない。この時いかにしてその苦境を打開するか多いに悩まねばならない。しかし私達の若さと体力をもってすればこの位の悩みには十分耐え得る筈であるし悩み損に終ることはない。その結果、苦しみに耐えていく強靱な精神力と体力が養われるからである。この効果は、将来その人がどのような道に進もうとも、はかり知れない役割を持つものと思う。温室の草花は外見はいいが、その内部にははなはだ脆弱な要素を含んでおり、寒風吹きすさぶ外界に投げ出された時、到底耐えて行けないだろう。このたとえが人間の場にも当てはまると思う。あまりノホホンと成長してしまうのも考えものである。今私は忙がしく目まぐるしく過ぎた高校生活から解放された立場にあるから、こんな無責任なことが言えるのですが、現在そのよう悩みを持っている人に対しては唯、頑張ってくださいというより他はない。問題は教育制度の欠陥にあるのだから。私はクラブ活動に於ても学習に於ても、おおよその目標を立てたら後は「その場その場を確実に」ということを、つまり条件の許す範囲に於て最高の効果をあげるといふ至極、当り前の事をモットウとして現在に至っています。最善をつくしたという事はその場その場の場合最高の効果が集積されたものに他ならないからです。私にとつて体操はオアシスのな、存在でした。心の底の底まで打ちつけて付き合える同僚、親身になって世話をしてくれる先生や先輩、これらはサ

ークルならでは味わえぬ体験だと思えます。特に体操は敵味方の意識が少いせいか他校の者ともすぐに相助け合える友達になれるという事は一つの利点でした。又体操の試合と共に方々を旅行でき、見聞を広めることができた事も見逃せない大きな意義があり楽しみでした。二年の時の全日本大会が秋田市、三年の関東大会が宇都宮、全日本が長崎、国体関東ブロック予選が水戸、国体が富山と、いろんな所へ行くことができました。特に印象に残っていることは、はからずも徒手で優勝できた長崎の全日本大会の時、大会三日目の八月九日原爆記念日とぶつかり、試合中一時全競技を中止して、折からサイレンや平和の鐘の鳴り響く中を、犠牲者の冥福を祈りつつ、再びあの悲劇を繰り返してはいけけないと敬虔な気持ちで黙禱したことや、国体での富山県あげての歓迎、町内会の人々の親切、帰ってくる時には万才三唱までしてもらって多に感激したことなどです。長崎大会の時私はいそでできたこともない腫れ物の為に、規定種目修了後、軽い手術をせねばならぬはめに落ち入り、発熱してしまつて、遂に幸運の女神に見離されてしまったのかと思つたのですが、今度は逆にその事によつて、郷土の代表であるという責任から逃れる一つの依り所ができたような気がして（このような考えは好しくありませんが）腫れ物は痛かったけれどもかえって気分的に楽になったような気がしました。こんな事が案外私の優勝を助けたのかも知れません。とにかくこの三年間、体操を通してやはり楽しかった思い出の方が多かったと思います。終りに皆さんの活躍と群馬県高体連の発展をお祈りして筆を置きます。

一九六〇年二月十四日 （於浦和）

中央大学後楽園校舎庶務課

浜松ヨシ江（高橋）

群馬県高体連発足十周年を記念して編集される「高校の体育」にのせる原稿の御依頼を受け、この所、書くということからすっかり遠ざかっている私は、さて何を書いていいのか迷ってしまった。内容については制限なしとのこと、そうなるの後輩の為に、いろいろな体験談も書きたい。オリンピックの思い出も語りたい等、欲が出て、かえって仲々思うように書けなくなるもので、つい期限ぎりぎりあわてて書くようになってしまった。

私が南半球オーストラリア、メルボルンでのオリンピック大会に参加してから早くも四年、今年は第十七回ローマオリンピック大会の年である。すでに候補選手達は各地で合宿練習を行い、代表への栄光をめざして頑張っている様子、更にオリンピック関係のいろいろな情報もマスコミを通じて賑やかに伝えられ、いよいよオリンピックへの関心が高まろうとしている。この原稿を書くのに資料にしようと思つて、当時のスクラップやら写真、外国選手との交換バッジ、各国の記念品等を取り出して見た。忘れていたようなものが沢山出て来て、それぞれ眺めているうちに、さまざまな思いが胸に湧き、しばらく時のたつのを忘れてしまった。オリンピックという世紀の祭典に、日本代表の一人として参加したことが、今では夢のように思われる。

私は農家に生れ、土や草の香りと共に成長した。小学校四年生の時、太平洋戦争が始つたので、何となく恐ろしい追われたような毎

日だった。その頃は陸上競技というものがあることさえ知らなかった。代用食で過す日も多く、私はギリギリスのようにやせた、のっぽの子供だった。特に夏になると食欲がなく夏負けしてふらふらしていたものである。しかし運動は好きで、運動会の「かけっこ」ではいつも一番、チーム別のリレーでは、選手に選ばれたり、又体操の時間にみんなまで走巾跳をやった時にも、一番跳べて先生にほめられたのをおぼえている。それが、私に走巾跳という種目を選ばせたのかも知れない。

旧制の前橋高等女学校（現在の前橋女子高校）に入学してわずか、八月の空襲で、学校は全部焼けてしまった。その後しばらくは桃井小学校を借りての二部授業、理研工場の一部を借りての授業等、不便な日を過したものであるが、その頃の思い出はやはり陸上競技につながっている。入学してしばらくは何か運動をしたいと思いつながらも、何をしてもいいかわからずピンポン等をしていたが、入学後仲良しになった友達にすすめられて、陸上部に入った。しかし練習の苦しさなど全然考えず、走るのが早いということだけで入部したので、入ってから練習がつらく、さぼることばかり考えていた。初めて大会に出た時は、走高跳だったが友達と二人だけ最初に失格になり恥かしい思いをしたことをおぼえている。その頃、上級生が砲丸投で活躍しはじめ、東西対抗に東軍代表として出場出来ることになり、私も先生と一緒に見学に行った。初めて大きな大会を神宮競技場（今の国立競技場）で見たあの時の感動と、その後、練馬の中大グラウンドで見た雨の日の山内リエ先生の走巾跳は、今でも忘れることが出来ない。この頃から私には欲が出て来た。本を借りて読んだ

り、強い選手の跳び方を研究したりするようになったし、練習も自分から進んでするようになった。そして高校三年生の時、鹿児島県全日本選手権で、杉村、吉川両選手について第三位に入賞することが出来た。この時のうれしさは格別、ますます陸上競技への熱が高まり、高校を卒業すると両親にお願いし、親戚等の反対を押し切って大学へ進んだ。子供の教育に熱心な両親のあたたかい理解が私をオリンピック選手にしてくれたと言えるかも知れない。しかし大学に入って一年間は、環境の激変のためか、スランプ状態になり、高校時代の記録も出ず、希望にもえて入学しただけに、すっかり悲観してまった。一時は本気で競技を止めようと思ったが、思い直し、その冬初めて徹底的な冬期練習をした。その努力が実ったのか二年生の秋頃から記録がぐんと向上し、全日本IC、全日本選手権等に活躍することが出来た。大学最後の年シーズン、最初から好記録をマークし、フィリップピン、マニラでの第二回アジア大会に日本代表選手として出場、五米六八の記録で優勝、マニラの空に日の丸を掲げることが出来た。初めての海外遠征であったせいも感激も一入、飛行機の旅も快適だった。顔一ぱいにヒゲを生やし、長い髪を頭上でハンカチに包んで結んだ印度選手が珍らしく、一緒にカメラに納まったりした。宿舎は女子大学であったが、各国選手がそれぞれの国の服装で歌や踊りを披露したりなごやかな交歓風景が見られた。フィリップピンでは特に果物のおいしさが忘れられない。バナナ、マンゴー、パイア、そしてパイナップル、……しかし御飯はまずかった。外米だから……。第二回アジア大会での日本選手の活躍はすばらしく、女子は大部分の優勝をさらった。表彰台上で故マゲサイサイ

大統領から賞状と賞品を授与され、「君が代」の吹奏と共に掲げる日の丸を見たあの日の感激は忘れられない。

こうして中央大学を卒業した私は、二年後のメルボルン、オリンピックをめざして、母校に残り、上司や同僚のあたたかい理解の中で練習を続けた。しかし学生時代とは異なり、時間的な束縛の中で、また生活もすべて自分自身でやらなければならず精神的にも非常に苦しかった。しかし、今思えばあの頃の生活は生き甲斐のある充実したものであった。一つの目標に向かって情熱をもやせることはすばらしいと思う。こうして、昭和三十一年のメルボルン・オリンピック大会には、標準記録を破る五米九三をマークし、危げなく代表に選ばれ、参加する榮譽を与えられた。競技者として悔いはない。ただオリンピックで実力を発揮出来ず予選で落ちたことは、今思っても胸がちぎれる程口惜しい。あの時こうすればよかった等と考え出すと残念でたまらない。予選さえ通っていたら、そして調子さえよければ入賞も可能だったかも知れないのに、僅か二厘の差で失格するとは何とも残念であった。

私がメルボルンに向け出発したのは十一月九日、第二陣としてレスリング、体操、そして小掛選手らとともに、盛大に見送られて、オリンピックに参加するよろこびと「やるぞ」という決意にもえて、勇躍日本を後にした。羽田を発って数時間、美しく染った地平線、ふわふわとただよう雲層を眺めながらマニラに到着、暑さに閉口しつつ夕食をすませ、再び機上の人となる。一夜明けた十日朝はオーストラリアの北端、ポート・ダーウィンで朝食、ここでチェコの選手団と一緒にになり、ヘルシンキのマラソン優勝者で人間機関車と言

われたザトベックとザトベコワ夫人(槍投優勝と)仲良く写真に納つたり、国際的雰囲気を早速味わう。ダーウィンから一路南下、メルボルンをめざして進んだが、驚いたことに何時間も砂漠の上ばかり飛んでいる。ずい分、大きいのだなあとみんな感心する。十日、四時三十分(日本時間三時三十分)メルボルン着、日の丸を先頭にタラップを降りると沢山の入達の出迎えと早速のサイン攻めにびっくりする。すぐバスでオリンピック村に向う。運悪く降り出した小雨の中にもメルボルンの町はけぶり緑は濃く美しい。村の入口の両側には各国の旗が風にひるがえり、五輪のマークが空にくっきりと浮んでいる。熱心な入達が入口に頭張り、出てくる選手をつかまえてはサインをせがんでいた。女子村は入口の脇にあり、金網をはりめぐらし門衛が出入りを監視している。私と志田さんは同室。ベッドが両側におかれ、略式の洋服ダンスとタンス式の台が相對しておいてある。その上に、私達は鏡と花とリスコットのコケシを並べた。洋式便所とバス(風呂)と洗面所が一部屋にある。一つ使っている他の用が足せないので一々ことわって使用するのが滑稽だった。近くに村の練習場があり、そこへ散歩に行ったり練習したりする。各国選手は毎日、物凄い練習である。カメラをもって行き、ソ連、アメリカ、南アフリカ、チェコ、豪州の選手と片言で話したり写真をとったりする。村中どこを歩いても、人種の違った人達ばかり。私達は習いたての言葉をふりまわし、英米豪などの人達には勿論グッドモーニングだが、ソ連の人にはドボリエーチェ(おはよう)、ドボリーゲン(今日は)、フランス人にはボンジュール、イタルヤ人にはチュアールと声をかけては大よろこび。アジアの人達に英語で挨拶し、逆に「おはよう」「ありがとう」などいわれて笑い合ったり、

レイ・ファーストだから私達は胸を張って過した。夜はレクリエーション・ホールで音楽会、映画会、ダンスなどが交互に催され、全くの国際社交場であったが、社交馴れない私達はおそろしくて時々一寸のぞく程度。しかしアメリカ黒人女選手とソ連の選手がリズムに合わせ楽しそうに踊るのも見られて愉快だった。男子の日本村は村の入口から約五百米の最も奥まった方にあり、売店や、郵便局、食堂から遠くて大変だったようだ。私達も連絡に行く時は村の端から端迄縦断しなければならなかったが各国の選手が珍しいので結構楽しい。循環バスを利用することもあった。日本食堂には洋食と中華料理が準備してあり、毎食好きなものを注文出来たので食事の心配はなかった。それ所か中華料理のおいしさは格別、今でも思い出すと食欲が増すようだ。それにバナナをはじめ果物は豊富だし飲物もオレンジジュース、パインジュース、ミルク等好きなものをいくらでも飲めるし、全然不満なしといった所。

着いて二日程して、私は男子の人達と一緒にユニヴァーステイのグラウンドへ練習に行った。どこもいつも満員の見物人、そしてサイン攻めである。疲れもなく身体の調子も良好。監督も「高橋六米出るな」とよろこんでいた。それから毎日栄養のある食事と休養で、元氣一杯の練習を続け、大会一週間前、予選の時間に合せ跳んでみると、五米八六を最高に、七〇をオーバーしているので、すっかり自信をもっていたのであった。所がやがて大会が始まると、まさか予選で落ちると思わなかった吉野さんが落ち、続いて男子走巾跳の、田島、関田さんが落ちたのを見たとき、私は精神的にすぐ

く動揺を感じた。当日は三段跳の人達と十分なアップをした。そして一回目五米六六、これなら後二回のうちには跳べると思った。コーチも今のでいいだろうという。二回目のフールが痛かった。三回目力一杯跳んだ。観衆から拍手が上ったから私は絶対大丈夫と思った。計測器をのぞいたがわからない。五米六八という審判員の声は何と非情に聞こえたことか。夢のように信じられなかった。泣くにも泣けない気持だった。すべては終わったのだ。午後三段跳の決勝があった。期待された三段跳も惨敗、悄然とグラウンドにたたずむ小掛さんの姿は、あまりに痛々しかった。決勝を待つ間、故郷からの激励の手紙や電報を沢山にぎって、明るい笑顔を見せていただけに……。

陸上不振、散々の非難の言葉、しかし私達はその中で案外明るい自信を持った。ハード・トレーニングさえしたら絶対に日本も引けを取らないと。何よりもまず「猛練習」をして、どんな条件でも力を出し切れるたくましさをつけなければならない。一時新しい練習法としてライト・トレーニングの方法が行われたが、オリンピックのような激しい力の競争場面においては役立たないという感を深くした。技術の科学的研究、基本的なトレーニングの上に立つての力こそ、選手に自信を与え、特殊な環境にも悪コンディションにも適応して、実力を発揮出来るのではないかと思う。思えば競技生活十年、その間私は一筋に競技を愛して来た。生活のすべては競技の為にあつたと言っても過言ではないと思う。食事にしても、自分の欲望を押さえて、好きでも身体に悪いものは我慢し、栄養第一主義。道を歩くのにもバネのなくなるような所は努めて避け、時々木に

とびついて見たり、踏み切りのタイミングを思い出して見たり、又電車では吊り皮になるべくつかまらず重心の移動を考えたりしたものだ。勤めてからは時間がなかったので余計真剣だった。夜寝る前のわずかな時間にも柔軟体操やら足首の運動、床の中で足首のまげ伸し、親指の折りまげ運動など努めればいくらでもすることはあつた。私は若い人達に、競技を本当に愛して、出来るだけの努力をして欲しいと心から思う。

春の立山スキー

堀（林） 和子

競技を初めて間もない頃春の立山（富山県）での合宿練習に参加することが出来た。スキーで山に行ったのもこれが初めてだった。大きなリックを背負いスキーをつけて一日中木立の間を登り続けた。真黒に日焼けした若者達の顔を春の陽ざしがことさら照りつけていた。山小屋にたどりつくまでは容易でなかった。美しい月が夜空に輝き雪山を一段と美しくしていた。疲れ果てた一行は誰も物云わずただ機械的に足を動かしつつづけた。やがて小屋が見えた時の顔は思わずにこやかに足どりも軽くなった。雄大な雪山見わたす限り続くスロープ何か別の世界に来たような気がしてしまふ。皆は口ぐせのように下界はお花見だというのと云っては笑った。ここで一週間山の生活が初まった。山小屋の朝は実に早い。太陽が雪に反射して目もあけられぬ程まぶしい。窓から遠くの間々を見てその

美しさにみなびっくりした。御飯とみそ汁に漬物位しかない簡単な食事もここまで来ては御馳走である。朝食がすむとじっとしていられない。皆外へとび出しスキーをつける。すぐ目の前の雄大なスロップが歩いて見るとなかなか時間がかかる。昨日の疲れも忘れ私達は元氣一杯に滑りよく転んだ。ゲレンデのように歩みならされた雪とは違いなかなか滑りにくい。どこまでいっても障害物のないスロップだけについてスピードが出すぎてしまいスキーが云うことをきかなくなりごろんごろんと雪だるまのように転げおりては大笑いとなる。鹿門練習をしたり自分の好きなように滑ったり試合のすんでしまった後だけに春の練習は楽しいものだった。吹雪の日も素晴らしく晴れた日も練習はつづいた。昼休みには歌の好きな者達が集りよく歌を歌った。スキーヤーには歌の上手な人達が多いように私は記憶している。

晴れ渡りたる青空 輝き渡る雪原

遠き山つらなり ぶどう色に浮ぶ

丘を滑りて谷間へ 木立くぐりて出湯へ

雪煙あげつつ 何時か裾野に着きぬ

風を切りて滑るうれしさ

我を包む雪のやわらか

今はあらず山ははるか

雪山の楽しければ

かくも切なく目に浮ぶ

Kトレーナーから折さえあればこの歌を習い皆で覚えた。そして一週間の練習をおえた時はみなでそれを合唱することが出来た。山で

歌う楽しさは又格別であった。一度は小屋から少し離れた所にある地獄谷温泉へ入りにいった。途中スキーをつけて登ったり下ったり時々らい鳥が姿をあらわして元氣な若者達に追いまわされていた。温泉は何米も積っている雪をとかし所々に大きな穴をあけてものすごい音をたてて湧き出していた。名のごとく地獄谷温泉であった。綿のようなガスのいっぱいたまる温泉であったが、この山おくだ温泉へ入れるとは想像も出来なかっただけにうれしかった。黒い顔が一層黒くなりこの五日間の練習をおえた。それから後二、三回山での練習があったがこんなに楽しい練習はなかった。山が素晴しかったからであるうか。練習をおえスキーで下る時例の歌を口ずさみながらあきあきする程滑った。里ではまだ桜の花が咲いていた。

自信について

明大レスリング部

(元館高) 小 磯 晴 彦

スポーツというものは実に良いものである。練習を終え、流れる汗を拭き、そして、その場に横たわり青空を見上げる、その時こそスポーツをやっている者だけが味う何とも云えぬ、すがすがしい気分、これは格別だ。

さて、自分が愛好して居るレスリングの道というものを振り返り、また、これからも学ばなくてはならぬ事などを記してみよう。

先ず始めに記しておく事は、レスリングを始めた動機ですが、中

学時代は野球に熱中して居り、その頃は野球というものが、三度の食事よりも好きな位であったから、当然高校入学したならば、野球部にはいるとしか考えませんでした。所が、県下に只一校しかない。それも伝統ある館林高のレスリング部であった。その練習を見に行つた時に、胸にグッと来たものを感じた。ずるい考えではあるが、“この部にはいつて居れば三年になったら、楽に国体へ行けるだろう”と、国体は小さい時からの夢だったので、こんな事が左右するか、そこでレスリングに踏み切つた訳である。然し、いざレスをやつて見ると、始めの二三日は面白がつてやつたが、後はもう毎日続けて行く気になれず参つてしまつたのだ。それでも、兄貴に怒られてからは、“畜生”と思ひ、先輩にぶつかつて行つた。こうしてもま^ろれてゐる中に、段々とレスが好きになり、それにもまして二年生になれば選手になれると、いう事で尙、レスが好きになり自分から進んで稽古をする様になった。初めて大会に出場し、入賞したのは、二年生の時で銅メダルを獲得した時だつた。それからは、三年生が去つた後は、同級のMとI君と三人で良く練習に励んだものだつた。そして三年生になり、主将という重荷を負わされた時は、精神的に実に辛かつた。全国選抜大会を皮切りに国体までの大会に出場したが、一番印象に残つて居ることは、第三回関東大会の時惨敗で、今度は、インターハイに出場し優勝した時である。その関東大会には、試合前の合宿で流感にかかり治らないまま参加したものだ、合宿始まつて三日目にぶつ倒れてしまつた。それからは十日間ぐらひは休んで居たかも知れない。そして、すぐに試合だ。それに、地元であつたから勝たなくてはと思つてはいたが、アセつてしまい、足がガ

クガク、然も相手が全く大きく感じ劣等感がすごく到来した。そして惨敗してしまつた。その時は悔しくて泣けてしまつた。そしてその後、選手権までは、二十日間余り日数があつたので、顧問や先輩に励まされて再び選手権を目指し練習に精進した。その二十日という間は全くK先輩には世話になつた。K先輩独特の技“股裂き”を教わり、その技をマスターするまでに二十日も費した、そのお蔭で全日本選手権には技を充分生かして優勝することが出来たのだ。その時は、前の関東大会の雪辱なつて実に嬉しかった。夜などは、関東大会の惨敗からインターハイの間は苦しかった、また辛かつた練習を回想し眠れるはずはなかつた。“技”があいまいだと、竹の棒でぶつとばされるあのスパルタ教育、実にまだ印象に新しい。

その後国体であるが、インターハイを獲つた意気込みで国体もモノにしようと思つて練習を積んだが残念乍ら二位に止まつてしまつた。そして高校を卒業し大学へ進学してみると、先ず感じた事は、テクニクの点が全く違つて来ている事であつた。インターハイで上位に居た者でもザラに居るし、稽古しても今だに自分は相手の上になつた事はない有様である。さらばどうして上になれないか、という大体に於て自信ということに左右されて来るのではないかと思ふ。“技に対しては、力では勝てない”何か一つ技を持つてゐるならば、“俺の技ならばこんな状態なら必ず掛けてやつける自信がある”というように、自信を持つことが一番大切であると確信する。であるから、どんなスポーツに於ても、“これは”と思つた事は、終始精魂こめて打ち込むべきではないか。自分も自信というものに関しては、学んで居るつもりですが、といつて“自信”というものは、

「目」で解るものでなくして「体」で解るものだと思つて居ります。ですから自分の場合でしたら、いつもの技でもって負ける。その負けるという事は、その技に対して充分な基礎が出来ていなく、その基本技をみっちり学んでいけば、そのいつも掛けられる技を防ぐ事が出来、また打ち勝つことが出来る。その防ぐ、打ち勝つということが、いわゆる自信ではないかと思う、だから練習に練習を重ねて学んで居ります。

実際に、自分は余り体力というのがないですから、自分の適した練習法をとり、また技に対しては、他人の倍ぐらいの時間をもつて学んで居ります。

水 泳 清 水 健

私が高体連から私の体験、苦心談を後輩の為に書いて送つてくれと言われましたが何を書いて良いか困りました。年々発展して行くスポーツ界に私の古い体験や、苦心談がプラスになるかどうか心もとないことであるが、何なりと私の言おうとしている事を感じ取つて下されば喜しく思います。さてスポーツには各種あり、それぞれ違った特色を持っています。がスポーツにとって共通していえる事はそれぞれ心身を鍛錬し頑健な肉体を作つて社会に貢献すること、明るい社会を作り上げる事が第一の目的だと思つています。そうして競技会はこの過程の各スポーツの技術、能力を試す場所だと思つています。それには常に各自の目標に向かって精進し、常に一步一步と技術能力の基礎を築いて行かねばなりません。

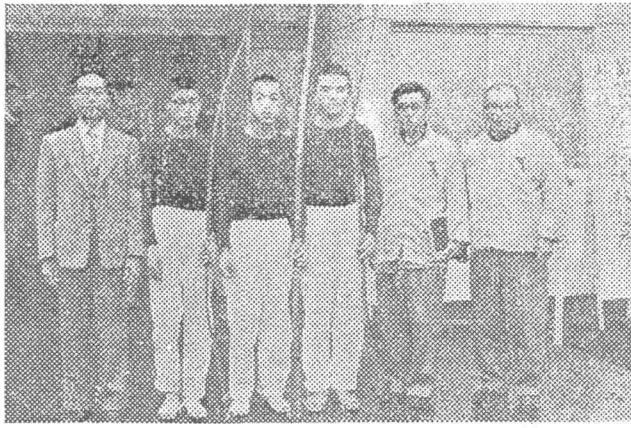
私はこんな事を書くとは後輩に本当に思われるかどうか知りませんが私は水泳に対して常に考えることは歩く時に泳いでいる時の手のフニッシュの事を考えて手をふつて歩き電車に乗れば腰を強くする為に吊皮につかまらない様にして努力して見ました。後輩諸君よ競技会の華かな所を見ても各自それぞれ努力をつんだ人の競技会であるからスポーツをするには常に努力、努力の連続で目標に対して満身の力を注ぎ努力して進んで下さい。努力の頑張りこそあの華かな競技会に見られる美しい姿です。

私は最後に諸君に言いたい事は「努力」の一言につきます。努力努力がスポーツの第一の基礎です。

第十二回国民体育大会に想う

(弓道の部)

大的優勝 富岡高校代表者 野口 益 弘



第十二回国民体育大会秋季大会は、静岡県に於て開催されたのだ。私は、その大会に於いての深い感銘を今尙忘れる事が出来ないので。当時を偲びつつ、あの日の想いを綴ってみようと思います。

大会の弓道の部は、三島市に於いて行われた。この三島は、北には富士の秀峯を仰ぎ見、東に天下の険函嶺を控え、西に駿河湾遙かに三保の松原を望み、南には伊豆の連山が古蹟の湯の町を擁したまことに景勝の地である。しかも東海の鎮守として特に弓道に由緒深き三島大社の社域に建設された新道場で、弓道競技が行われた事は、北は北海道より、南は鹿児島に至る全国から集ってきた愛弓家にとっ

て、とくに意義深く感ぜられたのである。

尙、当大会より新たに高校男子の部が独立競技として加わり、一般女子に於ても、多数の女子高校生が参加致しており、一般男子も年々と年齢層が著しく若返って居るのは、弓道普及の一面を物語って居る事は云うまでもない事でしょう。

大会第一日目(十月二十七日)、午前八時三十分、開始式続いて、故千葉胤次範士の矢渡が行われ、次にいよいよ私達の高校男子小的第一回戦が始ったのであるが一二回戦とも不振を極め、小的競技は第一日で敗れてしまったのでした。群馬を出発する時は、「勝つてくぞと勇しく」と歌にも有る様な意気が出たのだったが、惨敗をきつし誠に残念無念、とばかりその気持はなんとも云いあらわす事も出来ませんでした。こんな時には、つくづく選手の辛さを重々しく感じたのであった。旅館に着いても先生の顔がまともに見えなかつた様だった。夜に入ってから私は、大会に来る迄の激しい練習を想い出していた。練習は、午前五時三十分頃より、学校が始まる少し前まで。夜は七時から九時三十分位まで、家へ帰って眠る頃にはもう十一時、この練習を一日も休みなしに続けたのでした。この練習中には泣きたかつた時もしばしばあり、又部員一同辛さを共に感じ合つた事も何回となく有つたのでした。がその練習にも拘らず晴れの大会に臨みながら第一戦に空しく敗れたのだった。

第二日目「十月二十八日」最後の希望を托した大的競技の日である。この日は私達の試合は午後行われたのでした。午前中は三浦練士のもとに、「まきわら」の練習を行い。その間先生方の真剣な態度そして私達選手への深い愛情を感じ私達選手は実に嬉しく思ったの

だった。それが選手達への優勝への激しい意欲を導いて下さったのかと想います。かくて第一回戦に於ては、五十八点で三位、二回戦に於ては七十三点となり完全に首位に立ち、総合で百三十一点に達し、一般男子、女子、高校男子一般男子を通じての大会新記録を打ちたてる事が出来た。

この時の嬉しさはなんとも言い現わす事の出来ないものでした。どうしてもじっとして居られず三選手一緒になって三島市の町中をどことはあてもなく歩き廻したものだ。こんな子供の様な気持ちになって喜んだのでした。

尙今日に成つて想うにつけて私達は良き指導者を得ていた事を深く感じるのです。私は思うのです。指導者たる人は、その人が「弓道の道で云うなれば」弓道の大家でなくともなし得るといふ事を。現に私達の学校に於いては、国体出場二回であるが、二度共優勝と云う戦績を残して居るから、こう云う事が出来るのかも知れない。選手達の蔭に居る先生方の恩恵を感じるのです。弓は、引かずして弓の道に入り多数の部員を育成している立派な先生が居るのです。

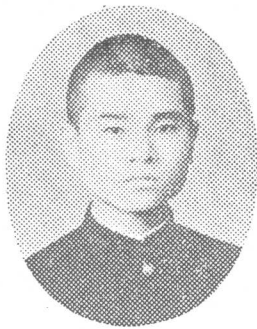
この先生方の力と選手達の力が一緒になって富高の弓道を発展させているのであって、この点全国の高校弓道部に比べて本校の誇りの一つと想われるのです。更に又現在群馬県の弓道が高く評価されつつあるのは県内各地区に於ける諸先生方の指導の賜と深く感謝したいと思うのです。

今や弓道も各地の施設の拡充と相俟つて、職場に学校に一般人士の間に、老若男女を問わずして伸展しつつある事は、民族精神の自覚と高きスポーツ精神の意識に基くものでありまして、これを通じ

て国民相互の体位を向上し、国家の隆昌に寄与することは多大なるものと想われます。尙弓術が千九百六十四年のオリンピック競技の種目に加えられる事になったのは、我が弓道にとってもまたその真価を世界に問う絶好の機会でありましょう。

この大勇大美の道で日本古来の国技弓道が脚光を浴びて国際場裡に登場する日も間近いのである、この機会にめぐまれ愛弓家達一同声を高らかにして快哉を叫ばずにはいられないのです。

最後に私も国体の一選手として、後輩諸君に言いたい。それは「一選手あって、先生有り」ではなく、「先生有つて、選手が育つ。」と云う事である。日頃指導者の指導を純真な気持ちで素直に受ける事である。そして日頃鍛錬された妙技を本大会で遺憾なく発揮することが、立派な成果を挙げる道と思われる。そしてこの苦しさに堪え激しい練習を乗り越えてはじめて大会に於いて、清純な感激とを深く味う事が出来るのだと思う次第である。



第十四回国体に 優勝して

今 井 正 明

一生に一度はやつて見たいと思った全国優勝を、我が富高の先輩のなしたげた全国優勝を、何んとか自分自身の力で味わいたいと言ふ願は、かねてよりの念願であった。この念願がかなつて優勝を成し遂げ、その感激にひたる事が出来たのであるから、私は「幸運

な男一と言える様だ。

新入生を迎えた四月から、関東大会・全国大会・国体と私の心の中は夢でいっぱいであった。春には関東大会県予選で優勝して私としては初めての県外大会である宇都宮の関東大会に出場し、決勝トーナメントで、優勝校の大田原高校に一中差をもって敗れ、尽きぬ涙を呑んだ、私はあの試合が残念で残念で仕方がない。どうして敗れたかも分らず忘れることが出来ない。大会を終えて帰りの車中では、次の全国大会に私達の心は飛躍していた。今度こそは、全国大会にはと……。

そして全国大会県予選にも優勝して、出場権を獲得し更に練習に励んだ。併し、九州宮崎で行われた全国大会も思わぬ戦績に終ってしまった。そして残された最後のチャンスは国体だけになった。

国体の為の猛練習は、県予選を通過し関東予選にそなえて、全国大会から帰ると直ぐに始められた。真夏故日中を避けて、朝食前起床と同時に道場に通った。夏の朝五時頃の空気は全身にさわやかで気持が良かった。誰もが我先にと駆けつけて、表の戸を開け道場の雑布がけアツチの整備と一致協力して、早くから練習が出来た。

幸運なことに三浦練士と言う優秀な指導者が私達を指導してくれた。三浦先生は、私達の練習に連日道場に通って、あらゆる方面から指導してくれた。そして弓具の少い富高弓道部の為に、自分の弓具を惜みなく貸し与えてくれて、より良い条件のもとに富高弓道は発展した。朝八時から夕方五時頃まで家業の都合で先生の来られない間は、注意されたことを友達同志で注意し合った。そして夜の練習に……。併し夏の夜は蛍光灯に集る雑多な虫に悩まされた。

九月に入ると前期末テストに苦心した。試験勉強の為とは云え十日間余りも弓に対して、空白になっては後が大変だ、だから練習時間は短縮したがかかさず弓は手にした。更にもう一つの難問題が待っていた、それは就職試験だ。かねてより希望していた会社の入社試験と関東予選とが重なってしまったからだ。どちらか一つを選ばなければならなかった。私は迷った。私ばかりではない選手達や先生方にまでその心配は及んだ、私は日夜悩んだ。せめて体が二つあったらとかなわぬこと迄考えたりした。

それから残念なことに大射場がない。校庭を使うにも、放課後は野球部、ハンドボール部、バレーボール部、陸上部と使っているので、危険性からどこも使えない。結局始業前の練習を大的に廻し、放課後と夜間練習を小的に使った。

九月二十日の関東ブロック予選（於 東京浜松町恩賜公園弓道場）には小的で三位、大射で優勝し総合二位で国体の出場権を獲得した。国体迄あと一カ月余り、顧問の福井先生や三浦先生を初めとして学校の先生方や県弓連の方々の指導と激励のもとに監督の先生と選手一つになつての練習は続けられた。十月中旬には選手は合宿して連日連夜練習し、頭には国体に対する弓道しかなかった。そして国体はあわただしくせまってきた。

かくて十月二十四日、我々は富高生、富岡市の方々、群馬弓連の先生方に送られて他の選手団に先立って群馬を後にした。

二十五日、全国から集った全選手団による、入場式、開会式が行われ、夕刻思いの外疲れた足で、新宿の旅荘に帰った。落ち着くにつれて左足首が痛む、「明日は試合でもあるし早いうちが良いだろう」

と云うので、近くの医者診察を受けた。足首の関節に水がたまつたとのことだ。足が包帯で見えぬばかりだ。一晚中湿布しかえた。

戦いを恐れ己を励ましてふるさとの種々のことを念じていると、切迫したそして澄んだ気持ちになって来る。まどろむ暇もなく夜は白と旅の窓に明けて、戦いの第一日は来た。私達はまだひっそりして人通りもない新宿から駒沢の弓道場に、他チームの押しかけるの前に充分最後の仕上げをする為に、一番先に乗りつけた。十月の駒沢原の寒気は身にしみた。

弓道競技は二十六日から四日間、城南の地駒沢原頭に近代洋風建築を誇る新装の弓道場で、全国から集った三百五十一名によって、郷土の榮譽をかけて行われた。

弓道競技は(小的)一チーム三人で編成し、各者四射計十二射を二回行いあわせて二十四射をもって予選とし高的中順に八チームを残し抽選により組合せてトーナメント方式で勝者を決定する。射程距離二七・二七メートル、三十六センチの的で技を競われる。

高校男子小的第一回予選は全国の各ブロック予選で選出された二十六団体(愛知を除く)に地元東京を加えて行われた。富高はチーム番号七番だった。無我夢中であつたけれども前半八中、後半戦も八中して、あわせて十六中である。後に残ったチームの戦績如何にと何とかして八チームの中に入りたいと、かたずをのんで戦いの行方を見守ったのは選手も監督の先生も同じだ。八団体に入れるかどうか安心出来ない瀬戸際である。十七中以上の三チームが決定。残されたシートは五座席のみ、十六中同志の進出候補は我が富高に大宮高(宮崎)慶応高(神奈川)照国高(鹿児島)大村高(長崎)酒田

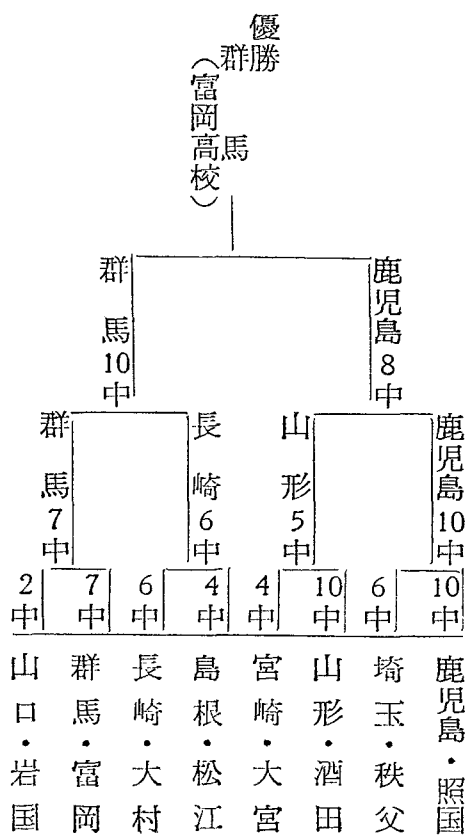
商工(山形)と揃っている、運なる哉、時なる哉。この進出競射は(三選手一射づつ)三射二中。選手も選手、場内特設の監督席の先生の胸の内も一秒一秒の針のきざみにも胸えぐられる思いで惨酷な時間であつたことだと思ふ。何時の大会でも「射場に立つて引いている者より、観戦している者の方が肩がはり疲れる」と言うことを聞いているからだ。こうして苦戦悪闘の末、栄ある決勝トーナメントへの進出が決定した。大観衆の拍手に包まれて戦場を出た時、監督の先生や、会社を休んでまで応援に来てくれた先輩達も皆嬉しさに顔を紅潮させて喜んでくれた。

高校男子小的決勝戦は、第一日の予選に選出された八校の抽選組合せにより、二十八日午後二時よりトーナメント方式で行われた、持ち耐えた天候も遂に細雨しきりと降り冷感ひとしお加わり、寒気はひしひしと迫つて来た。第一戦の相手は山口県の岩国高校で、岩国の予選の成績は十七中である。我々は何も考えず矢が的に通うことだけを頭に、無我の境地で敵にぶつかった。そして第一戦は7-2で我々のものになった。八チームの第一戦が済んで暗転一瞬の後準決勝戦は海を越えて遠来の長崎県、大村高校と対戦。満場の観衆から凝視をあびて、私達はロボットの様に機械的であつた。戦線けわしくも7-6で大村高に勝つたのだ。これで二位確実の線までこぎつけた、本当に少しも他のことを思い浮べ考える余裕はない。富岡を出る時には勝つて帰りたいと誓つて来た、それが一心の願ひであつたけれども具体的にこうなつて来るとは、心に描くすべもなかつたのである、あと一息だ、かくて優勝決定戦の相手は、日本の南端鹿児島県の照国高校である、照国は一回戦二回戦を10中をもって連

破して来た強敵である。いよいよ最後の決戦である。我々は互いに頑張ろう／＼頑張ろう／＼とうなづき合い、出せるだけの闘志をみなぎらせ射場に立つ。一矢毎に全身の力と念願をたくし、的に通って行くことのみを願うのである。満場は寂然として声はない。いよいよ決戦の矢は弦を離れた。全観衆の凝視の焦点は富高か？照国か？併し、そんなことも考える余地は、頭のどこにもなかった。我々の気持は澄んで澄明であったから……一瞬間、あるいは長時間かも知れない緊迫した空気が、場内一ぱいにみなぎった。そして遂に10中対8中をもって、富高の優勝が決定した。万雷の拍手は期せずして、万場を揺がせた。二年生の松井君、牛込君、善戦敢闘いかにも力を出し切ったと言う表状で、射場を後にしたが、あらためて成績を見る途は、勝ったのだと言う意識はなかった。松井君は私に続いて射場を去って、星勘定し初めて顔をほころばせ「勝ったなあ／＼いにやったなあ／＼。」と……。続いて最後の矢を引き終った牛込君も、退場して「今井さん勝ったんかい？ どうだったんだい？」と気のぬけた様な調子で。「勝ったのではないかなあという気はしていた」と云う。どの位勢力を費し、どの位頑張ったかがうかがえるであろう。いつ絶えるとも分らない拍手の続く射場から、控室にもどれば、飛ぶ様に集った監督の先生方や先輩達や県弓連の方々が足も地につかぬばかりに「良かった」「良かった」の連発で、嬉しさの余りだき合って、流れる涙をどうしようとしめない。私達をとり残して喜びは絶頂に達した。私達は喜びと云うより緊張した気持から、ほっとした解放感のみであった。もう飛び上って喜ぶと云う程の気力もなかった。

今更の様に猛練習当時の先生方に並々ならぬ御協力をいただいたことが思い返えされる。あるいは「家などにじっとしてられない」と我々の為にならぬ上京して声援してくれた弓連の先生方や先輩諸兄は、練習に荷物運び、矢取り、その他の雑用を進んでやってくれた、この雑用から逃れて、練習に専念出来たことも、大きな励みであり支えであったと、つくづく思う。こうした普段からの蔭の功労者があったからこそ、我々は勝負の連続に初心を貫くことが出来たのだ。思う存分に考えることが出来、やる事が出来た。内助の功と言うかこうした神経をすり減らす様な団体の選手生活では、殊勳第一級の功労であった。実戦に向ったのは私達ではあるが、勝負に勝ったのは私達だけではなく蔭の功労者の勝利でもあった。私達は善き人々の好意を全身に受けて、しみじみと心暖る思いがするのである。

○高校男子小的成績表（決勝トーナメント）



- | | | | |
|----|-----------|----|-----------|
| 一位 | 富岡高校 (16) | 二位 | 照国高校 (16) |
| 三位 | 大村高校 (16) | 四位 | 酒田商工 (16) |
| 五位 | 岩国高校 (17) | 六位 | 大宮高校 (16) |
| 七位 | 松江高校 (20) | 八位 | 秩父農工 (17) |
- (括弧内数字は予選の的中数)

第八回国体回想録

高高出 (立教大学出) 山口 英雄

昭和二八年九月二七日、北関東地区予選で宇都宮高校を27-0と軽く一蹴し、第三・五・六回につづいて四度目の第八回国体の出場権を獲得した我高崎高校ラグビー部員は、一〇月一九日朝駅頭で、来るべき試合に斗志を秘め、諸先輩、学友達の激励の言葉と校歌に送られ、高崎駅を旅立った。翌二〇日正午すぎ目的地、松山駅に第一歩を踏みしめた。そして直ちに宿泊地の道後温泉旅館に落ちつき、全員旅の疲れも忘れて、第一戦の作戦に花を咲かせた。

第一戦は東九州の雄、上野ヶ丘高校である。

愛媛大学グラウンドで二二日二時三〇分、高崎高校のキック・オフで試合は開始された。試合は予想に反して、S・O中村のインター・セプトなどの好プレーで19-8と楽勝した。

第二戦は高校ラグビー界の門名中の名門、天理高校と県営グラウンドで二四日一時三〇分から開始された。

相手は強豪、正面からぶち当たる外なく、キック戦で展開されたが

前半14分右W・T・Bにトライを先取された。ライン・アウトのままに眩惑されたか20分頃、故岸銓一郎君が反則を重ね、退場を命ぜられ、残念さの余り男泣きに泣くという場面もあった。

岸退場により選手一人々々が岸の分までと心に誓い後半を迎えた。全員斗志百倍、一方的に天理高校を押しまくり、8分S・O中村のF・Bオーバーのキックを相手の失策の間にポール直下にF・W高橋おさえゴールなつて5-3とリード、15分P・Gをきめて8-3のままタイム・アップ強豪天理高校を降して第二戦を飾った。

故岸君には申し訳ないが、彼の退場によって一四人のファイトが二八人分に倍加され、結果的にはよかつたのではないかと思う。

「故岸銓一郎君の冥福を祈る。」

段々と土地の空気にも慣れて来た我々は第三戦、決勝戦で北海道の強豪、名門としても名高き北海道高校と対戦することになった。

二六日松山商科大学グラウンドで一二時試合開始。

前半は馬力の北海道、テクニクの高崎高と相ゆらず0-0のまま終った。

後半は二〇ヤードのライン・アウトのボールを左オープンに廻され、左W・T・Bに走られた左中間に先取点を許し3-0とリードされたがこれはならじとすぐ、三〇ヤードのセット・スクラムのボールを右に廻し右W・T・B中島、右隅に飛びこんで同点にもちこんだ。それから調子はぐんぐん上がり、北海道を窮地に追いこんだが敵もさるもの防禦は固く、3-3のまま全くの互角で試合は終わった。

暮色の中の第八回国体の閉会式を終え、優勝という感激を体いっ

ばいに味いつつその夜のうちに帰路を急いだ。

この榮譽をかちとることができたのは富田・岡田両先生・ラグビー関係者・諸先輩等のたゆまざる御指導の賜であると、今なお深く感謝している。

汗と泥にまみれ、苦しかった数々の合宿練習、走って走って走り抜いた日々、晴れの舞台を踏むまでは、どの位苦しみ、頑張り通したことであろう。

大学の合宿で一緒だった友達が、こんなことを言ったのを思い出す「高崎高校の選手は身体は小さかったが、こまねずみのようにすばしっこく、熊のように重みがあったぜ」と。

現在運動部における者、又これからやろうと思っている者は決して苦楽などを計算に入れず、進んで苦しみの中に飛び込んで行き、そこに自分なりの楽しみを見いだし、心身ともに磨いてもらいたいものである。

学窓を巣立って幾才、こうしてしみじみ振り返ってみて、学生時代の訓練がいかにプラスになっているかがわかり、なつかしく思い出される。

国体優勝の思い出

高高出（現教育大学主将）

中原射鹿止

昭和三〇年一〇月二九日高崎市役所前に集合、市壮行会後宣伝の先導で駅まで市中行進、市民に見送られた第一〇回国民体育大会の選手団、その中に我々高崎高校ラグビー選手二〇名も加わっていた。駅頭で市、学校関係者、先輩諸兄に激励され、ブラスバンドの吹奏される中をプラットホームを離れ、会場久里浜へと向った。

国体優勝は今なお大きな思い出の一つになっている。

一五年前、終戦後の生徒の混乱した気風を一新するため、内藤校長、富田先生初め諸先輩の努力で作られた母校のラグビー部が一〇年にして国体優勝ができたことは先輩諸兄の汗と涙で築きあげた賜で楕円のボールを追い、ラグビーを愛する者だけが知る喜びである。

一〇月八日秩父宮ラグビー場で宇都宮農高を22―0で軽く一蹴し国体出場権を獲得した。

国体の組合せを見ると、第一戦は東京代表の宿敵城北高校、これを破れば準決勝戦で名にしおう北海道代表北見北斗高校と北九州代表福岡高校の勝者とともにAクラスの首位と自他ともにゆるす高校界の名門の両校である。本校も第八回国体で優勝はしているものの、メンバーは変り、これらのチームがAクラスであれば我々はBクラスである。前評では第一戦に勝てるか、もし勝っても第二戦で惨敗だと予想されていた。

三〇日陸上自衛隊のブラスバンドの吹奏で入場し、ラグビー競技の開会式によって戦の幕が切つて落された。

この日第一戦が行われ、城北高校と対戦した。なかなか充実した実力のある手ごわい相手だ。然し試合をやるからはどんな相手にせよ、勝たねばならない。「高崎高校だつて先輩の築いた伝統がある、全力を尽せば必ず勝てる」という監督岡田先生の言葉に励まされ、15人が張り切つてグラウンドに散つた。審判の笛の音と同時に試合は開始された。試合は監督の作戦を主将中心に忠実に実行し、相手に正面から取組んだ。

前半は押しつ押されつしたが5点のリードをゆるして終えた。

後半は監督の「勝てる、やれ」の一言に一同元気づき、調子を上げ、一五人が一丸となつて当つた結果、18―9の大差で一勝した。皆嬉しかったが「勝つて兜の緒をしめよ」手ばなしで喜んではいられない、第二戦が待っている。

試合後次に当る北見北斗高校と福岡高校の試合を観戦した。さすがこれが事実上の決勝戦といわれただけあつて、スピード、体力、試合運びにすばらしい展開を見せたので、ただ見とれるばかりだった。接戦の末北見北斗高校が勝つたが、このチームと戦うのかと思うと一寸自信をなくした。そんな弱気ではと思うが、矢張り不安さは胸の中で押えきれないものがあつた。

翌三十一日は試合はなく、選手が余り試合のことを考えすぎではという親心からでしょう、監督が近くの海岸にタコ釣りに連れて行つてくれた。我々はすべてを忘れてタコ釣りに興じていたが、監督は次の試合の作戦を練つていたことでしょう。タコは釣れなかつた。

一月一日いよいよ運命の時がきた。何故か不安も解消、案外落いつて試合に臨めた。昨日のタコ釣りがよかつたのか。

試合前監督曰く「勝敗は考えるな、落つて作戦通りにやれ、必ず勝てる」と。我々は半分諦めていたものの矢張り今となつては勝たい一心だつた、監督も口には出さないが同じ気持ちだつたと思う。

一五人が「やるぞ」とばかりグラウンドにとびだし、試合開始を遅しと待った。僅か二・三分がこの時程永く感じられたことはなかつた。審判の笛が鳴ると、さすが名門といわれただけあつて、体力にスピードに優るものがあつた。どんな強豪でも、どんな名門でもやはり同じ高校生、必ずどこかに弱点はある、監督はそれを見抜き、相手の戦法を予想してたつた作戦は見事的中し勝利へ導いた。

監督の感の鋭さに唯々驚くばかりだ。

多くの試合が「勝」ということにこだわりすぎ、失敗することが多いが、この一戦だけは唯「やらなければ」ということだけ考え気楽にプレーできたように思われる。一五人が力を一つに結集した時こそまさに「強」そのものである。

北見北斗高校チームは平均体重18貫強、我方は16貫弱、身長差も勿論はつきりしていた。まさに体力差を捨身の戦法でカバーした一戦だつた。

試合中は夢中で何をやったか憶えていないが、唯相手を一步も前進させないように全力を尽したことだけ記憶に残っている。

試合後監督や先輩に「御苦労、よくやった」といわれた時はただ涙が出るばかりだつた。スコア・ボードに13―5と我々の勝利が掲示されていた。

これで次は決勝戦に対する相手は水戸農高、優勝は確実といっても過言ではない、この年の水戸農高には十分勝てる自信を持っていた。夜になっても興奮はさめやらず、憩の一時にも今日の試合の話でもちきりだった。そこえ統々と祝電がき一枚々々皆の前で読み上げられ、あらためて感謝した。消灯しても仲々ねむれなかった。

三日は決勝戦、対水戸農高、このチームには勝てるという自信過剰と優勝を目前に、その上学校から応援団がかけつけるなどで多少硬くなり、また二試合の疲労で思わぬ苦戦をしたが、12―0で一蹴ある優勝を飾ることができた。

入部以来寒さにも暑さにもめげず、この時のために日夜努力したことが実ったのだから手ばなしで喜んだのも無理はない。

群馬県を代表し、この業績がなし遂げられたことは県民の方々の御声援のたまものであると感謝し、又このような光栄ある部の一員として高校生活を送れたことは我々の幸福である。

今でも高校の汗くさい部室が懐しく時々出掛け、当時の思い出を同僚と話し合い感激を新たにしている。



十年を回顧して

水泳部十年を回顧して

委員長 津 田 貞

十周年を迎えた今日、過去に於て活躍した先輩達の業績を色々な
面から眺めて見ることも良い参考になるであろう。

◇終戦後始めて国体水泳に参加した高校選手

昭22年第二回大会（金沢会場） 青木七五三吉（伊工）平泳
同 （故） 小保方敏夫（伊工）背泳

女子選手の初参加者

昭24年第四回大会（野毛山会場） 中沢節子（高女）背泳
" 松川敏子（同）自由形
" 多胡美加子（同）平泳
" 上利裕子（同）同

◇現在迄の国体水泳に入賞した高校選手

昭27年第七回宇都宮会場百米自由形⑥清水健（高高）1分2秒8
昭28年第八回高知会場 百米自由形④清水健（高高）1分1秒4
尚清水選手は昭和廿七年全日本高校東西對抗選手として選抜せられ
百米自由形に1分1秒2の優秀な記録で第三位となり其の天分を
認められた。此の記録が本県高校記録として未だに破れない。
清水選手は立大に進学し、三十一年のメルボルンオリンピック大

会に山国群馬が生んだ唯一の水泳選手として代表選手に加わった事は既に周知の通りである。

◇関東高校選手権水泳に優勝したことのある選手

昭27年 百米自由形①清水 健（高高）1分2秒8 二百米は五位
" 五十米自由形①新井美登里（桐丘） 36秒2
" 百米自由形① " （桐丘）1分26秒4

◇関東高校選手権に三年連続入賞した選手

これは中々至難のことで他の県でも全然ないところもあり、あつても極めて少数である。本県では男子の清水健選手でさえも二年連続に止まったが左記の女子水泳に大きな功績を残した新井美登里、平野富子の両選手が良くこれをなし遂げていることは誠に偉とするに足る。

昭26年五十米自由形②新井美登里（桐丘）37秒4
昭27年 " ① " 36秒2 百自由形も優勝
昭28年 " ② " 37秒4
平野富子選手は五十米背泳、百米背泳の両種目に三年連続入賞、
五十米背泳昭27年②43秒2 昭28年③44秒6 昭29年③41秒6
百米背泳 昭27年②1分37秒昭28年⑤1分38秒6 昭29年③1分35秒
◇今迄日本水連発表の水泳二十傑に入った選手
昭25年百米自由形第10位 平野雅子（伊女）1分21秒（国体振甫）
" 百米背泳 第12位 同右 1分32秒3（同右）
昭26年五十米自由形全日本⑫高校⑥新井美登里（桐丘）35秒4（神宮）
" 百米自由形高校⑮平野雅子（伊女）1分22秒（国体呉）
" 百米背泳全日本⑮高校⑩平野雅子（伊女）1分31秒6（同右）

昭26年百米自由形高校⑳清水健（高高）1分4秒（国体呉）

昭27年百米自由形高校④ 同右（高高）1分1秒2（東西、天理）

〃 五十米自由形高校⑭新井美登里（桐丘）35秒6（会場同右）

〃 五十米背泳高校⑭全日本⑱平野富子（伊女）43秒2（同右）

〃 百米背泳高校⑱ 同右（伊女）1分34秒8（同右）

昭28年百米自由形高校④清水健（高高）1分1秒4（国体高知）

〃 五十米背泳高校⑱平野富子（伊女）43秒6（日本高、振甫）

〃 百米背泳高校⑱平野富子（伊女）1分34秒4（国体高知）

昭32年百米自由形高校⑳定方充（伊高）1分2秒（国体浜松）

◇学校卒業後の先輩の活躍状況

現役の高校生でレベルの高い国体高校の部に入賞したのは既報の清水選手のみであるが先輩連活躍の御蔭で群馬県は第二回国体より現在迄たとえ大量得点は出来なくも、毎年入賞者を出して居ることは嬉しいことであり、高校生諸君の奮起によって更に沢山の後継者を出して貰いたいものである。

◇国体に群馬県として初めて入賞した先輩

昭和22第二回国体金沢大会に現在の太高出身の故田島貞男選手（伊勢崎水協殖連教員）が教員二百米自由形決勝に2分41秒6で第四位に入ったのが国体水泳入賞第一号である。

◇国体参加回数記録及び国体に入賞した先輩

伊工出身の橋本選手の第二回国体より第十二回大会に及ぶ連続十一回出場が記録で全国でもこれだけの連続出場者は数名しか居らない。尙橋本選手は国体入賞群馬第二号であり、第三回国体より四年

間毎年青年背泳に③位、④位、④位、⑤位と連続入賞した選手である。

次の参加記録は伊高出身の服部良和選手（平泳）の連続七回出場でこれは五回連続入賞（②位①位③位①位⑤位）し、而も至難なる国体優勝を二回もなし遂げ、加えて国体青年平泳新記録を樹立して山国群馬の為万丈の気を吐き、県体協より二回にわたり桑原賞を授与された選手である。

次は現在も青年背泳で活躍中の伊高出身の白川政義選手の六回連続出場で第十一回大会より⑥位、⑥位、⑤位、⑤位本年の東京大会には第二位と四回連続入賞し而も群馬県背泳新記録を樹立するという活躍をしている。

他に国体に活躍入賞の先輩を挙げれば、既報高校現役中に二回入賞した清水選手は連続ではないが八回参加の記録を持ち、其の他桐工出身の平泳山崎善作選手は四回参加し第六回、第七回大会に青年平泳に⑥⑤位と二回入賞して居る。其の他青年メドレーリレー入賞に活躍した者では青木七五三吉（伊工出）、藤川勇夫、杉田智、五十嵐源一（以上前工出）古瀬治夫（桐工）小倉邑博（伊高出）の諸先輩がある。

女子は競技生活が短いので国体参加記録も新井美登里（桐丘出）平野富子（伊女出）の各四回連続出場が最高である。

最後に関東高校選手権入賞者一覽を作って現役高校生諸君に先輩連の足跡を偲んで貰い、反省奮起の一助にも思ったのであるが紙面も限りあるので後の機会に譲ることにした。

高体連ハンドボール部 十年の歩み

群高体連ハンドボール部

委員長 町田 歳雄

(富岡高等学校)

昭和二十三年四月、群馬県高等学校体育連盟が発足すると同時に群高体連種目別各部の一つとして吾がハンドボール部も結成された。其の頃ハンドボール競技は東京以西に於ては非常に盛んであったが以東に於ては極めて低調で、東進するに従って競技人口はますます少く、競技を知って居るものも甚だ僅少であったようであった。

本県に於てもその例にもれずこの当時に於てはハンドボール競技を知って居るものは体育教官以外は殆ど皆無といつてよく一般の人々及当時の生徒学生でさえ知らなかったといつてよいであろう。

ここに於て当時桐生工業高校に勤務して居った池田清氏と藤岡高等学校の高橋潔先生(現在前商勤務)と三人で相計り、ドイツに於て女子男子の競技として考案され国技ともなっているハンドボール競技が、質実剛健で然も体力増強に役立ち、興味も多く、金もあまりかからぬので是非群馬県にも取り入れて、その普及発展に努めようとゆうことになってまことに貧弱ではあったがその第一歩をふみ出したのであった。

創設の年は技術も極めて幼稚で、試合数も少く要領も得ず、実績はさして拳がらなかったが、何とかして一刻も早く先進都県に追いつくべく関係者一同微力乍らも懸命の努力を重ねたのであった。

先ずこの年国体県予選に富岡高校が優勝した。たまたまこの時はハンドボール競技高校男子の部は国体本大会に府県対抗であったので県内優勝をすれば本大会に出場出来たのであった。

然し第三回福岡大会は県国体委員会の方針として遠隔の地で経費の関係もあって精鋭主義をとって居った為に球歴のないハンドボールが選考委員会を通過する希望は全然なかったといえる。

この為何とか実績を作つて富岡高校の派遣方をお願いすることが今後のハンドボール界の為に絶対に必要であることを痛感し、隣りの当時高校界に於てその名声高かった足利高校及石橋高校と対戦し、富岡高校の実力を自己評価して見た。この結果8-5で足高に、5-3で石橋高に敗れはしたが、此の位なら本大会に於ても或る程度やれるし、県の期待にあまりに反することもないだろうといささか自信を得たようなわけであった。

そこで国体選考委員会の席上、今までの状況及びチームの実力、及び今後の発展の為に是非出場をお願いする旨申上げた所、非常に困難なる状況であったにも拘らず、委員会の厚い温情と御支援によつて国体出場が決定された。ここに於て富高チームは大会までの期間、実に涙ぐましい練習と研究を重ね勇躍本大会久留米会場に臨んだ。此の時の試合は関東の雄として全国的な存在であった鎌倉学園高校(神奈川県)であった。初めての正式な対外試合であり、亦檜舞台でもあったので全力を尽して戦ったが実力の差は如何ともなし難く奮斗空しく6-0で敗退する結果となった。然しこの出場経験は技術の研究やら練習方法等を会得し、ひいては本県のレベルを急激

に引上げる結果となり、後年飛躍的躍進をとげる基礎となったことは偉大なるプラスであったことを考えると感慨深いものがある。

昭和二十四年度は桐生高等学校が部を創設し実施校が四校となった。此の年富岡高等学校が関東高校選手権大会（東京駒沢）に準決勝に進出し優勝候補の足利高校と対戦4―3で惜戦したが伝統ある強豪足高と堂々と戦い心膽を寒からしめた。その善戦は賞讃されてよい。又桐生工業高校は国体ブロック予選（山梨）に於て堂々決勝戦に駒を進め名門世田谷工高（東京）と対戦、応戦よく努めたが6―2で敗れたが東日本の覆者世田谷工業に体当りで肉薄した敢斗精神と目覚しい活躍は本県ハンドボール界の為に貢献する所が大であった。

昭和二十五年度に於ては桐生女子高校に部が誕生した。但し女子は一校だけなので試合としては県外試合だけに止まったので低調であった。男子は第一回全日本高校選手権には桐生工業（大阪）国体ブロック予選（水戸）には富岡高校が出場したが、三位決定戦に墨田川高校（東京）に9―3で敗れ、関東選手権には富岡高、藤岡高、桐生工、共に一、二回戦で敗退してあまり戦果はあがらなかった。この原因はどこにあったかを反省して見ると二十五年から国際ルールを適用することになって中央から講師山外准二氏を招き講習会を開いたのであったが、新ルールの為技術的研究が不十分であった事も一つの要素といえよう。

昭和二十六年度は富岡高校が東日本高校選手権大会（福島）で第三位に入賞している。準決勝で桜台高校（愛知）と戦い15―4で敗退したが、三位決定戦に於て岡崎市立高校（静岡）と対戦10―7で

勝ち群馬の為に万丈の気を吐いた。

尚第二回全日本高校選手権大会（東京）には富岡高校が第三回戦で山口高校に6―3で敗れ、国体ブロック予選には桐生工業高校が出場し一回戦で鎌倉学園高校と対戦7―6で惜戦した。女子は桐生女子高が出場大田高校（東京）と対戦2―0で敗退した。

昭和二十七年度に特筆大書すべきは第三回全日本高校選手権大会（大阪）に於て吾等が待望して居った全国優勝が桐生工業高校の手によって成し遂げられた事であった。

此の年桐生工業チームは断然強く県内大会にはことごとく優勝し他校を顔色なからしめ、県外に遠征しては先ず東日本大会（名古屋）に第三位に入賞、全日本選手権大会には各都道府県の精鋭がしのぎをけずる決戦場裡に善戦敢斗次々と相手を倒し遂に決勝戦に進出静岡代表清水商高と覇権を争うことになった。清水次郎長勝つか国定忠治かと今を昔におきかえての熱戦は見る者をして手に汗をにぎらせるものがあつたが遂に9―7で桐生勝を制しここに全国制覇の金字塔を樹立したのであつた。発足四年目にしてこの偉業全くよくやったの感一入深いものがある。

更に国体ブロック予選（富岡）では決勝に於て足利高校を12―9で敗り第七回国体（福島）に出場して準決勝に進出桜台高校と対戦14―11で惜戦したがその奪斗と業績は絶大なるものであつた。

尚この国体時に日本ハンドボール協会より桐工の金子善治、中島英次郎、広町賢二の三選手が最優秀選手10名の中に加わり名譽ある表彰を受けた事も喜ばしい事であつた。

又この年ルールの改正がありオフサイドがなくなることになった。

昭和二十八年年度に於ても桐生工業依然として強豪さを発揮し、第六回東日本選手権大会桐生に堂々優勝し、地元、県の期待に答えてくれた事は感激深きものがあつた。ついでだが東日本大会はこの年を最後として終止符を打たれた事をつけ足したいと思う。

此の東日本大会に於ける桐工は連日の猛暑と打倒桐工を目標とする各県の強豪チームと斗い乍ら準決勝に昨年全日本で対戦した清水商業高校と再度相会えることとなつた。この試合は將に実力伯仲両校共かつて全日本を制覇したチームだけに龍虎相うつ熱戦が新川グランドに展開され観衆をして興奮のルッポと化さしめハンドボールの醍醐味を満喫させてくれた。この試合では桐工地元の待望に應えて遂に9―8で清水商をくだし決勝戦に進んだ。決勝戦では奇しくも同じ静岡の清水東高と対戦する結果となつたが清水東盟友の仇を討たんと斗志極めて旺盛、一方桐生亦烈々たるファイトに燃えてその攻撃を阻止せんとし互に技術と斗魂を傾けての合戦は予断を許さなかつたが後半桐工バック陣よく清水東のフォワードをつぶし、一方桐生のフォワードの攻撃は益々鋭さを加えて遂に14―10で輝かしい優勝を飾ることが出来た。

亦第八回団体ブロック予選に於て桐生工高は決勝戦で足利高を13―8で破り本大会(今治)に出場第二回戦に於て今まで全国連続三年覇権を握つた桜台高(愛知)と対戦7―5と接戦の結果惜敗したのは残念であつた。

尙此の年女子ルールが改正された。(1. コートの大き。2. 競技時間。3. 補欠の交代)

昭和二十九年度は桐生高校が桐生工高に代つて初めて全日本大会

に出場した。不断の練習が漸く実を結んだ結果であつてまことに喜ばしい事であつた。亦ブロック大会水戸には富岡高が出場、準決勝で世田谷工高に7―5で敗れた。

以上の如く各大会で代表が變つていたのは、桐高、富高、桐工と三者が全く実力伯仲しておつた事を示すもので興味深いものがあつた。

昭和三十年度は第一回の関東高校選手権大会が土浦市に於て開催され、富岡高、桐生高、桐生工高、桐生女高が出場した。桐生工高富岡高は準々決勝に進出、富岡高は明星学苑に9―7で敗れたが、桐生工高12―11水戸工高で準決勝に進出、明星と大接戦の結果8―6で涙をのんで敗退した。

第十回団体ブロック大会は県及富岡市教育委員会の御援助によつて富岡高校、富岡中、一ノ宮小を会場として開催された。

本県代表桐生高は再度明星学苑(東京)と対戦13―9で敗退、亦女子は桐生女子高4―1で山梨高に敗れ去つた。

全日本高校選手権には富岡高出場第一回戦は9―3で高松一高(香川)に勝ち、第二回戦で豊中高(大阪)と対戦8―7と互格に戦つたが試合経験の少い為惜しくも敗れた。

昭和三十一年度には桐生工業は関東選手権(塩山)に於て決勝戦で亦々明星と対戦13―6で一敗地にまみれた。然し次の国体ブロック予選成田に於ては本年再度通算四度目決勝戦に於いて相会することとなつた。此の時桐工は関東大会の雪辱をとげ晴れの国体へ出場せんと決意も堅く意気衝天の気概があつた。明星学苑亦過去の戦蹟からして桐生何するものぞと之を激撃しその激突は將に血湧き肉踊

るの感があった。一点入れれば一点返すシーソーゲーム、後半の中間に至って桐工追うものの強さを発揮して自己のペースにのつて試合を進め明星これに捲き込まれて11-8と初めて桐生に敗れる結果となった。本大会兵庫に出場した桐工は強豪地元庫工に一点差で敗れたのは惜しまれた。

昭和三十二年以降は富岡高他チームより若干強く全日本大会等に連結出場して居るが最高三回戦迄位しか進出出来ず一寸中だるみの様な状態である。その間女子に於ては高崎女、高崎市女、男子に於ては甘楽農高等遂次チームも増加したがまだまだ実施校も少く本県のハンドボール競技もこれからの感が深い。

幸にして昭和三十五年六月にはルーミアハンドボールチーム(世界選手権第二位)を本県に招聘し、桐生市に於て全群馬と本県初めの国際試合を実施することが予定されて居るので、これを機会にハンドボールがより多く理解され、技術的にも研究され、競技人口も増加する事を祈り乍ら亦関係者皆々様の一層の御支援を願ひ乍ら以上記述して十年間の回顧とする。

群馬スケートの歩み

深 町 五 郎

一〇年ひと昔と云うが本当に早いもので、県連盟創立以来本年度丁度満一〇年になる。戦前(昭和一八年が)榛名湖において神宮大会まで開催した由緒ある伝統をもち、榛名と赤城の絶好なるスケート可能地を有しており乍ら、未だに連盟組織が無いと云うことは将来のため大きく影響すると云う気運が盛り上ると共に、第五回国体スケート競技会には是非参加したいという趣旨を以て昭和二四年末から、橋本彦勝、千明三右衛門、木暮金太夫、福田松太郎、斎藤直道(以上伊香保)門倉幾太郎、岩沢三郎、唐沢利一(以上榛名)河原地近重、齊田頼繁(以上前橋)落合正、矢島和与(以上高崎)塩原正孝、松井国平(以上高体連)県教委指導課体育係(係長正木徳次郎・現高体連理事長)等の諸氏によって一〇数回に亘る熱心なる会合の結果、初代会長に橋本彦勝氏(伊香保観光協会会長)が選出され、規約の制定をみて茲に戦後他の競技団体に遅くればせ乍ら群馬県スケート連盟が誕生し日本連盟に加盟手続きがとられたのが昭和二十五年四月であった。

それからの一〇年が本県スケートの揺籃期であった。第五回国体(北海道苫小牧)に初参加して以来、第一五回国体(長野県美鈴湖)まで実に悲喜交々の一〇年間であった。

この揺籃期において特に千明元会長および木暮現会長の、いかに本県スケートのレベルを一日も早く全国的なレベルに引き上げよう

とした並々ならぬ意欲と努力を銘記すると同時に、各役員の競技運営に毎年開催地元になる榛名の人達の献身的な奉仕は特記するべきである。選手達の眠っている深夜にリング整備の作業を行い、整備中に氷が割れて湖水に顛落する等その苦心と労苦は一通りのものではなかった。

またこの揺籃期に育った優秀な選手達はすでに立派な社会人となり、自己の尊い経験を生かし後進の指導に力をそいでくれていることは力強い限りである。

思えば国体本大会に参加して以来、予選で落るのが当り前だという錯覚さえ生じ、準決勝に進出しようものなら鬼の首をとったみたいの喜びようだった。またある時などは、群馬県の腕章を外して一般観覧者の中に入って見ていた方が気が楽だと云った人もあった程である。

それが第一五回国体において、雌伏一〇年の役員の方と選手の方が見事に咲いて待望の全国トップグループに躍り出たのである。丁度高体連発足一〇周年を待っていたかのように、若い人達の燃え上る意気が爆発したのである。

スピード競技における一般女子の部の門倉文子（渋谷・専大）選手（五〇〇米（第五位）一、〇〇〇米（第二位）和田真利子（渋谷・日体大）選手（五〇〇米（第四位）の入賞、教員の部における鶴田智之（前橋）選手（三、〇〇〇米（第二位）の入賞、高校男子の高橋清（渋谷）選手（五〇〇米（第六位）の入賞に併せて、特に二、〇〇〇米リレー決勝における本県チーム「高橋（渋谷）門倉（榛高）関口（前商）箱田（渋谷）」のファイトは遂に強豪長野県チームを降して

堂々第二位に入賞したのである。

また一般女子リレーにおいて、本県チーム「門倉（専大）大森（榛高）清水（榛高）和田（日体）」は悠々上位に入賞できる寸前、アンカー和田選手の転倒によって入賞は失ったが、此の転倒はレースと技術の巧拙ではなく、優勝を目指した燃えたぎる斗志の権化による転倒なのであるから讃えこそすれ責むべきものではない。むしろ全員の健斗を賞讃すべきである。

以上がスピードにおける本県選手の奮闘の一コマであるが、此の外伊香保ホッケーチームの例外による自費参加があった。初陣ではあるがその意気と斗志は福田実監督の下によくまとまり、強豪宮城県に堂々対戦し、13-7のスコアで敗れたりとはいえ立派なものであった。

第一五回国体における総合成績は、天皇杯第一〇位、皇后杯第八位（スピード競技では得点二一点で第四位）という中位の成績ではあるが、此の得点の殆んどがスピード競技による得点であり、しかも長距離を捨てての得点であったことを思えば前途は誠に洋々たるものである。

ひるがえってフィギュア部門に目を転ずれば、第一回関東フィギュア選手権大会を東京都氷連と共催して伊香保観光協会の絶大な協力のもとに伊香保リンスにおいて開催したのが昭和二十七年一月であった。（当時の連盟会長に観光協会会長は千明三右衛門氏）本年度第九回を迎えたが後年における暖冬のため、しばしば中止の止むなきに至りながらも此の大会開催の熱意の結晶は、常に全国上位にランクされた吉川寿（前商・明大O・B）選手を生んだのである。

連盟発足当時の加盟支部が僅かに五支部（前橋・高崎・渋川・伊香保・榛名）会員およそ八〇〇名程度であったのが、現在では一五支部、会員数も五、〇〇〇名を越える盛況さである。これは各支部役員が自からの犠牲をものともせず、講習会や市民大会等の開催に尽力してくれた賜であると信ずる。

しかし、これだけの歩みをしてこられたのは、県氷連役員はもとより、県体育課、県高体連の諸先生方竝に伊香保観光協会、東武バス、群馬バスの各関係および榛名、伊香保、赤城の地元の人達の指導と惜しみない協力と支援が無ければ到底実現出来なかったのではないかと思う。

最後に、本年を足がかりに揺籃期から慈々成長期へと脱皮した県スケートのこれからの課題は、スピードにおける中・長距離に対する研究練磨、アイスホッケーの基本から実戦に備えての不断の努力、フィギュアアの有力なる育成等々その目標は決して楽ではないが、之を踏破して今後の発展と飛躍をして最高記録に対して挑戦してゆく推進力は高校生諸君の若い力あるのみと期待する次第である。

茲に第五回国民体育大会冬季大会スケート競技大会に初参加して以来、本年第一五回国体までの本県代表選手団を紹介して高体連創設十週年の記念としたい。

○第五回（二五・一月下旬。北海道苫小牧）

团长 橋本彦勝（県連会長）

監督 塩原正孝（高体連）伊草市右衛門（伊香保）

選手（スピード）

（高校） 深津良治（渋高）鈴木弘彦（渋高）狩野孝

雄（前高）勝田 勝（高高）

（一般） 小林安太郎（伊香保）伊東正治（前橋）

○第六回（二六・一月下旬。青森県八戸市）

团长 橋本彦勝（右同）

監督 塩原正孝（高体連）福田松太郎（伊香保）

選手（スピード）

（高校） 深津良治（渋高）勝田 勝（高高）狩野孝

雄（前高）齋藤寿郎（前工）

（一般） 小林安太郎（伊香保）伊東正治（前橋）

○第七回（二七・一・二四～二七。栃木県日光町）

团长 千明三右衛門（県連会長）

監督 塩原正孝・金井繁次郎（高体連）

選手（スピード）

（高校） 一場葉二・木暮 佑・齋藤芳男（以上渋高）

齋藤寿郎・高橋精一・箱田昌弘（以上前工） 别当

有利（高高）松田一弘（室高）相沢秀晃

（一般） 小林三郎・富永精司（以上伊香保）谷島一

夫（前橋）新藤 昇（渋川）小山泰助（榛名）

○第八回（二八・一・二二～二五。岩手県盛岡市）

团长 千明三右衛門（右同）

監督 塩原正孝（高体連）福田松太郎（伊香保）

選手（スピード）

（高校） 齋藤寿郎・高橋精一・門倉啓治（以上前工）

一場葉二・木暮 佑・山田 雅（以上渋高）

(一般) 小林三郎(伊香保) 谷島一夫・狩野孝雄 (以上前橋)

(女子) 岩沢余春(榛名)

○第九回(二九・一・二八)三一。北海道札幌市)

團長 千明三右衛門(右同)

監督 塩原正孝(高体連) 斎田顯繁(前橋)

選手 (スピード競技)

(高校) 半田尹宏・茂木達夫(以上渋谷) 都田 保・

中沢 章(以上前工) 塚越之男(室高)

(一般) 新藤 昇(渋谷) 斎藤芳男(伊香保) 狩野孝

雄・門倉啓治(以上前橋)

(女子) 岩沢余春(榛名)

フィギュアー競技。

(男子) 吉川 寿(明大)

○第一〇回(三〇・一・二七)三〇。長野県蓼の海)

團長 千明三右衛門(右同)

監督 塩原正孝(高体連)

選手 スピード競技

(高校) 半田尹宏・大崎福政・伊藤宏之・戸塚英幸

(以上渋谷) 都田 保(前工) 下田吉尙(室高)

(一般) 茂木達夫(立大) 宮田欣次(日大) 狩野孝夫

(前橋) 斎藤芳男(伊香保)

(女子) 岩沢余春(榛名)

フィギュアー競技。

(男子) 吉川 寿(明大)

○第一一回(三一・一・二六)二九。青森県八戸市)

團長 木暮欽一(県連会長)

監督 塩原正孝(高体連) 福田松太郎(伊香保) 斎田顯繁・野

口嘉郎(以上前橋)

選手 スピード競技。

(高校) 大崎福政・戸塚英幸(以上渋谷) 鈴木功一(前

工) 佐藤光昭・大谷 勝(以上前高) 下田吉尙(倉

測分) 小泉昌次(前商定)

(一般) 茂木達夫(立大) 門倉啓治(専大) 木暮 佑

(慶大) 狩野孝雄(前橋) 斎藤芳男(伊香保) 鶴

田智之(群大) 半田尹宏(伊香保)

(女子) 岩沢余春(榛名)

フィギュアー競技。

(男子) 吉川 寿(明大)

○第一二回(三二・一・二四)二七。栃木県日光市)

團長 木暮欽一(右同)

監督 塩原正孝(高体連) 福田 実(伊香保) 斎田顯繁・野

口嘉郎(以上前橋)

選手 スピード競技

(高校) 戸塚英幸(渋谷) 鈴木功一(前工) 塚越次男

下田清治(以上榛高) 池田 功(孺恋分) 松崎 功

(渋谷)

(一般) 茂木達夫(立大) 門倉啓治(専大) 大崎福政

(専大) 木暮 佑(慶大) 鶴田智之(群大) 塚越
之男・下田吉尙(以上榛名)

(女子) 和田真利子・門倉文子(以上渋谷)

フイギュアー競技。

(男子) 吉川 寿(明大)

○第一三回(三三・一・二三)二六。岩手県盛岡市)

団長 木暮金太夫(県連会長)

監督 塩原正孝・木戸昭次郎(高体連) 野口嘉郎(前橋)

選手 スピード競技。

(高校) 下田清治・清水皓而(以上榛高) 箱田昭弘(渋

高) 鈴木功一(前工) 池田 功(嬭恋分)

(一般) 茂木達夫・戸塚英幸(以上立大) 門倉啓治・

大崎福政・鐸木孝夫(以上専大) 鶴田智之(群大)

下田吉尙(倉渕)

(女子) 和田真利子・門倉文子・山田瑞穂・半田全代

(以上渋谷)

フイギュアー競技。

(男子) 吉川 寿(明大)

○第一四回(三四・一・二二)二五。北海道帯広市)

団長 木暮金太夫(右同)

監督 塚原正孝(高体連)

選手 スピード競技。

(高校) 箱田昭弘・高橋 清(以上渋高) 池田 功・

黒岩正雄・塚越勝義(以上嬭恋分) 門倉 博(榛

高)

(一般) 下田清治・鐸木孝夫(以上専大) 下田吉尙(倉

渕)

(女子) 和田真利子・門倉文子・山田瑞穂・半田全代

(以上渋谷) 大森伸子(榛高)

(教員) 鶴田智之(元総社小)

○第一五回(三五・一・二二)二四。長野県美鈴湖)

団長 木暮金太夫(右同)

監督 塩原正孝(高体連) 門倉啓治(前橋)

選手 スピード競技。

(高校) 箱田昭弘・高橋 清(以上渋高) 門倉 博・唐

沢静夫(以上榛高) 関口好昭(前商) 大井巳喜彦

(嬭恋分)

(一般) 下田清治・鐸木孝夫(以上専大) 清水皓而(関

東学院大) 下田吉尙(倉渕)

(女子) 和田真利子(日体大) 門倉文子(専大) 大森

伸子・清水洋子(以上榛高)

(教員) 鶴田智之(元総社小) 富田裕二(榛高)

アイスホッケー競技(伊香保チーム)

(監督) 福田 実

(選手) 市川一夫・高橋 弘・斎藤正雄・萩原時市・

・金田 晋・高橋一男・斎藤芳男・富沢達雄・斎

藤 修・池川良夫・高橋庄作・真渕敏之・宮島誠

宮田博麿・山田 雅・加藤但万・池川 弘・角田

善彦・林 利夫（以上二〇名）

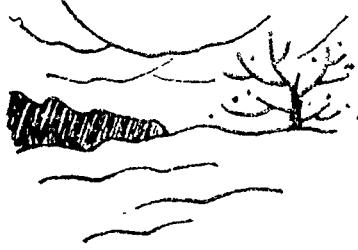
◎桑島体育賞受賞者。

和田真利子（渋谷・日体大）

全国高校スケート選手権大会（昭和三四年一月、北海道帯広市）において、五〇〇米第一位。

門倉文子（渋谷・専大）

全日本学生スケート（スピード）選手権大会（昭和三五年一月、北海道帯広市）において、五〇〇米・三、〇〇〇米の二種目第一位。



国体視察報告

第十四回国民体育大会軟式

庭球観戦雑感

澁川女子高校 高橋新次

若人の祭典、スポーツの祭典ともいふべき第十四回秋季国民体育大会は十月二十五日マンモス大東京のどまん中の陸上競技場の開会式によりその幕は切っておとされた。プラスチックの音律に引込まれて各県選手団の入場式色とりどりのユニホームまさに各県の特異性を象徴したように思われた。入場一瞬の緊張した面もち、こらえきれない歓喜の表情、あわい感傷の涙さえ浮べている。こんな複雑な表情もさすがに整列し終ると冷静にかえる。このとき異様に感じたことは両陛下に対する団体の敬礼が各県まちまちであるのはいかに敗戦国とはいえ集団行動の無秩序を暴露したものである。夕闇せまる頃よりスコットランド風の鼓笛隊洗練されたプラスチック、中学高校生のマスゲーム、夜空に映える短大生の懐中電灯の輪舞約一千人の揃いゆかたのおぼさん達の民謡おどり等その規模よりして大東京の面目を遺憾なく発揮した。

翌二十六日どんよりと低くたれこめた雲、肌寒さを覚えつつ軟式庭球会場中央大学コートに足を運べば各県の与望を担った男女高校の選手はトレーニングに軽い練習に余念はなかった。やがて八時三十分入場式は開始された。文字通り型のごとき式は終りコート割が

発表され男子高校は竹早コートに女子高校は本コートで試合は開始された。さすがに各県の精鋭を集めての国体だけあって妙技につぐ妙技手に汗す場面もしばしばあった。本県は一回戦に香川と対戦二対零で幸先よいスタートをきった。二回戦にシート組大阪と対戦惜しくも二対一で敗北を喫したのはかえすがえすも残念であった。午後両陛下の御臨場を仰ぎ各プレーヤー一斉に名譽と喜びに湧きたった。

両陛下は皇太子様と美智子妃との御結婚を想起されておられるのではないかとさえ感じられた。男子高校も三回戦以後本会場に移り男女高校入り交つてのプレーは態々たけなわとなった。

女子高校は広島対埼玉の決勝戦となり埼玉まず一点リードしこの儘おしきるかにみえたがさすが伝統を誇る広島は絶えず暗黙裡に監督のサインをかわし悠々歩をすすめ後半攻勢に転じ、一挙に勝を利してテニス王国の名をほしいままにした。

男子高校は強豪静岡が秋田に破れて気をよくして堂々準々決勝に進出したことは本県勢として万丈の気を吐いた。翌二十七日三位決定戦に岡山と対戦したが何か覇気に乏しく二対一で勝をゆずったのは残念であった。男女両高共観戦の感想は晴れの絵舞台に技を競うこと、国体参加ということ自体に夢をいだいて何かねばりのものたりなさか禁じえなかった。

本大会を通じて特に感じた二三点のについて述べることにする。まず試合前の相手との乱打であるがこれをホームコートに於ける乱打位に考えているむきはないかという点である。この乱打こそいろいろの点から大事な意味が含まれているのではなからうか。それ

はこの日の身体上又コートのコンディションを考えねばならない、風向風速の点も一応考慮にいれなければならない、打つばかりが乱打ではない。この僅か三分か五分の間に各種の変化球を送つて相手の長短を見抜く機会であることを銘記しなければならない。又試合中にもしばしば監督と連絡をとる位のゆとりが欲しい。

次に自分の得意のテニスをやるよう心掛けなければならない。相手のペースにつりこまれて終始借りものようなプレーに終らないで頭腦的なプレーを平素練習時に自分のものにしておくことが大切ではないだらうか。女子高校の第二回戦の大阪との対戦において特にこの感を深くした。

又サーブの問題ですが第一球が成功すれば僥幸くらいに考えて力まかせに打つ、このため第二球が極めて平凡なサーブになる。これはサーブに二回出せるという意識が強過ぎるのではないか。ファーストサーブを力まかせに打込んで失敗してもまだ一回だせるという考えは根本的に考えなおさなければならぬ。二球目はあくまで補助である。そうでないとサーブの意味がなくなってしまふ。サーブはどこまでも能動的であり攻撃でなければレシーブと何等変らない。変らないばかりではなく立場が逆になる場合が多い。力は七分でも必ずファーストを入れるよう練習すべきである。

この日お隣の後楽園球場では全国の野球ファンを興奮の坩堝の中に巻きこんだ南海巨人の日本選手権の日である。時々観声が聞える。快腕投手杉浦も三球でしとめたい。一球たりとも無駄な投球は許されない。一步誤ればとり返しはつかない。今人氣の相撲でも立上りが勝敗を決定すると解説者は報じている。この間の関係を考える

ときファーストサーブは実に重要であることがおのずからわかる。

女子高校の優勝チーム広島の後衛はこの間の消息を充分心得ていた。

最後に精神の問題にふれることとする。国体に出場できたのであるからマママ満足だとか、一回戦に勝ったからマママアといった気持は充分わかる。しかし今一步ふみこんで考えてみる必要があるのではないだろうか。県民の代表であるばかりでなく自己の過去三年間の汗と涙の総決算の日であることに思いをいたすべきである。群馬県民の欠点はと問うらばねばりがないと異口同音に答える。軟式庭球の特質からも一応考えてもよいことではないだろうか。総じて女子高校について述べたが紙面の都合で以下省略する。

【特別寄稿】

体育研究会後記

体育研究会報告

桐生市立商業高等学校 関 田 博 重

高校生のスポーツ偏重化を防ぎまた高体連の真のあり方の上に立って始められたこの研究会が昭和三十年より各地において盛大に実施され私達も度々参加させていただき種々の面に亘って本校体育指導の資とすることが出来関係者の御労苦に感謝致して居りました。

昨年桐生、伊勢崎、藤岡、安中が未実施地区であることを伺い本年は憊々桐生地区の番だ。しかし桐生は先輩の奉職される立派な桐

女、桐高、桐工があるので桐商は二番手であるからと内心気楽に考えていた。

たまたま桐生地区体育教師の会合で常務理事より今年桐生地区が研究会を指定されているがどうするかとの相談がありました各校ともそれぞれ確かな理由があるので済まないがこの次という線にまとまった、以来私どもは河原同然である運動場の全面的整地と施設の整備が本年の目標であるためそれに心を傾け、一方来年の目標と考えている「職業課程男女共学高校の体育指導は如何にすべきか」の問題解決の一調査を夏休みに言い指導の基盤を探究しようということにしてその準備に着手していたところが七月十四日恩師正木先生より突然「研究会をやってくれないか」との要望がありました。予期しないこと故希望的な御回答は出来なかった、再度二三日後に御連絡をいただくと同時に北井先生より重ねて要請をいただき「運動整備中の体育の授業はどうするかで一つ」と例の御調子で申されるので、それでは相談の上御回答致しましょうということになり早速慎重審議の結果研究資料を提供することで皆さんから種々の御指導をいただければ今後の本校体育の向上に大いに得るところがあることを信じ御引受することに致した次第であります、然しながら新しい学校の上に生徒数は年毎に増加校舎の増築に追われながら今日になった本校故に外形は整ったが内容の充実はこれから、とても研究会を引受ける状態ではないので肩の荷の重過ぎること此の上なしで神経は当日まで興奮の連続であった。幸にも関係諸先生の絶大な御教導をいただきました上に天候に恵まれ八〇数名の先生方の御来校をいただき盛大且意義ある研究会が無事開催出来ましたことは本

校の無上の慶事であると共に本校体育発展への飛躍台を得られた感が致し開催の苦勞は爽快な調べに打消されてしまいました。御参会の上種々御指導いただきました諸先生方に心から感謝申し上げます。次に日程その他について記述し御参考に供し度いと存じます。

一、期日 昭和三十四年十一月二十日(金)

二、日程 受付学校参観 九、〇〇〜九、四〇

公開授業 第一時 九、五〇〜一〇、四〇

二年男 西巻教諭(ハンドボール)

二年女 氏家教諭(ダンス)

第二時 一〇、五〇〜一一、四〇

一年男女 平林教諭(体育理論)

三年男女 関田教諭(バスケットボール)

三、研究会 一二、二〇〜一三、二〇

1. 主催者挨拶

2. 学校長挨拶

3. 講師紹介 日本体育大学教授 石津 誠先生

4. 体育方針説明

5. 授業説明

6. 質疑応答 研究協議

7. 講評

四、講演会 石津 誠先生 一三、三〇〜一五、〇〇

講評について一般的なことは御推察の通りであるが次の点を御指導いただく。

1. 環境の浄化が大切である(机の落書が見られる、体育館を清潔にする方法が必要)

2. 姿勢が悪い。

3. 授業について。イ、指導案の生活との関連は具体的に示す。

ロ、準備運動は主運動に最も適当するもの。

ハ、運動の基礎的技術と能力との関連を考

えて指導。

ニ、男女共学の問題は仲々困難である。米

国は五〇年、日本は一〇年であるからこ

れからである。

講演は日本体育学会に発表された「体育の限界について」時間の関係上先生の新しい然も深い研究の一部を実例を示しつつ解説されスポーツが道徳教育にどのようなつながりをもつか、例えばルールを知悉しその限界線一杯で競技することが立派なプレイヤーの技術であり精神であるが、法律を犯さないぎりぎりの線で上手に世渡りすることが果して人道上立派な精神態度であるか疑問である。体育は実践を通して人間性の発展を企図する教育であるがこのように考える時当然限界があることを認識せざるを得ない、等体育教師の反省と将来の指導法に大きな示唆をあたえられた。

以上乱文で恐縮ですがその責を果させていただきます。

高校体操競技に審判基準を

群馬県立前橋高校教諭

明 石 六 郎

体操競技の審判については、現在、日本の体操競技が世界第一流のレベルにある今日に於ても尙、幾多の問題点を残していると言つて良いであらう。

但し、終戦直後の体操競技と比較すると陸上競技のストップウォッチ並にはならなくも、より客観的な審判が行われる様になって来ている。ヘルシンキオリンピック大会、続いてモスコウに於ける世界青年スポーツ友好大会、メルボルンオリンピック大会と国際試合に日本選手が参加し好成績を残して行くにつれ審判技術も国際的レベルに達していると言い得る様になった。

この様に審判がより客観的に行われる様になった一つの大きな原因として、自由種目の構成に一つの基準を設けたと云う事があげられよう。即ち、「自由種目の構成は少くも十種目以上の運動によって構成され、そのうち一つの最高級難易度種目、四つの高級難易度種目、五つの普通難易度種目が含まれていなければならない」と云う基準である。

この事は審判員にも選手にもそれぞれの方法に大きな指示が与えられた事になった。

選手の練習法は必ずこの条件にかなったもので行われる様になり、以前の様に、むやみに、むづかしい種目を、と云うより一つの種目

をよりスムーズに、より正確に行う様な練習法に変わって来ていると思われるのである。

現に全日本選手権大会等で好成績をおさめる選手の技は決してスリルに富んだものでなく、一つ一つの技は全く完成され、見る人にそれがあたかも瞬時に消える名画の如き感を与えるものである。私にはこれが本当の体操競技の在り方ではないかと思う。即ち、体操競技の選手はスポーツマンであり、しかも芸術家である様な、これが本当の体操競技であると言いだす。

以上一般、大学、の体操競技の現在についてふれてみた。それではここで目を転じて高校の体操競技についてふれてみよう。そして現在の高校の練習方法ものぞいてみよう。

一般の体操競技の様に基準のない高校の体操競技が、競技の為に練習方法を如何に行っているのだからであろうか。

私は競技前の練習を特にどの様なところに重点を置いて指導すべきか、又生徒達にどの様な目標をもって練習すべきか云い得ない悩みに当面する事が度々である。

他の競技、例えば、バレーボールにしろ、バスケットボールにしろ、プレイヤーである生徒達は一応のルールを知っていて、そのルールの範囲内でより良いゲームが行われる様作戦をねるのである。如何に技術が優れていてもルールを知らないプレイヤーはゲームが出来ないのである。

体操競技はどうであらう。高校選手達の中で、一体何人の選手達がルールブックを読み、それを研究してプレイを行っているのだろうか、跳馬の高さ、鉄棒の高さ、徒手体操のフロワーの広さ等は

ルールの中の器具の基準であるにすぎない。こんなものは先ず大体全日本大会に出場する様な選手なら殆んど知っているであろう。しかし、これ等はそれ程体操競技の演技そのもの、作戦には役に立たないのではなからうか。体操競技が個人プレイである以上、個人としての作戦が必要なのである。その人の個性に合った作戦が必要なのである。この作戦はあくまでもルールの範囲内で行われなければならない事は勿論である。さてここで「ルールの範囲内で作戦をねる」と云う事を他のボールゲームに適用してみよう。バスケットボールに例をとれば、スクリーンプレイはプロッキングという反則にならない様にうまく相手の防禦を防ぐ方法であり、一ゲーム中に一チームがとれるチャージド・タイムアウトは五回であるが、ルールの範囲内なら、どんな時期にタイムアウトをとっても良いのである。相手チームが非常に調子にのって来ている時その調子をこわすのも利用する事も出来るのである。これ等はルールの範囲内でもルールをうまく利用しているやり方である。では一方体操競技に於ては、この様な作戦の必要はないのであろうか、否、非常に必要なものになって来ているのであると思う。

競技場ではしばしば見かけるのであるが、体力のない者が自分の体力以上の種目を十三、十四種も入れて最後の重要なフィニッシュ種目が全くみじめに終るのを……

これはまさしくルールをうまく利用していないプレイヤーと云う事が出来よう。何故ならばルールでは十種目あれば良い事になっているのにもかかわらず、知ってか、知らずか、体力以上に組み入れて失敗しているのである。徒手体操は一分一分三十秒までやれば

良いのを一分三十秒一ぱいにやり、最後まで体力が續かず失敗する等も同じことである。

ルールの範囲内で自分の体力に又個性に合致したものを構成する者、全日本大会等で好成绩を得る人々はこんな人ではなからうか、一般、大学に於ける選手達の殆んどがルールをうまく利用している人達であるが、地方の高校に於ては全くプレイヤー自身ルールを知らないし、審判員ですら高校の場合にはその殆んどが主観的な審判を行っているのが現状であると云っても過言ではない。

これは決して審判員、プレイヤーに責任があるとは云えない。高校体操競技そのものに問題があると思う。

競技が行わる前の審判長の決り文句、「此の競技は日本体操協会の設置するルールに従って行います、」はなるほど一般体操競技では適用されるが、高校の場合では一部を除いては適用出来ない面がある。規定問題では矛盾はないが、自由種目に於て此のルールを適用したなら、高校生の体力で、鉄棒、平行棒、吊環、鞍馬で十種目をやり、それに最高級、高級、普通難易度のものをそれぞれ五種目、四種目一種目とやらなければフルポイント十点の得点からの減点がなされないこと云う事になってしまう。これが高校の体操競技に適用されるべきかは大きな疑問である。

安全教育が云々されている今日、この様なことを高校の選手に適用して良いものであろうか、もし適用したなら、高校のクラブ活動の場に於ける体操競技の練習は全くスリルに満ちたサーカス並になつてしまふだろう。

私はここに先ず高校体操競技のルールの必要性を特に切望するも

のである。それによって選手達が倒立一つでも、バランス一つでも又前転一回でも粗末にせず立派に育てていく様になってくれるのを期待するのである。体操競技がフィギュアスケート、水泳のダイビングと並んで芸術的な面をもっているとするれば、もっと私達は選手一人一人が高度な技を望む前にフォームの研究を楽しみながら練習する余裕を与えてやるべきだと思う。

そして倒立一つのフォームをお互いに批評し合い、話し合う態度、オリンピック選手の技を見る場合にもその高度な技を見ると同時に、リズムの美しさ、構成の面白味、フォームの神秘的な美しさを見る習慣をつけてやりたいと願うのである。

それにはどうしても高校生の為のルールを一日も早く作ってやり、彼等自身にそれを身をもって体験させる事が必要なのではないかと思うのである。

私がここでそのルールを発表出来る能力を持ち合せないのは誠に残念な事であるが、是非近い将来に於て実現出来て、私達高校生徒を指導する立場にある者が自信をもって生徒の指導が出来る日の近からん事を心から祈っているものである。

山に例えれば頂上だけは世界一流の吾国の体操競技にも、麓にはこの様な大きな悩みがあり、もっと麓の方には中学校の体操競技に於てそれ以上の大きな悩みをもっているのではないかと心配される。オリンピックで金メダルを獲得するのも良し、しかし体操競技の普及発展はそれだけで止まるものではないと思うのである。

以上高校、大学、一般の競技会に参加し、又それを審判する立場に置かれる時、常に私の頭の中から離れない事をざっくばらんに書いてみました。

スキー技術の考え方

全日本スキー連盟公認指導員

林 千 春

最近一般者のスキー技術の向上は目ざましいものだ。特に私はこのことを志賀高原のスキー場で一週間許り一般スキーヤーの滑るのを見て感じた。

御存じのように志賀高原スキー場位完備されたスキー場は国内には余りみかけないところである。それに加えて初級コースから上級コースと区分されて、それぞれのコースを技倆一ぱいに滑っている訳であるが、本当によくしたもので自分の技術に相応した場所だけに安心して滑っていられる。

それだけに無茶な者や、コースを荒す者もいなくて至極気持のよいスキーが楽しめる。

考えてみると最近では自分のスキー技術の程度というのが各人なりに解ってきたのだと考えられる。

そこで一体スキー技術とはどのようなことが出来れば程度の評価がなされるかと正面きって考えてみることにする。

一、スキーの醍醐味は一つには、スピード。

二、回転………方向転換である。

この二つがマスター出来れば十分なのであるがそれが技術である。どのような斜面でも、自由なスピードで方向転換が自由に出来れば最高の技術者であると考えていい訳である。姿勢とか、スキーの開

きなどを気にすることは全く無い訳で、これ等は技術と考えない方がいいと言うことになると思う。それ故に「スピード」の出せる技術とはどの程度のことを言うかこれは斜面に感じたスピードということになるであろう。与えられた斜面に最高スピードで滑降出来れば最高技術である訳で常にこのことを考えて滑ることである。滑降をみていて「スピード」のない滑り方をしていては如何に奇麗な格好をしていても技術的に上手とは言えないことだ。

次に回転……方向転換。これが自由に出来ることである。如何なる斜面に於ても又雪の状況によっても、これを巧に回転出来ることは技術の最高だと自負していいことだと思ふ。如何なる姿勢でも、足の開きがどのようなであつても、自由に操作出来ることは確かに技術的に最高だと思ふ。「スピード」と方向転換がマッチした時に本当の技術の最高位だと考えられたらもっと「スキー」についての認識を改めるようになると思ふ。

競技スキーがスキー技術の最高をねらっているのであることもうなづけることであるし、競技スキーに専念しながらもっとスキーを学ぶべきではないかと思ふ。

一般スキー技術はこの点を余り強調しないで、「フォーム」のみを重視しているかのようにみえてならない。

スキーは感覚的なスキーでなければならぬと言つた方がいるが、実際には全くスキーをつけているのだと感じていては駄目で下駄と考へて体自体で運動しているようにならなければならぬ訳である、所謂感覚スキーで曲る感覚は身体全体の感覚でスキーは余り考へないで回転が出来るようになることであろう。

以上

十周年記念行事記録及専門部報

バスケット部報告

委員長 清 水 貞 保

○群馬県々民体育祭
高体連創立十周年記念体育大会〔兼関東高校県予選〕

一、期 日 五月九、一〇、一五、一六、一七日

二、場 所 前女、高々、高工

三、参加校 男子二八チーム、女子一五チーム

四、成績 男子の部

ベスト、フォワードまでトーナメントで行い、上位四チームは決勝リーグを実施した成績次の通り。

高 商 52	高 高 61	高 商 53	太 高 43	高 高 44	太 高 57
(3418)	(3922)	(3212)	(1825)	(3014)	(3522)
2315	2519	8 19	1624	2214	1419
38 太 高	44 館 高	27 館 高	40 高 高	36 高 商	33 館 高

以上の結果二勝一敗が三チーム出来たが総得点と総失点の結果、第一位高商、第二位高高、第三位太高、第四位館高。関東高校には上位三チームが県代表に決定。

女子の部 一回戦

沼 女 22	前市女 53	桐 女 72	高 女 103	藤 女 46	前 女 43	伊 女 42
— 20 館 女	— 37 伊 高	— 10 渋 女	— 8 渋 女(定)	— 27 太 女	— 23 富東高	— 31 桐 商

二 回 戦

高市女 39	前 女 39	高 女 54
— 17 沼 女	— 25 桐 女	— 21 伊 女
藤 女 47		
— 34 前市女		

準決勝戦

高市女 53	高市女 65
(3122)	(3332)
1010	2820
20 藤 女	48 前女

決 勝 戦

高市女 45	31 高 女
(2619)	
1813	

三位決定戦

藤 女 40	33 前 女
--------	--------

以上の結果上位三チームが関東高校に県代表として出場した。

○第十三回関東高校男子バスケットボール選手権大会

- 一、期日 六月六、七日
- 二、場所 川崎市民会館、東芝体育館
- 三、参加校 三二チーム
- 四、成績 一回戦

高商 55 — 42 宇商
 太商 61 — 54 甲府商
 高商 53 — 44 川口工

二、一回戦

高商 56 — 66 武蔵高
 太商 38 — 65 暁星
 高商 36 — 77 明星
 決勝(申し合せに依り二チーム優勝とす)
 中大杉並 79 — 56 立教
 暁星 58 — 52 明星

○第十三回関東高校女子バスケットボール選手権大会

- 一、期日 六月一三、一四日
- 二、場所 埼玉県営体育館
- 三、参加校 三二チーム
- 四、成績 一回戦

藤女 35 — 46 安房二
 高女 30 — 51 栃木
 高市女 37 — 27 宇女

二、一回戦

高市女 57 — 29 三条東
 準決勝戦

高市女 44 — 21 浦市高
 決勝(申し合せに依り二チーム優勝とす)
 高市女 22 — 68 栃木
 上田染谷丘 37 — 30 十文字

○昭和三十四年群馬県高校選手権大会

兼全日本高校バスケットボール選手権県予選

- 一、期日 七月一九、二〇、二一日
- 二、場所 高々、太商、高工、前女
- 三、参加校 男子二九チーム 女子一九チーム
- 四、成績 男子の部 一回戦

蚕糸 37 — 33 伊工 前 高 60 — 43 桐市商
 高工 62 — 38 桐工(定) 桐 工 44 — 42 桐高
 富高 77 — 22 利根農 前 工 2 — 0 藤高(定)
 館高 78 — 13 小泉農 藤 高 43 — 42 中之条
 勢農 39 — 38 渋高 伊 高 65 — 43 沼高
 前商 98 — 28 吾高 下仁田 2 — 0 大間々
 太商(定) 50 — 42 関東学園
 二、一回戦
 高商 95 — 16 蚕糸 高 工 49 — 47 前高
 富高 69 — 47 桐工 館 高 59 — 30 前工
 太商 89 — 15 藤高 伊 高 77 — 33 勢農

前 商 86 — 42 下仁田 高 高 114 — 32 太高(定)

三 回 戦

高 商 66 — 55 高 工 富 高 50 — 35 館 高
太 高 74 — 39 伊 高 高 67 — 50 前 商

準 決 勝 戦

高 商 71 (4229) — (1921) 40 富 高 太 高 52 (2032) — (1725) 42 高 高

決 勝 戦

高 商 69 (3138) — (1331) 44 太 高

女子の部 一 回 戦

富 東 高 47 — 46 前 市 女 伊 高 27 — 17 常 盤 高
桐 女 96 — 16 尾 島 (分)

二 回 戦

高 市 女 46 — 19 富 東 高 桐 市 商 33 — 28 中 之 条
沼 女 41 — 24 伊 女 前 女 59 — 27 吾 高
藤 女 37 — 27 伊 高 高 女 (定) 61 — 14 境 高
館 女 36 — 14 太 女 高 女 66 — 38 桐 女

三 回 戦

高 市 女 59 — 18 桐 市 商 前 女 31 — 26 沼 女
高 女 (定) 48 — 40 藤 女 高 女 59 — 21 館 女

準 決 勝 戦

高 市 女 50 (2921) — (1419) 33 前 女 高 女 60 (3723) — (1410) 24 高 女 (定)

決 勝 戦

高 市 女 38 (2117) — (2115) 36 高 女

男子高商、女子高市女が夫々優勝し全日本高校選手権大会に出場した。

○ 第一二回全日本高校選手権大会

一、期 日 八月二二—一六日

二、場 所 熊 本 市

三、成 績 男子の部 一 回 戦

高 崎 商 業 高 校 78 — 65 大 分 舞 鶴

二 回 戦

高 崎 商 業 高 校 57 — 93 静 岡 高 校

女子の部 一 回 戦

高 崎 市 女 高 50 — 42 尚 綱 高

二 回 戦

高 市 女 高 37 — 40 明 善 高

○ 第一四回国民体育大会群馬県予選会

一、期 日 八月二二日、二三日、二四日

二、場 所 前 女、高 高、太 高

三、成 績 男子 一 回 戦

勢 農 2 — 0 下 仁 田 桐 高 — 桐 市 商

前 工 87 — 22 小 泉 農

二 回 戦

高 商 74 — 24 勢 農 伊 高 2 — 0 蚕 糸

決勝

桐工(東部) 55 (3421) | | 43 渋高(北部)

女子の部一回戦

前女(中部) 51 | 20 尾島(東部) 富岡東 43 | 28 吾女(北部)

桐女(東部) 26 | 19 渋女(北部) 高女 34 | 23 大胡(中部)

準決勝

富東 高 29 | 25 前女 高女 53 | 17 桐女

決勝

高女(西部) 48 (2622) | | 914 (23) 富東高(西部)

○昭和三四年度縣下高校新人戦

一、期日 一月一六日、一七日、二四日

二、場所 前女、高工、高高、富高、桐市商、伊女各体育館

三、参加校 男子二三チーム 女子一八チーム

四、成績 男子一回戦

館高 | 下仁田 桐高 | 桐市商

藤高 | 吾高 沼高 | 勢農

高高 64 | 20 蚕糸 渋高 29 | 28 伊工

中高 | 渋高(定)

二一回戦

太 高 2 | 0 万場(分) 高工 75 | 26 館高

前 商 73 | 39 桐高 伊高 63 | 16 藤高

桐 工 76 | 20 沼高 高々 40 | 37 前工

高 商 54 | 31 渋高 富高 71 | 16 中高

三回戦

高工 41 | 28 太 高 前商 43 | 34 伊高

桐工 50 | 39 高 高 高商 52 | 36 富高

準決勝

高工 61 (2635) | | 2813 (41) 前商 高商 65 (2936) | | 2618 (44) 桐工

決勝戦

高工 69 (3237) | | 2423 (47) 高商

女子一回戦

吾女 26 | 21 桐女 館女 28 | 18 松井田

二回戦

前女 63 | 8 吾女 沼女 40 | 10 桐市女

藤女 2 | 0 渋女 前市女 43 | 11 尾島(分)

高市女 2 | 0 中之条 富東高 42 | 28 伊女

太女 2 | 0 万場(分) 高女 48 | 26 館女

三回戦

前女 37 | 18 沼女 前市女 41 | 28 藤女

高市女 55 | 35 富東高 高女 2 | 0 太女

決勝リーグ戦

高市女 32 | 27 前女 高市女 56 | 44 前市女

高市女 32 | 30 高女 高女 56 | 51 前女

前市女 35 | 29 高女 前女 51 | 35 前市女

十年前を省りみて

バスケットボール委員長 清水 貞 保

一口に十年と云えば大変短かく感じますが、同じことでも十年一昔と云えば大変古い過去の時代の様にもひびきます。

この十年間バスケット専門部をおあずかり致しまして何等なすことなく過したことを考えますと誠に慙愧にたえません。

ここに出発当時の様子をいくつか記録いたします。昭和二十一、二年といえますと再出発であり啓蒙時代で、この頃の設備(コート)は県下で試合の出来る体育館は二、三校で他はすべて校庭にラインを引いた急造のコートであったと云って良いと思います。

青空コートではフットワークもシュートも決してうまくゆくわけにはまいりません、しかし復興の喜びに目をかがやかせ乍ら当時の選手はそれこそ真黒になってやったものでした。従ってプレーは今から考えると誠に粗暴なプレーが多く審判なども大変苦労しました。

しかし一、二年経験をつむとぐつと見栄えのする試合が多くなり、バスケットの啓蒙運動も着々と効を奏し、至る所で〇〇大会、〇〇選手権大会と各種多様な形式で大会が開催される様になってきました。しかし乍らこれらの大会は殆どがバスケットボール協会によって企画運営されるものばかりで、どの大会もフリー参加の形式大会でした。その中でも足利市協会が主催した両毛大会など有名で審判も中央から派遣され、なかなか盛大で忽ち両県の精鋭が集り最初は二日位で終った大会でしたが三日も四日もかかる様な参加チーム数

にふくれてしまいました。しかし当時の両毛線の交通事情は誠に悪くうっかり勝ち残ってしまうと帰りの列車がなくなるという始末でほんとうに心細く、完全に力も出しきれない笑い話しの様なこともありました。この様な盛大な大会でも準々決勝までは青空コートでもしも真夏の大会だった為選手の疲労も大変なものでした。

東京で開催された関東高校選手権大会は流石に第一回戦より全試合が体育館で行われ、しかも東京にゆける魅力も手伝い、忽ち百チームを越える始末で五日間もかかり、全日本や国体より以上の大会となりました。

高体連が運営面にも強力な発言と実行力とを云々されたのは二十五年頃からであったと記憶しています。この頃から大会の形式や内容も整理されはじめ学業にも支障の起らぬ様に注意されてまいりました。

現在では大都市をのぞくと各府県とも高校チーム、並高体連関係の活躍がその主軸をなして運営されるまでになっております。東京オリンピックをあと五年後に控えその責任が重大であると存じます。

バスケットボール年表

(清水)

学制	旧制中学時代		新制高校時代		大会整理時代		全国プロツク大会年一回出場時代							
学年	昭和21年	昭和22年	昭和23年	昭和24年	昭和25年	昭和26年	昭和27年	昭和28年	昭和29年	昭和30年	昭和31年	昭和32年	昭和33年	昭和34年
プロツク	啓蒙宣伝時代		大会乱立時代		伝統大会存続時代		少数代表制提唱時代		府県代表制時代					
			オール参加											
			近畿中業バスケット大会		北関東高校バスケットボール選手権大会									
			関東高校バスケットボール選手権大会		関東高校バスケットボール選手権大会									
			国民体育大会 (高校の部)		全日本高校バスケットボール選手権大会 (都府県代表制)									
			全日本高校バスケットボール選手権大会		全日本高校バスケットボール選手権大会 (府県代表制)									
			全定田地区別バスケットボール選手権大会		全定田地区別バスケットボール選手権大会									
			群馬県高校バスケットボール選手権大会		群馬県高校バスケットボール選手権大会									
			全定田地区別新人リーグ戦		全定田地区別新人リーグ戦									
			県下高校新人戦		県下高校新人戦									
国際的			14回オリエント		15回オリンピック		16回オリンピック							
			10回ロンドン		11回アジア		12回アジア							
西暦	1946年	1947年	1948年	1949年	1950年	1951年	1952年	1953年	1954年	1955年	1956年	1957年	1958年	1959年

群馬高体連十周年記念

行事報告

サッカー委員長 飯島徳治

群高体連十周年記念祝典高校サッカー大会

(一) 昭和三十四年五月十六日 土曜日 午前九時開会

(二) 群馬大学 学芸学部グラウンド、

(三) 組合せ

- (1) 沼田高校——伊勢崎高校 午前九時キックオフ。
- (2) 藤岡高校(定)——高崎高校 // 一〇時一五分
- (3) 勢農高校——藤岡高校(全) // 一一時三〇分
- (4) 前橋工高校——太田高校 // 一二時四五分

館林高校、高崎商高校の二校もこの祝典サッカー大会に参加希望をもっていたのであるが、館林高校は遠隔にある事と、選手に個人の都合で不参加者が多かったためこの大会に不参加に終わった事、それと高崎商高校は丁度関西旅行であったために不参加に終り、この祝典競技が参加された八校の間に花々しい競技が進められ高体連の祝典大会にふさわしかった。それから新チーム編成の各校の間に早くもこのすばらしい熱戦が展開したのは今後の群馬高校サッカーの水準が高揚してきた事に帰因するものと思う。

次に創立当時は勢農高、館林高、高崎高の三チーム位だったのが現在は三倍以にチームの参加をみていることは群馬高校

の発展を象徴してきたものと思う。
 (四) 大会成績

(1) 沼田高校	1	$\begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$	0	伊勢崎高校
(2) 藤岡高校(定)	2	$\begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$	1	高崎高校
(3) 勢農高校	1	$\begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$	0	藤岡高校(全)
(4) 前橋工高校	2	$\begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$	0	太田高校

(五) 概略……創立当時より現在まで

群高体連創立当時は僅か三校位のサッカーチームも年毎に増加して今日の一〇チームを数えるようになった。技術や大会成績についても県内大会も県外大会にもあまり芳しくなかった。

それが館林高校の県代表権を獲得するようになってからまず昭和廿九年第九回国民体育大会に(北海道岩見沢市)出場をはじめとして、昭和卅二年第十二回国民体育大会(静岡県藤枝市)に、第十三回国民体育大会(富山県)にて全国高校第四位をおさめたこと、又第卅七回全日本高校サッカー大会にも同チームが北関東代表となつて大阪の中央大会にまで駒を進め得たこと、年々隆盛をたどってきた群馬高校チームは本年も第十四回国民体育大会(東京都)に館林高校も出場して団体成績第五位をあげたこと、最もこの大会の快ニュースは第卅七回全日本高校サッカー大会の優勝京都代表山城高校を最後に追撃して二対一で破ったことは群馬高校サッカーマンのたいに自信もてることでないか。

サッカー部

委員長 飯島 徳治

※第八回群馬県高校新人サッカー大会

期日 昭和三十四年二月一日・八日・十五日

会場 東リーグ { 一日 太田高校 } 西リーグ { 一日 高崎高校 }
 { 八日 伊勢崎高校 } { 八日 藤岡高校 }

決勝 { 十五日 前橋総合グラウンド }

試合方法

東 館高 伊高 勢農 高高
 西 高商 藤高全 藤高定 沼高
 一日の成績
 館高校 8-0 勢農校 高商校 3-2 藤高(定)
 館高校 2-0 伊高校 沼高校 4-1 藤高(全)
 高高校 4-0 勢農校 沼高校 1-0 藤高(定)

八日の成績

館高校 5-0 高高校
 伊高校 (棄) 勢農校
 伊高校 2-2 高高校
 十五日の成績 東 (館高・高高) 西 (沼高・高商)

準決勝 { 館高校 5-0 高高校 } 三位決定 高商校 3-0 沼高校
 { 高高校 1-0 沼高校 }

決勝

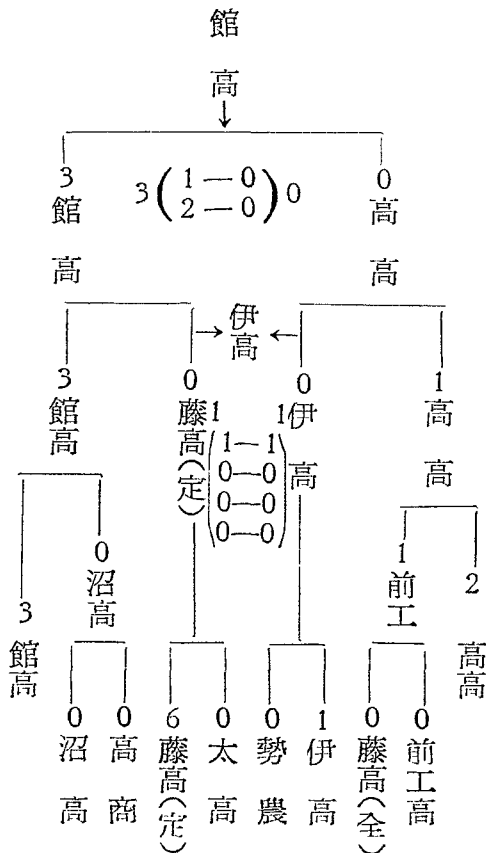
館高校 3-2 0 高高校
 決勝メンバー

館林高校 高崎高校
 小松原 GK 友松
 (土井) 中大 村山 } F B { 相川
 日向 野川 青藤 木平井
 日宇吉 沢川 桜 越口
 柳砂 佐藤 塚 樋松 丸清
 (早川) 土早 賀 藤 井 川 } F W { 水

※第二回関東高校サッカー大会県予選

日時 昭和三十四年五月三十一日・六月六日・七日

会場 高崎高校 前橋総合グラウンド
 県代表 三チーム。甲府市。八月上旬



決定、県代表（昭和三十四年六月七日前橋綜合グラウンド）

第一位館林高校 第二位高崎高校 第三位伊勢崎高校

※第二回関東高校サッカー大会成績

期日 昭和三十四年七月二十九日～八月二日
会場 甲府市県営グラウンド・甲府工高校

七月二十九日の成績（第一回戦）

館林高校 4-0 帝京高校（東京代表）
高崎高校 0-9 浦和商高校（埼玉代表）
伊勢崎高校 0-11 浦和西校（埼玉代表）

七月三十日の成績（第二回戦）

館林高校 0-2 甲府工高校（山梨代表）
今後の県代表チームとなりましたからには尙一層の高校生らしい真剣にして誠実あるそして盛り上げる闘志を希望してやみません。尙佐島康先生（勢農校）高橋基治先生（高家商高校）飯島徳治先生（館林高校）の各先生方はこの高校大会の指定審判員として最終日まで審判指導されました事を御報告申し上げ且又熱い中を連日本当に御苦勞様でした。今後の審判に御活躍を期待申し上げます。

※第十四回国民体育大会蹴球競技群馬縣予選

期日 昭和三十四年九月四日・五日・六日
会場 群馬グラウンド
組合せ

決勝競技（群馬県代表戦）

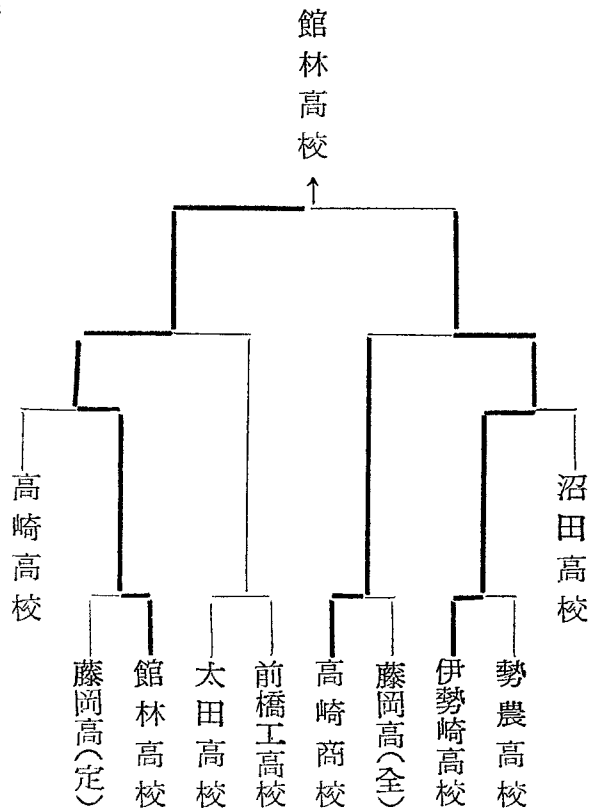
館林高校 3 (2|1|0) 0 伊勢崎高校

※第十四回国民体育大会関東ブロック予選

期日 九月十二日・十三日
場所 栃木県宇都宮市西川田 県営グラウンド
方式 半リーグ・トーナメント法

十二日 館高校 0-2 宇都宮工高校
十三日 館高校 0-4 浦和市高校
 (館高校 2-0 千葉一高校)

両日とも関東の強豪・浦和市高（国体、第三十八回I・Hに優勝）宇都宮工高と対戦し苦戦を展開したが、結局館高健児のフアイトと粘りを持ってあたり東京大会への出場権を獲得した。



※第十四回国民体育大会

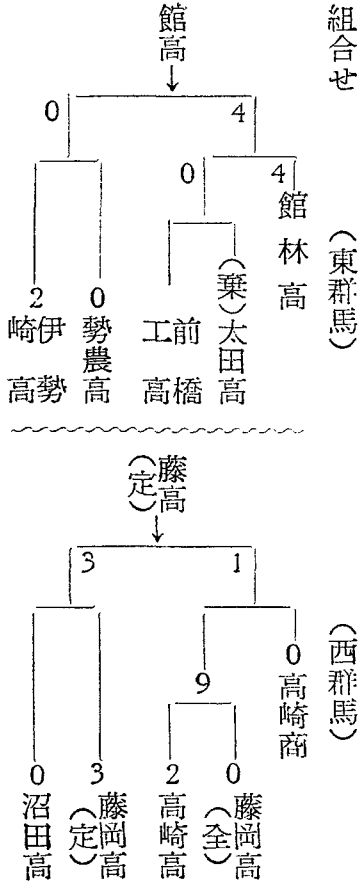
期日 昭和34年10月25日～30日
 会場 東京都 上智大グラウンド・小石川サッカーグラウンド

第一回戦 館林高―不戦勝―岐阜工高(岐阜県代表)
 第二回戦 館林高2―1 山城高(京都代表)
 準々決勝 館林高0―9 浦和市高(埼玉代表)

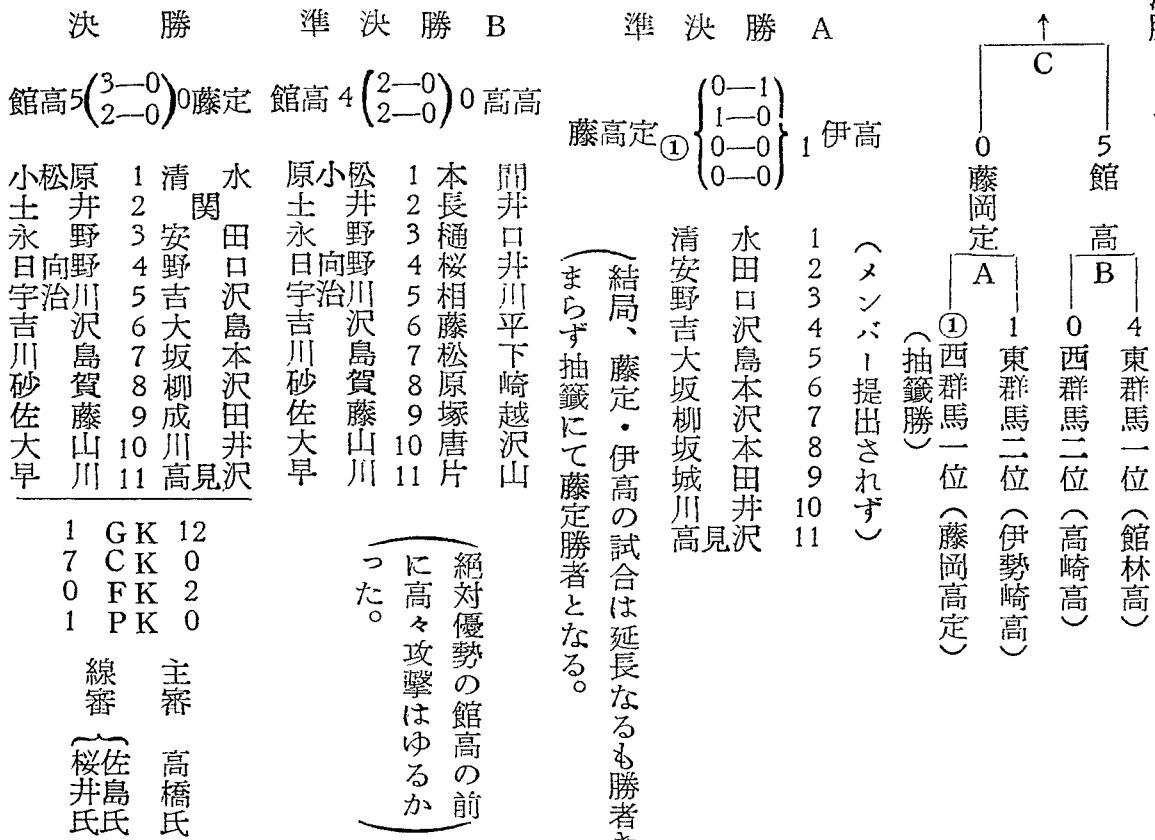
準々決勝では、本大会優勝の浦和市高に完敗したが第三十七回全日本高校サッカー大会優勝校の京都代表山城高に対戦するとは思わなかった不運に終わった全国大会の折の雪辱に燃え完全に制圧して本年最大の榮譽をかちとった。この日こそ館林高サッカー部のクライマックスの日であり、群馬高校の最高の日に同じである。

※第三十八回全日本高校サッカー大会群馬県予選

期日 昭和34年11月7・8・11・14・15日(五日間)



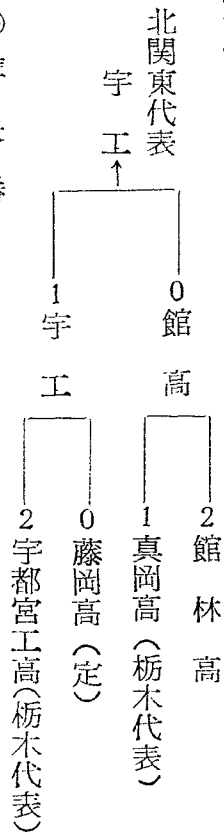
決勝トーナメント



館林高校。藤岡高定は群馬県代表となり十二月五日、六日北関東大会に出場と決定した。(前橋綜合グラウンドにて)

※第三八回全日本高校サッカー大会北関東大会

期日 昭和35年12月5・6日
会場 館林市三の丸グラウンド
組合せ



◎準決勝

館高 2 {1-0 / 0-2} 真岡高 1
原井野野川 沢島賀藤 山川
松向治
小土永日宇吉川 砂佐大早
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
林井宅上本原川原関田口
(武)(征)
小白三田山萩石萩大豊小

館高RFの蹴ったボールが真岡のLIにあたり先取得点され前半終る。後半館高9分と14分にきめて2対1で一勝す。

藤高(定) 0 {0-0 / 2-0} 宮高 2
水 田口沢島本沢田井沢
清関安野吉大坂柳成河高見
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
田子野 原山子川本崎
江金平 塚檜益小松岩 森

藤高のスピード猛烈にて前半0-0で終る。
後半宇工8分と22分にきめて2-0で宇工一勝す。

◎決勝(北関東代表戦)

館林高 0 {1-0 / 0-0} 宮高 1
一操郎和勳崇己昭彦稔男
洋四義勝邦勝久仁
原延野川 勝久
松井野向治沢島賀藤山川
小土永日宇吉川 砂佐大早
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
成弘稔郎義一堅進夫行一
志典正栄 育照

前半宇工28'松本CFのパスを益子RWヘディングできめて先取得点す。
後半館高元氣益々發揮したけれど宇工は一点を死守して北関東代表となる。

加藤三郎主審談

昨日の準決勝とちがい宇工・館高共に非常によい決勝戦だった。試合内容も実によかった。これならば本大会に出してもはばつかしくないと思う。両校の力はチームとしては大差ないがただ二、三人の選手の技術に差があったことが勝敗の分れ目となったのだらう。群馬高校チームの自重と精進をのぞんでやまない。来年もどうかこんな成績を納めたいものだ。

34・12・6・記

バレーボール部

委員長 多 胡 善 夫

○高体連創立十周年記念大会

関東バレーボール女子選手権県予選会

五・一五・県営バレーボールコート

第一回戦

<p>前橋市女高2 0 利根商高 吾妻高2 0 榛名高 藤岡女高2 0 吾妻高 長野原分高 富岡東高2 0 佐波農高 館林女高2 0 高崎商高 中之条高2 1 館林女 板倉分高 境高 校キケン 桐生商高</p> <p>第二回戦</p> <p>高市女高2 0 境高 明和家政2 0 沼田女高 前橋女高2 0 中之条高</p> <p>第三回戦</p> <p>高市女高2 211221 192114 1 桐生女高</p>	<p>桐生女高2 0 太尾島分高 明和家政2 0 太田女高 伊勢崎女高2 0 関東学園高 沼田女高2 0 桐ヶ丘高 前橋女高2 0 伊市女高 渋川女高2 0 高崎女高 小泉農高2 0 藤女定時制 桐生女高2 0 前市女高 小泉農高2 0 館林女高 高崎技芸高2 0 渋川女高</p> <p>伊勢崎高2 2221 209 0 明和家政</p>
---	--

準決勝戦

富岡東高2 211621 202112 1 小泉農高	高崎技芸2 2121 185 0 前橋女高
--	---

決勝戦

高市女高2 2121 1111 0 伊勢女高	高崎技芸2 2121 185 0 富岡東高
--	---

以上の結果、準決勝戦に駒を進めた四校（高市女、高技、伊女、富岡東）が第十三回の本大会に出場、尙十周年記念優勝旗は高市女の頭に輝いた。

○高体連創立十周年記念大会

関東バレーボール高校男子県予選会

五・一七・県営バレー、コート

第一回戦

<p>前橋高2 0 渋川工高 佐波農高2 0 小泉農高 富岡高2 0 蚕糸高 関東学2 0 中之条高</p> <p>第二回戦</p> <p>高崎商高2 0 前橋高 前橋商高2 0 佐波農高 富岡高2 0 勢多農高 館林高2 0 関東学園</p>	<p>桐生商高2 0 利根商高 高崎工高2 1 中之条 伊勢工高2 1 太田高 伊勢崎高2 0 桐生高</p> <p>高崎高2 1 桐生商高 渋川高2 1 高崎工高 前橋工高2 0 伊勢崎工高 桐生工高2 0 伊勢崎高</p>
--	---

第三回戦

高崎商高2 $\begin{matrix} 2121 \\ | | \\ 49 \end{matrix}$ 0 高崎高

前橋商高2 $\begin{matrix} 2121 \\ | | \\ 139 \end{matrix}$ 0 渋川高校

前橋工高2 $\begin{matrix} 2121 \\ | | \\ 1515 \end{matrix}$ 0 富岡高

桐生工高2 $\begin{matrix} 2121 \\ | | \\ 1518 \end{matrix}$ 0 館林高校

高崎商高2 $\begin{matrix} 2121 \\ | | \\ 198 \end{matrix}$ 0 前商高

桐生工高2 $\begin{matrix} 2121 \\ | | \\ 1711 \end{matrix}$ 0 前橋工高

決勝戦

高崎商高2 $\begin{matrix} 2121 \\ | | \\ 1114 \end{matrix}$ 0 桐生工高

十周年記念優勝旗は高商の手中におさめられ、高商、前商、桐工前工の四校が甲府市で開催された第十三回の本大会に出場した。

○全日本バレーボール高校男子選手権県予選会

七、一二、県営バレーコート

第一回戦

太田高校2 | 0 館林高校

勢多農高校2 | 1 伊勢崎高校

富岡高校2 | 0 渋川高校

佐波農高校2 | 0 利根商高校

渋川高校2 | 0 小泉農高校

前橋高校2 | 1 桐生商高校

第二回戦

高崎商高2 | 0 太田高校

桐生高2 | 0 沼田高校

前橋高2 | 0 中之婦恋分

前橋工高2 | 0 勢多農高校

前橋商高2 | 0 富岡高校

渋川高2 | 0 高崎高校

高崎工高2 | 0 関東学園

桐生工高2 | 0 佐波農高校

第三回戦

高崎商高2 $\begin{matrix} 2121 \\ | | \\ 95 \end{matrix}$ 0 桐生高

前橋高2 $\begin{matrix} 2121 \\ | | \\ 1917 \end{matrix}$ 0 前橋工高

前橋商高2 $\begin{matrix} 2121 \\ | | \\ 1310 \end{matrix}$ 0 渋川高

桐生工高2 $\begin{matrix} 2121 \\ | | \\ 1011 \end{matrix}$ 0 高崎工高

準決勝戦

高崎商高2 $\begin{matrix} 2121 \\ | | \\ 1311 \end{matrix}$ 0 前橋高

前橋商高2 $\begin{matrix} 2121 & 8 \\ | & | \\ 1219 & 21 \end{matrix}$ 1 桐生工高

決勝戦

高崎商高2 $\begin{matrix} 2121 \\ | | \\ 812 \end{matrix}$ 0 前橋商業高校

代表として優勝校、高崎商業が秋田市に於ける本大会に出場活躍した。

○全日本バレーボール高校女子選手権県予選会

七、十六、県営バレーコート

第一回戦

太田女高2 | 1 桐ヶ丘高校

桐生女高2 | 0 前橋市女校

高崎女高2 | 0 佐波農高校

前橋女高2 | 0 境高

藤岡女高2 | 1 伊勢市女校

高崎商高2 | 0 関東学園

明和家政校2 | 0 吾妻高校

館林女高2 | 0 常盤学園

藤女定時制^{キケン}2 | 0 太女尾分校

第二回戦

高崎市女校2 | 0 太田女高

桐生女高2 | 0 小泉農高校

前橋女高2 | 0 高崎女高

富岡東高2 | 1 藤岡女高

伊勢女高2 | 0 高崎商高

明和家政校2 | 0 桐生商高

館林女高校2—0 沼田女高校 高崎技芸校2—0 藤女定時制
 第三回戦

高崎市女2 2121 桐生女 前橋女高2 211921
 9 7 162114
 0 1 富岡東高

伊勢女高2 2121 明和家政 高崎技芸2 2121
 1415 6 9
 0 0 館林女高

準決勝戦

高崎市女2 2121 前橋女高 伊勢女高2 2121
 1213 1817
 0 0 高崎技芸

決勝戦

高崎市女高2 2121 伊勢崎女高 1418
 0 0 伊勢崎女高

○国民体育大会バレーボール高校男子県予選会

県下高校バレーボール男子選手権大会

八・二〇

第一回戦

館林高校^{キケン}2—0 桐生商高校 小泉農高校2—1 勢多農高校

桐生高校2—0 高崎工高校 高崎高校2—0 関東学園高

第二回戦

高崎商高校2—0 館林高校 佐波農高校2—0 蚕糸高校

富岡高校2—0 伊勢工高校 桐生工高校2—0 小泉農高校

桐生高校2—1 前橋高校 前橋工高校2—0 大間々高校

渋川高校2—0 伊勢崎高校 前橋商高校2—0 高崎高校

第三回戦

高崎商高2 2121 佐波農高 桐生工高2 2121
 7 8 1312
 0 0 富岡高

前橋工高2 2122 桐生高校 前橋商高2 2121
 1020 0 1310
 0 0 渋川高
 準決勝戦

高崎商高2 2121 桐生工高 前橋商高2 2121
 14 9 1411
 0 0 前工高

決勝戦

高崎商高校2 2121 前橋商高校 1414
 0 0 前橋商高校

高崎商業高校が本県代表として北関東ブロックに出場、三校リーグ戦に全勝し、東京に於て行われた本大会に北関東代表として出場した。

○国民体育大会バレーボール高校女子県予選会

県下高校バレーボール女子選手権大会

九・六

第一回戦

明和家政高2—0 太田女高校 小泉農高校2—0 渋川女高校

第二回戦

伊勢崎市女2—1 館林女高校 富岡東高校2—1 高崎女高校

高崎技芸校^{キケン}2—0 桐生商高校 前橋女高校2—1 前橋市女校

藤岡女高校2—0 桐ヶ丘高校 桐生女高校^{キケン}2—0 境高校

第三回戦

高崎市女2 2121 伊勢市女 高崎技芸2 2121
 13 6 16 6
 0 0 富岡東

前橋女高2 2121 藤岡女高 伊勢崎女2 2121
 1911 0 10 8
 0 0 桐生女

準決勝戦

高崎技芸2 2121 | 1619 } 0 高崎市女
伊勢崎女2 2121 | 1712 } 0 前女高

決勝戦

高崎技芸高2 2121 | 1317 } 0 伊勢崎女高

○県下高校女子バレーボール新人大会

十一・八・ 県営バレーコート

第一回戦

明和家政校2 | 0 藤岡女高校
太田女高校2 | 0 玉村 高校
高崎女高校2 | 1 吾妻 高校
小泉農高校2 | 0 中之条高校
利根商高校2 | 0 太間々高校
富岡東高校2 | 0 利根農高校

第二回戦

明和家政校2 | 0 高崎市女校
高崎女高校2 | 1 中之条
伊勢女高校2 | 0 小泉農高校
桐生女高校2 | 0 伊勢市女校

第三回戦

太田女高2 211121 | 82116 } 1 明和家政
前橋女高2 2121 | 1315 } 0 高崎女
伊勢崎女2 2121 | 1210 } 0 前橋市女
高崎技芸2 2121 | 1712 } 0 桐生女

準決勝戦

前橋女高2 2121 | 1210 } 0 太田女高
伊勢崎女2 211721 | 112117 } 1 高崎技

決勝戦

伊勢崎女高校2 2121 | 1114 } 0 前橋女高校

○県下高校男子バレーボール新人大会

十一・十五 県営バレーコート

第一回戦

太田 高校2 | 1 小泉農高校
伊工高校定2 | 1 大間々高校
桐生 高校2 | 0 中之条分
館林 高校2 | 0 富岡東高校
伊勢崎高校2 | 0 洪川工高校

第二回戦

高崎商高校2 | 0 太田 高校
高崎 高校2 | 0 伊勢崎工定
前橋 高校2 | 0 桐生工高校
佐波農高校2 | 1 伊勢工高校

第三回戦

高崎商高2 2521 | 2318 } 0 勢多農高
桐生高校2 212120 | 141023 } 0 高崎高
伊勢高校2 2125 | 1123 } 0 前橋高校
前橋商高2 212117 | 20721 } 1 佐波農

準決勝戦

高崎商高2 2121 | 7 8 0 桐生高校 前橋商高2 212115 | 151721 1 伊勢高

決勝戦

前橋商高2 2121 | 1918 0 高崎商高2

○第三回県下定時制選手権大会 女子之部

一一・五 県営バレーボールコート

第一回戦

高崎女高2 2121 | 7 3 0 前競市女 渋川女昼2 2121 | 1813 0 館林板倉分校

前橋女高2 211321 | 1121 4 1 太女尾島分校 藤女万場2 2121 | 14 6 0 渋川夜高分校

準決勝戦

高崎女高2 2121 | 7 13 0 渋川女昼 藤女万場2 2121 | 1513 0 前橋女分校

決勝戦

藤女万場分校2 2121 | 17 7 0 高崎女高2

○第三回県下定時制選手権大会 男子之部

一一・一五 県営バレーコート

第一回戦

高崎商高2 212111 | 181121 1 桐生工高 前橋工高2 212111 | 191921 1 渋川高

利根農高2 2121 | 1611 0 下仁田高 太田高校2 2121 | 8 15 0 佐波農

準決勝戦

高崎商高2 2121 | 1716 0 前橋工高 太田高校2 211221 | 162113 1 利根農

決勝戦

太田高校2 2121 | 1815 0 高崎商高2

○第十三回関東バレーボール高校女子選手権大会

六・六・七 栃木県営総合運動場

本県代表校記録

第一回戦

(群馬) 高崎技芸2 2121 | 1618 0 共栄学園 (東京) 伊女高0 1314 | 2121 2 水海道三高 (茨城)

第二回戦

(群馬) 高崎技芸2 212119 | 141621 1 厚木東商 (神奈川) 高崎市女2 211921 | 182113 1 富士見丘高 (東京)

(群馬) 富岡東高0 169 | 2121 2 竹早高校 (東京)

第三回戦

高崎市女校2 212119 | 121521 1 栃木女高校 (栃木)

準々決勝戦

高崎市女高校0 1815 | 2121 2 宝仙学園 (東京)

○第十三回関東バレーボール高校男子選手権大会

六・二〇・二二 山梨県営バレーコート

第一回戦

(埼玉) 深谷商高 2
 2121 9 11
 0 前橋工高 前橋商高 2
 2121 13
 131 421
 1 (山梨) 石和高

第二回戦

(東京) 都立五商 2
 2121 14 19
 0 桐生工高 高崎商高 2
 2121 15 13
 0 (東京) 都立二商
 (茨城) 水戸商高 2
 2124 16 22
 0 前橋商高

第三回戦

(神奈川) 神奈川商工 2
 2121 16 19
 0 高崎商高

○昭和三十四年度全日本九人制高校男子選手権大会

八・六―九 秋田市営八幡コート

予選トーナメント

高崎商高 2
 2221 20 16
 0 (大阪) 大阪工大付属高

決勝トーナメント

第二回戦

高崎商高 2
 2121 10 16
 0 (埼玉) 春日部高

第三回戦

高崎商高 2
 2121 18 18
 0 (兵庫) 明石南高

準々決勝戦

(香) 坂出商高 2
 2121 19 18
 0 高崎商高

○昭和三十四年度全日本九人制高校女子選手権大会

八・六―九 大分市県立体育館

予選トーナメント

(和歌山) 古座高 2
 22 8 21
 20 21 18
 1 高崎市女 高崎市女 2
 2121 11 5
 131 8 21
 1 (石川) 金城高

決勝トーナメント

(秋田) 由利高 2
 2121 13 13
 0 高崎市女

○第十四回国民体育大会

一〇・二五―三〇 東京駒沢コート

男子之部

第一回戦

高崎商業校 2
 2121 14 17
 0 (岩手) 盛岡商高

第二回戦

(香川) 坂出商高 2
 2221 20 16
 0 高崎商高

女子之部

第一回戦

高崎技芸校 2
 2121 11 8
 10 16 21
 1 (千葉) 昭和学院

第二回戦

高崎技芸校 2
 キケン
 0 (愛知) 豊橋東高

第三回戦

(山形) 酒田市女 2
 23 21 21 15
 0 高崎技芸校

ソフトボール部

委員長 栗原農夫

日本ソフトボール協会では、本年度アメリカ女子ソフトボールチームを日本に招き、東京で試合を行い、日本のソフトボール競技に益することが大きかった。来年度は日本チームがアメリカに招かれることであろう。オリンピック競技種目にもソフトボール競技が加えられることになるのも近いことであろう。



西ノ宮球場に於ける
全国大会入場式 太田チーム

ソフトボール競技の普及発展は目覚ましいものがある。全国で競技者数の多いことはバレーボールに次いで第二位と承っている。小学校でも中学校でも高等学校でも体育の正課として取り挙げられ、愈々ソフトボール競技の身体的にも、精神的にも価値の高いものであることが認められたからである。ソフトボール競技は年令を問わず、性別を問わず、狭い所で競技の出来る実に楽しい団体競技である。県内でも諸氏の御理解ある御支援により非常に発展し、立派な成績を挙げ、レベルも向上した。

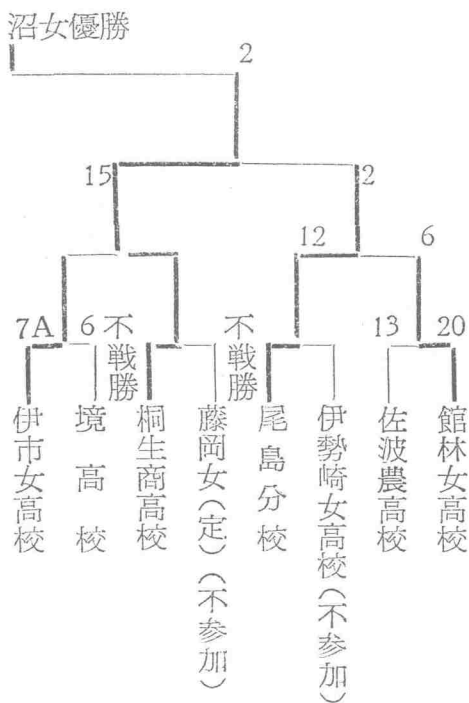
今後は正しいソフトボールを発展させ、協会も中学校を包含した強力なものにし、郡、市、町村等に県協会の支部を作り組織の強化を計りたいものである。

県ソフトボール協会は三十五年度から桐生商業に移り、協会長兼高体連ソフトボール部長は森村祿爾氏、委員長は関田博重氏にお願いしたが、ソフトボール競技発展のため、私以上の御後援をお願いする次第である。長い間大変御世話になったことを感謝する。次に今年度の各種大会の記録を次に挙げて私の報告とする。

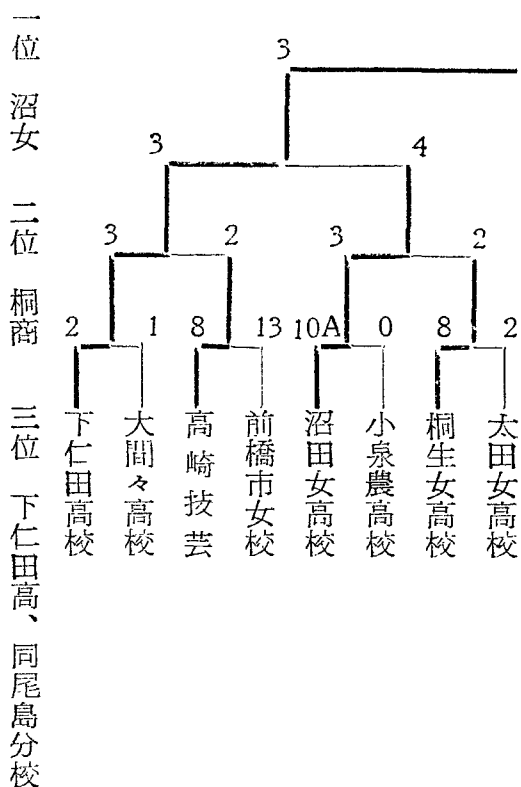
一、県内大会

(1) 高体連創立十周年記念ソフトボール大会

期日 四月二十六日(日) 五月五日(日)
会場 伊勢崎市立南中学校、県立佐波農業高校
参加校 一四
戦績



(2) 第十一回全日本高校女子ソフトボール選手権大会県予選会
兼第五回關東一般男子選手権会県予選大会



期日 五月三十一日(日) 六月七日(日)
会場 前橋市立元総社中学校、同小学校
参加 高校女子 二〇、一般男子 五
戦績 高校女子之部

一回戦

藤岡女高校(全) 9 — 8 松井田高校
大間々高校 17 — 4 玉村高校
高崎技芸 4 — 2 渋川女高校
佐波農高校 18 — 3 利根商高校

二回戦
藤岡女高校(全) 3 — 2 伊市女校

三回戦

桐生女高校 17A — 0 尾島分校
沼田女高校 5 — 4 境高校
館林女高校 12 — 1 大間々高校
桐生商高校 4 — 2 高崎技芸
下仁田高校 5 — 2 前橋市女高校
太田女高校 4 — 0 小泉農高校
佐波農高校 9A — 4 藤岡女高校(定)

準決勝

桐生女高校 9 — 5 藤岡女高校(全)
沼田女高校 — 館林女高校
下仁田高校 6 — 4 桐生商高校
太田女高校 9 — 2 佐波農高校

決勝

太田女高校 2 — 1 沼田女高校

一回戦

大間々教員クラブ 不戦勝 — 邑楽教員クラブ(不参)
伊勢崎教員クラブ 9 — 4 高崎市女教員クラブ
高崎教員クラブ 不戦勝 — 群馬めい球クラブ(不参)

準決勝
大間々教員クラブ 14 — 1 桐生教員クラブ

決勝

高崎教員クラブ 10 — 1 大間々教員クラブ
 此の結果太田女高が全国大会出場校と決定し、高崎教員クラブが
 関東大会に出場することになった。大間々教員クラブも出場出来る
 訳であるが未登録の為棄権した。

(3) 県民体育祭(一般男子)

期日 五月十六日
 会場 前橋県営球場
 参加 七チーム
 戦績

一回戦

高崎教育クラブ 3A — 0 桐生教育クラブ
 伊勢崎教員クラブ 8 — 3 群馬めい球クラブ
 大間々教員クラブ 4 — 1 粕川教員クラブ

準決勝

高崎教員クラブ 9 — 0 伊勢崎教員クラブ
 大間々教員クラブ 12A — 11 前橋教員クラブ

決勝

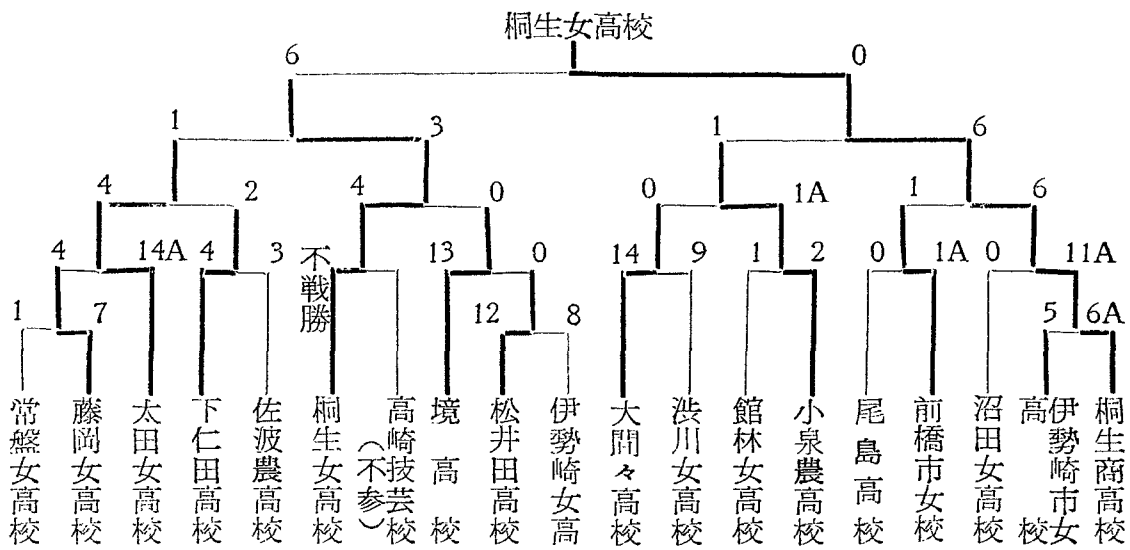
高崎教員クラブ 3 — 1 大間々教員クラブ

(4) 第十四回国民体育大会第一次予選会(県下)

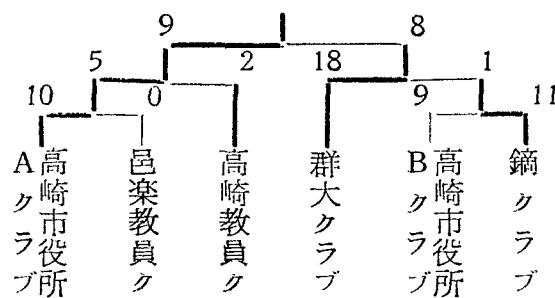
(i) 高校女子の部 (ii) 一般男子の部

期日 八月一〇・一一日 八月一一・二〇・二一日
 会場 県営球場 県営球場、高崎塚沢中
 参加 一八 六チーム

戦績



高崎市役所A



此の結果高校女子に於ては桐生女子高校と桐生商業が、一般男子に於ては高崎市役所Aチームが国体第二次予選に出場する権利を獲得するところとなった。

(5) 第十回県下高校女子ソフトボール選手権大会
兼第九回関東高女一女ソフトボール選手権県予選会

期日 九月二十七日、十月十一日

会場 伊勢崎市立南中、南小及太田市立東中

参加校 一三

戦績

一回戦

桐生女高10—1 下仁田高 松井田高—不戦勝沼田女高

佐波農高—不戦勝境高 常盤女高4—5A 藤岡女高

前市女高3—6 館林女高 小泉農高—不戦勝伊勢崎市高

尾島分校0—9 太田女高 高崎技芸2—6 桐生商高

二回戦

桐生女高2—0 沼田女高 境高校7—0 藤岡女高

館林女高4—1 伊勢崎市高 太田女高1A—0 桐生商高

準決勝

桐生女高4—0 境高 太田女高15A—5 館林女高

決勝

桐生女高2—1 太田女高

優勝の桐女に優勝旗、賞状、賞品授与、桐女及び太女が関東大会出場権を獲得した。

(6) 第三回一般男子県下ソフトボール選手権大会

期日 十月十八日、十月二十四日

会場 高崎二中、三中、片岡小

参加チーム 六

戦績

一回戦

高崎教員 8—2 高崎市役所Aチーム

群大学生 7—0 高崎市役所Bチーム

二回戦(準決勝)

高崎教員 11—4 鎚クラブ(富岡甘楽教員)

群大学生 11—4 高崎経済大学々生

決勝

高崎教員 6—1 群大学生

高崎教員クラブに初の優勝杯を授与、以後持ち廻りとした。

(7) 第五回県下高校女子新人大会兼第四回県下高校女子定時制選手権大会

期日 十一月八日、十一日

会場 伊勢崎南中、南小 太田西中

参加校 全日制 九 定時制 三

戦績

一回戦

佐波農高—不戦勝板倉分校 下仁田高3—0 小泉農高

伊勢崎女高 0 — 7 桐生女高
 常盤女高 — 不戦勝 伊勢崎市
 桐生商高 — 不戦勝 太田女高
 渋川女高 1 — 2 沼田女高

二回戦

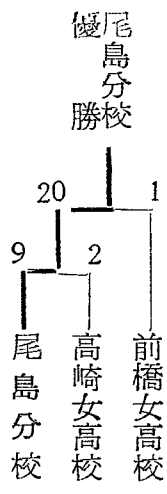
館林女高 29 — 1 板倉分校
 下仁田高 0 — 9 桐生女高
 伊勢崎市女高 0 — 9 太田女高
 沼田女高 不戦勝 — 境 高

準決勝

館林女高 2 — 5 桐生女高
 太田女高 7 — 0 沼田女高

決勝

桐生女高 0 — 1 太田女高



優勝太田女子高校及び尾島分校に優勝旗授与持廻りとする。

二、県外大会

(1) 第十一回全日本高校女子ソフトボール選手権大会

期日 八月二日—五日
 会場 兵庫県西ノ宮球場及球技場
 参加 太田女子高校
 戦績

一回戦 太田女高 2 — 8 米子南高

三回二点を先取しながら三回裏、四回裏投手崩れ四球多く八点を許し、惜しくも破れた。投手が崩れなければ勝つことが出来たと思う。

(2) 第十四回国民体育大会第二次関東ブロック予選会

高校女子の部
 期日 九月六日
 会場 前橋県営球場
 戦績

桐生商高 0 — 2 大宮高
 桐生女高 0 — 2 松山高
 優勝 松山女(埼玉) 二位大宮(埼玉) 三位桐女、桐商
 一般男子の部

期日 九月十二日、十三日

会場 山梨市

戦績 一回戦 高崎市役所 A 14 — 4 市原体協(千葉)
 二回戦 高崎市役所 A 6 — 1 川崎トキコ
 決勝戦 高崎市役所 1 — 10 山梨大教職員

高崎市役所チームは初陣乍ら優勝候補の川崎トキコを破り、決勝で惜しくも山梨大に破れ、国体本大会に出場出来なかったが、よく頑張りと、群馬の一般男子の水準の高いことを示してくれた。

(3) 第九回関東高女一女ソフト選手権大会

期日 十一月十四日、十五日
 会場 千葉市
 戦績 一回戦

太田女高 4 — 0 身延高(山梨)
 桐生女高 0 — 5 青蘭高(東京)
 二回戦
 太田女高 0 — 12 宇都宮須賀高

優勝 宇都宮須賀高 二位 松山女 三位 青蘭、同宇都宮女商高
(4) 第五回全関東男子選手権大会

期日 六月二十七日、二十八日

会場 東京都

戦績 一回戦 高崎教員9——0 文京十文字

二回戦 高崎教員4——2 大宮教員

決勝戦 高崎教員3——4 千葉

高崎教員チームは堂々第二位となり教職員部に於て九州の全国大会に出場する権利を獲得した。

(5) 第十一回全日本一般女子選手権大会

期日 八月十六日、十七日

会場 宇都宮総合グラウンド

参加 一六チーム

戦績 一回戦 桐生若草1——3 日紡垂井工場(東海)

(6) 第五回全日本ソフトボール総合大会

期日 八月九日、十日

会場 熊本県人吉市

参加 教職員十六チーム

戦績 一回戦 高崎教員4——1 広島市小学校教員

二回戦 高崎教員9——0 ラ・サール高校(九州)

準決勝 高崎教員8——13 清水教員(東海)

高崎教員チームは全国大会に於ても堂々第三位を獲得し、昭和三十五年度の活躍が期待される。昭和三十五年度は一般女子のソフトボールの普及と高校女子のレベルの向上を祈念しつつ私の報告を終りとす。

卓 球 部

委員長 石 井 好 男

本年度は昨年に比し女子のレベルが少しおちている。特に例年県外大会で相手に恐威を与えた前市女チームも関東大会には横須賀大津高校に緒戦で敗れ、其他個人戦でも三回戦に進出したのは女子は一人だけ、男子は沼田高校がよく頑張る栃木代表作新学院を三対二で敗り爾後三対〇の成績で準決勝まで進出し埼玉代表深谷商工に三対二で敗れたのは惜しかった、脆く関東大会に敗れた前市女は其の後の全国大会には三回戦迄進み秋田代表由利高校に敗れたが往年の前市女の貫録を示してくれた、関東大会四回戦進出の品田(桐高)植村(沼高)の父よきコンディションで品田、四回戦、植村五回戦に進出し遂に植村は全国ランクに入ったが高体連卓球部としてまことに嬉ばしいことである。本年度各種大会の記録をあげると、

○ 関東高校卓球選手権大会県代表兼第十一回県下高校ダブルス選手権大会

男子高校の部 五月十五日 於前橋高等学校

(単) 関東大会出場資格獲得者(八人)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 宮川 清(前橋商校) | 5 品川 篤(桐生高校) |
| 2 坂入 周機(前橋商校) | 6 松田 功(沼田高校) |
| 3 植村 益行(沼田高校) | 7 牧 泰敏(渋川工校) |
| 4 井上 章(沼田高校) | 8 鮫島 達昌(高崎商校) |

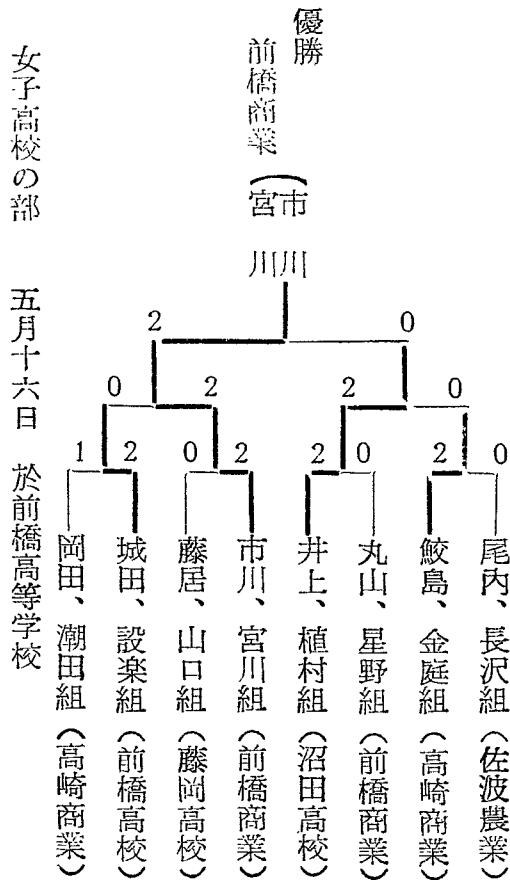
○ 関東大会出場資格獲得者 (四組)

(複) 1 (宮川) 昌清 (前橋商業) 3 (城田) 博己 (前橋高校)

2 (植村) 益行 (沼田高校) 4 (金庭) 寿雄 (高崎商業)

(井上) 章 (沼田高校) (鮫島) 達昌 (高崎商業)

○ 関東高校卓球大会予選兼第十一回県下高校男子ダブルス選手権大会記録



女子高校の部 五月十六日 於前橋高等学校

(単) 関東大会出場資格獲得者 (八人)

1 大原 伏美 (前橋市立女子) 5 角田 道子 (前橋市立女子)

2 山崎 宏子 () 6 新井 洋子 ()

3 海老根眉美 (桐丘高校) 7 小野里美知江 (桐丘高校)

4 長柄 富子 (前橋市立女子) 8 倉林 靖子 (桐生商業)

(複) 関東大会出場資格獲得者 (四組)

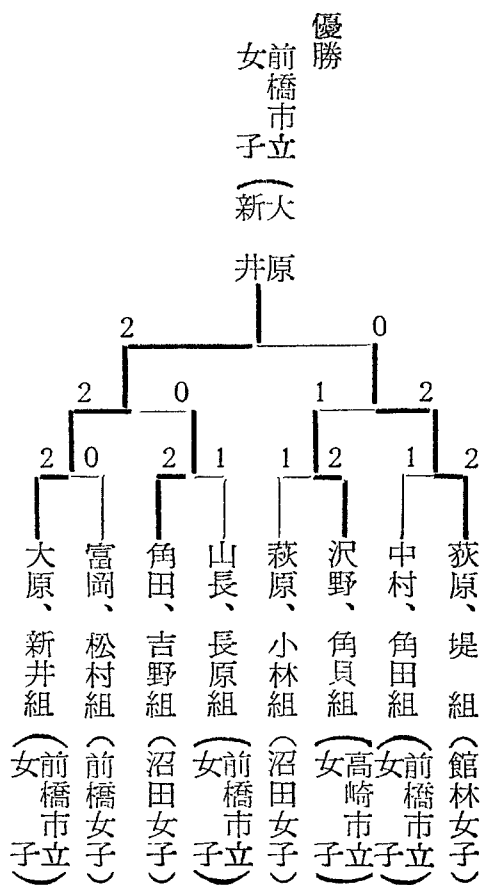
1 (大原) 伏美 (前橋市立女子) 3 (角田) 純子 (沼田女子校)

(新井) 洋子 (高崎商業) (吉野) なを子 (高崎商業)

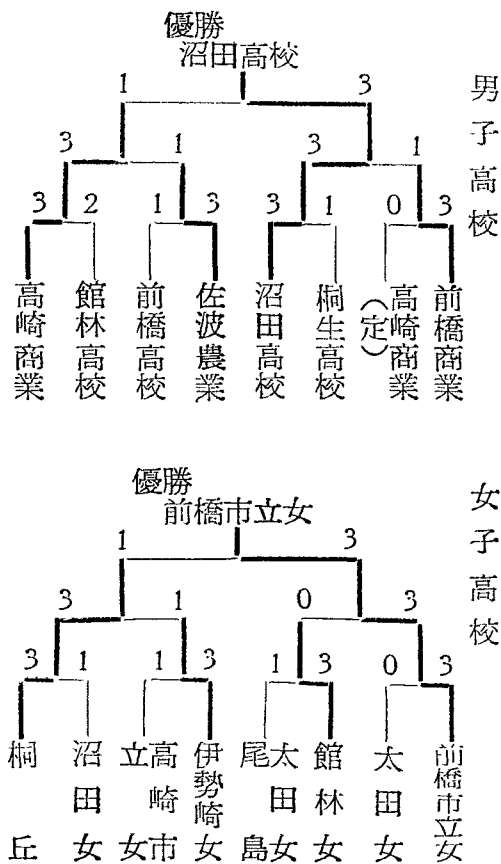
○ 関東高校卓球大会予選兼第十一回県下高校女子ダブルス選手権大会記録

2 (荻原) ふじ江 (館林女子高校) 4 (沢野) 弘子 (高崎市立)

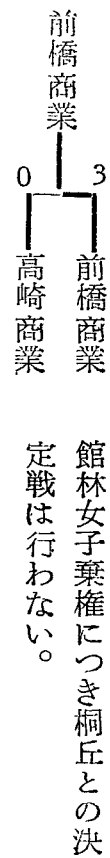
(堤) 久子 (高崎商業) (角貝) 弘子 (高崎商業)



○ 関東大会学校対抗県下予選 五月十七日 於前橋高校



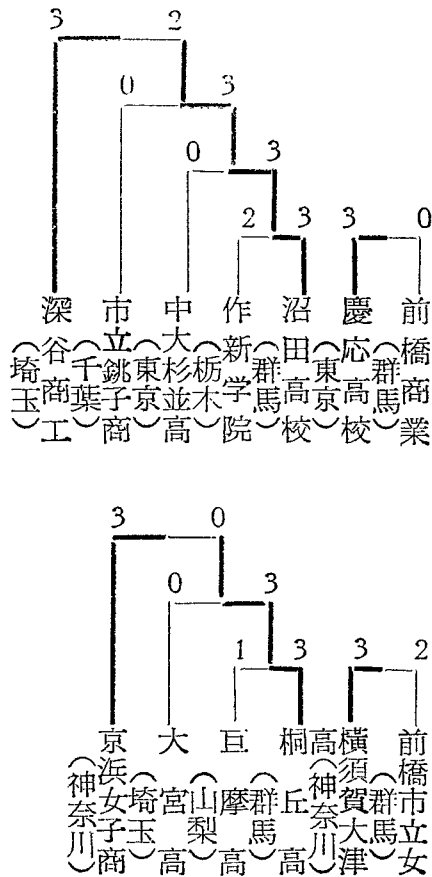
第二位決定戦 (男女二校宛出場につき)



○関東高校卓球選手権大会 六月六、七日

於 東京国立競技場体育館

学校対抗の部成績



男子高校単の部成績

- 1 宮川 清 (前橋商業) 二回戦で横須賀高校に敗退
- 2 坂入 周機 () 三回戦で銚子商業に敗退
- 3 植村 益行 (沼田高校) 四回戦で高輪高校に敗退
- 4 井上 章 () 三回戦で作新学院高校に敗退
- 5 品田 篤 (桐生高校) 四回戦で都立第一商に敗退
- 6 松田 功 (沼田高校) 二回戦で西瑛高校に敗退
- 7 牧 泰敏 (渋川工業) 二回戦で銚子商業に敗退

女子高校単の部成績

- 8 鮫島 達昌 (高崎商業) 一回戦で甲府高校に敗退
- 1 大原 伏美 (前橋市立女) 二回戦で下妻第二高に敗退
- 2 山崎 宏子 () 二回戦で東京共立女子高に敗退
- 3 海老根眉美 (桐丘高) 二回戦で土浦二高に敗退
- 4 長原 富子 (前橋市立女) 二回戦で真岡女高に敗退
- 5 角田 道子 () 三回戦で太田二高に敗退
- 6 新井 洋子 () 二回戦で真岡女高に敗退
- 7 小野里美知江 (桐丘高) 二回戦で東京淑徳学園に敗退
- 8 倉林 靖子 (桐生市立商) 一回戦で東京跡見高に敗退

男子高校複の部成績

- 1 前橋商業 (市宮川) 三回戦で熊谷商工高に敗退
- 2 沼田高校 (井植上村) 三回戦で東京安田学園に敗退
- 3 前橋高校 (城楽田) 二回戦で甲府一高に敗退
- 4 高崎商業 (金庭島) 二回戦で高輪高校に敗退

女子高校複の部成績

- 1 前橋市立女高 (大新井原) 三回戦で京浜女子商業に敗退
- 2 館林女高 (荻原) 二回戦で武蔵野高校に敗退
- 3 沼田女高 (角野田) 二回戦で木更津二高に敗退

4 高崎市立女高 (沢野) 二回戦で京浜女子商業に敗退

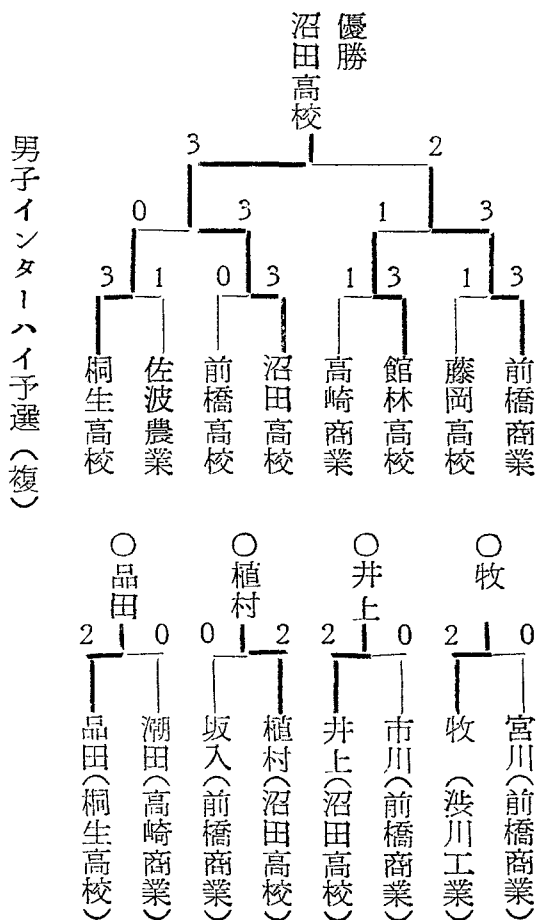
○全国学校対抗群馬縣予選兼インターハイ予選

六月十四日 (日) 於伊勢崎女子高等学校

男子 (準々決勝より)

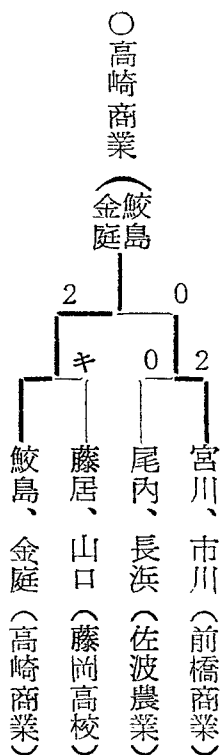
男子インターハイ (単)

○印四名全国大会出場



関東大会予選八組より選抜二組全国大会に出場 (○印)

男子インターハイ予選 (複)

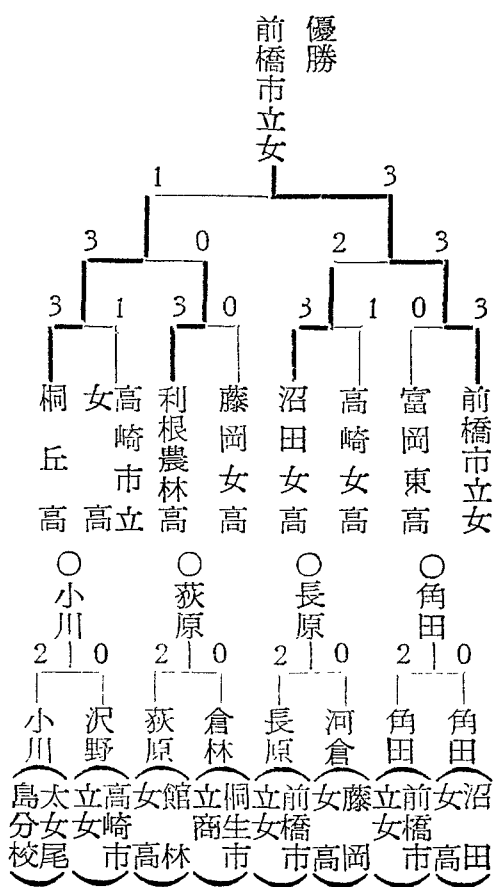


○沼田高校 (井上) 誠田、設楽 (前橋高校)

女子 (準々決勝より)

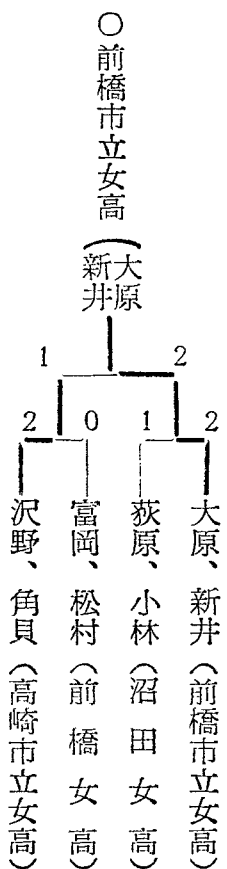
(女子インターハイ単)

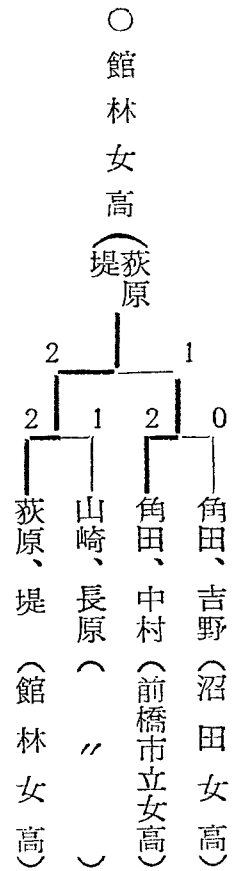
○印四名全国大会に出場



女子インターハイ予選 (複)

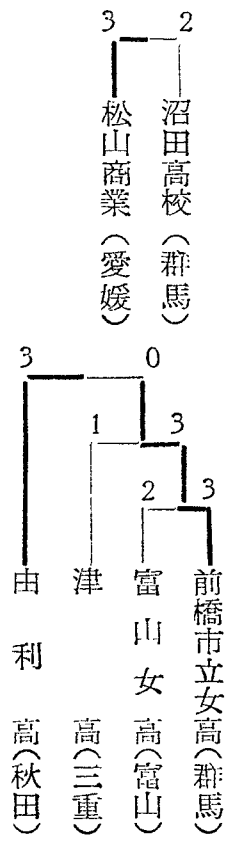
関東大会予選の八組より選抜二組全国大会に出場 (○印)





○ 全国高校卓球大会 八月一日—八月五日迄 於 名古屋市金山体育館

男子高校の部



女子高校の部

- 男子高校 (単)
- 1 植村 益行 (沼田高校) 五回戦で山口県山口高校に敗退
 - 2 品田 篤 (桐生高校) 四回戦で愛知県名古屋電気高校に敗退
 - 3 井上 章 (沼田高校) 一回戦で静岡県伊東高校に敗退
 - 4 牧 泰敏 (渋川工業) 一回戦で大阪近代附属高校に敗退

- 女子高校 (単)
- 1 小川 松美 (太女尾島分校) 一回戦で静岡誠心高に敗退
 - 2 荻原ふじ江 (館林女子高校) 二回戦で東京安部学院に敗退
 - 3 長原 富子 (前橋市立女子高校) 三回戦で神奈川京浜女高に敗退
 - 4 角田 道子 (〃) 二回戦で東京実践女高に敗退

男子高校 (複)

- 1 井上 章 沼田高校 二回戦で香川県多度津高に敗退
- 1 植村 益行 沼田高校 二回戦で香川県多度津高に敗退
- 2 鮫島 達昌 高崎商業 一回戦で岐阜県岐阜商業に敗退
- 2 金庭 寿雄 高崎商業 一回戦で岐阜県岐阜商業に敗退

女子高校 (複)

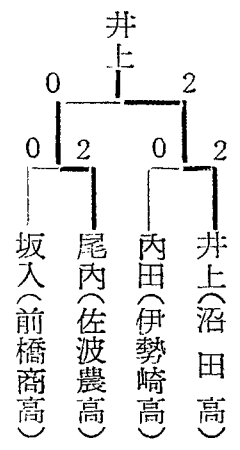
- 1 荻原ふじ江 館林女子高 一回戦で静岡県誠心女高に敗退
- 1 堤 久子 館林女子高 一回戦で静岡県誠心女高に敗退
- 2 大原 伏美 前橋市立女高 一回戦で秋田県由利高に敗退
- 2 新井 洋子 前橋市立女高 一回戦で秋田県由利高に敗退

○ 第十四回国体群馬県予選兼高校 (単) 選手権大会

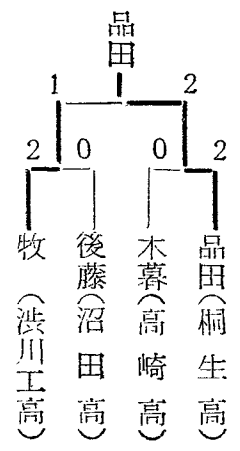
八月二十二日 (男子) 二十三日 (女子) 於前橋高等学校

男子高校コート決勝

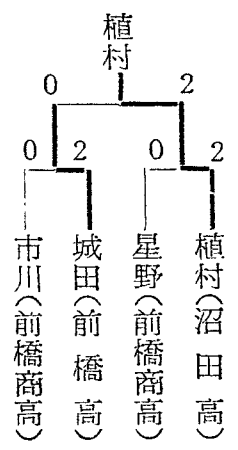
第一コート



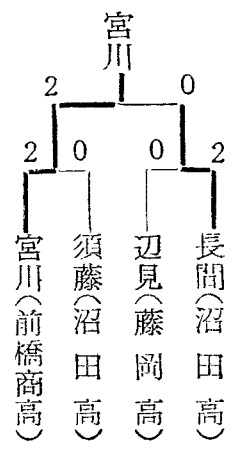
第二コート



第三コート

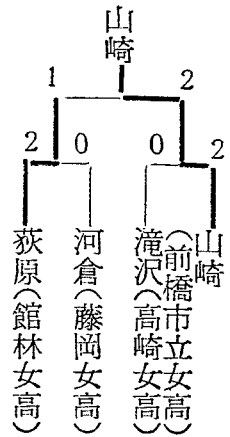


第四コート

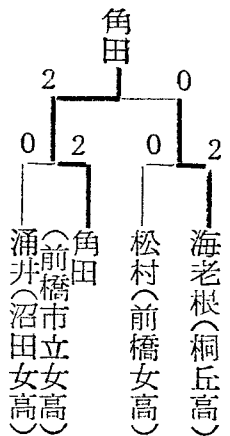


女子高校コート決勝

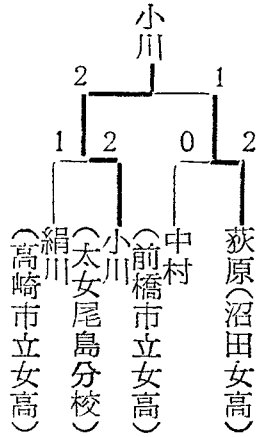
第一コート



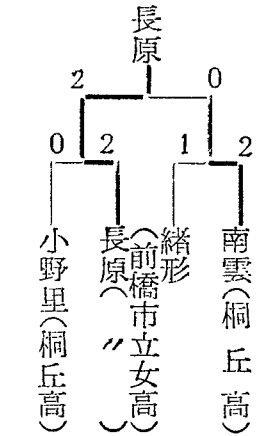
第二コート



第三コート



第四コート



右コート決勝の四人で男女別リーグ戦を行い国体行代表次の三名を決定す。

- 男子
- 1 植村益行 (沼田高校)
 - 2 品田 篤 (桐生高校)
 - 3 宮川 清 (前橋商業)
- 女子
- 1 山崎宏子 (前橋市立女高)
 - 2 長原富士 ()
 - 3 角田道子 ()

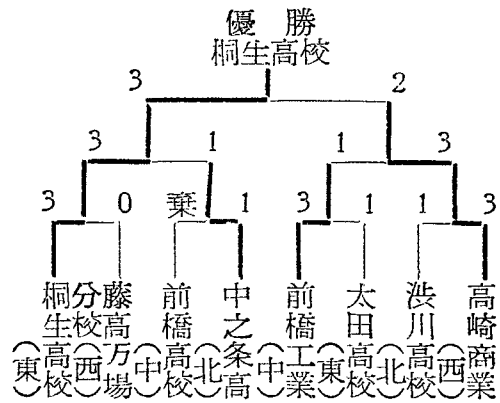
○第四回定時制四地区代表对抗卓球大会

十月十日 (土)

於前橋高等学校

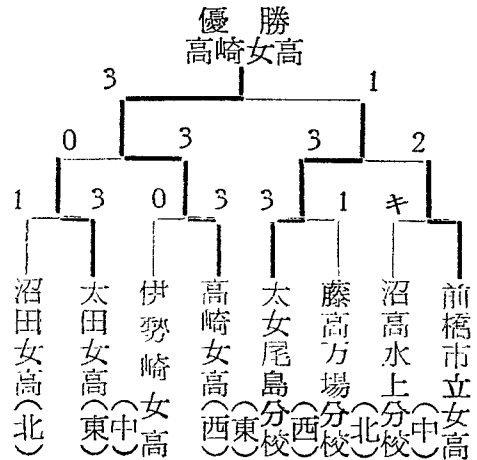
○第十一回縣下高校新人卓球大会

男子高校 (二月六日 (土))

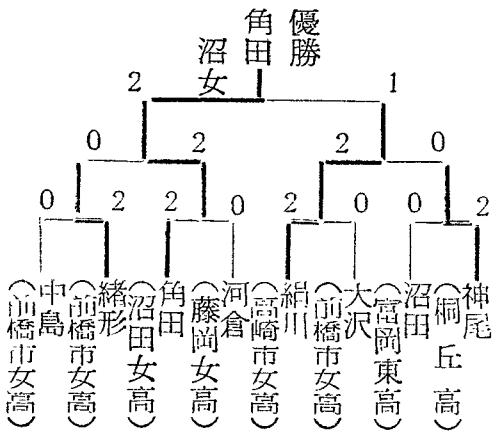
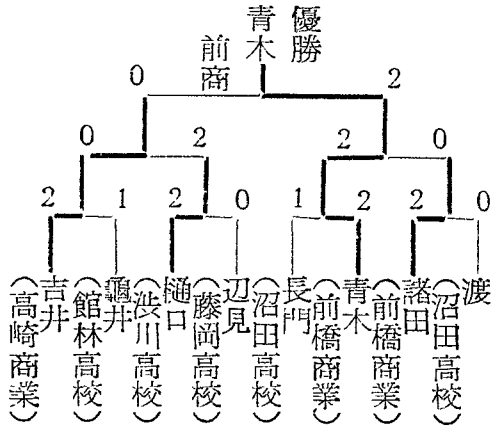


男子の部

女子校 (二月七日 (日))



女子の部



○昭和三十四年度県下高校卓球ランキング

男子高校(単)

- 1 植村 益行(沼田高校)
- 2 品田 篤(桐生高校)
- 3 宮川 清(前橋商業)
- 4 井上 章(沼田高校)
- 5 城田 博己(前橋高校)
- 6 牧 泰敏(渋川工業)
- 7 長門 敏夫(沼田高校)
- 8 尾内 豪(佐波農業)
- 9 星野 義輔(前橋商業)
- 10 木暮 桂(高崎高校)
- 11 須藤 正晴(沼田高校)
- 12 内田 英美(伊勢崎高校)
- 13 市川 昌男(前橋商業)
- 14 後藤 欣一(沼田高校)
- 15 辺見 勝(藤岡高校)
- 16 坂入 周機(前橋商業)

女子高校(単)

- 1 山崎 宏子(前橋市女高)
- 2 長原 富子()
- 3 角田 道子()
- 4 小川 松美(太女尾島分校)
- 5 荻原ふじ江(館林女高)
- 6 南雲 久子(桐丘高)
- 7 海老根眉美()
- 8 萩原満里子(沼田女高)
- 9 滝沢美也子(高崎女高)
- 10 小野里美知江(桐丘高)
- 11 涌井 朝子(沼田女高)
- 12 絹川 恵子(高崎市女高)
- 13 河倉 治子(藤岡女高)
- 14 緒形 宣子(前橋市女高)
- 15 松村 寿子(前橋女高)
- 16 中村富士子(前橋市女高)

男子高校(複)

- 1 宮川 昌男(前橋商業)
- 2 植村 益行(沼田高校)
- 3 城田 博己(前橋高校)

女子高校(複)

- 1 大原 伏美(前橋市女高)
- 2 荻原ふじ江(館林女高)
- 3 角田 純子(沼田女高)

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 4 (金庭 鮫島) 寿雄 達昌 (高崎商業) | 4 (沢野 角貝) 弘子 (高崎市女高) |
| 5 (藤居 山口) 惣一 昭和一 (藤岡高校) | 5 (富岡 松村) 黎子 寿子 (前橋女高) |
| 6 (丸山 星野) 昭雄 義輔 (前橋商業) | 6 (中村 角田) 富士子 道子 (前橋市女高) |
| 7 (岡田 潮田) 光司 靖男 (高崎商業) | 7 (山崎 長原) 宏子 富子 (前橋市女高) |
| 8 (尾内 長沢) 豪 孝 (佐波農業) | 8 (萩原 小林) 満里子 もと江 (沼田女高) |

ラグビー部

委員長 岡田 由重

本年度の高校ラグビーは四月早々からシーズンにいきり、各種大会を目前に、各校とも苦慮した結果か昨年度より稍々向上した感があった。

関東高校ラグビー大会は五月一六・一七日の両日、埼玉県大宮市で開催されることになり、昨年同様左により三チームを選出した。桐生地区から桐生商業高校が推薦され。

高崎・前橋地区は

高崎高 13-10 藤岡高 高崎工(棄権) 前橋高

右の結果桐生商高・高崎高校・高崎工高が代表校に決定した。

関東大会は前夜来の雨のため入場式も屋内で行う状態で、かかってない最悪のコンディションの中に終始した。

本県勢の戦績は、左の通り一勝一敗一引分であった。

高崎高校 0 (0 | 0 | 6) 9 小石川高校 (東京)

桐生商高校 9 (6 | 3 | 0) 0 本庄高校 (埼玉)

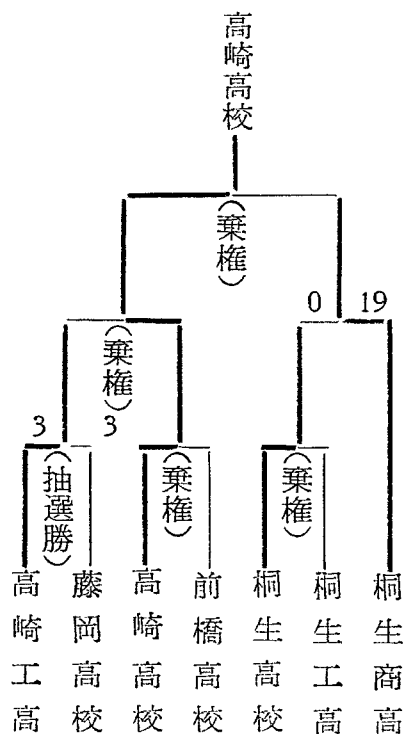
高崎工高校 11 (8 | 3 | 8) 11 佐原一高校 (千葉)

続いて県民体育祭が五月一七日前橋市で開催されるので、高崎高校は関東大会の雨中泥濘戦を終え、直ちに帰高、県営グラウンドで藤岡高校と対戦した。

高崎高校 20 (9 | 11 | 0) 0 藤岡高校

六月中旬からのシーズン・オフを利用し、国体・全国大会に備えて、各校とも練習に専念、特に七月から八月にかけての夏季合宿練習は、技術・体力に長足の向上をした。

国体県予選は九月六・一三・二〇日の三日間トーナメントで行い、その成績は左の通り



結果は不戦で高崎高校が県代表に決定、一〇月四日の東京駒場、東京大学グラウンドに於ける北関東地区予選決勝に出場(九月二〇日新潟商高17-3宇都宮農高)新潟県代表新潟商高と対戦、苦戦の末辛勝した。

高崎高	0	0	0	0
新瀉商	0	1	0	5
	1	0	0	3
	8			16
計	9	9	10	反則

昨夜来の雨は早朝にあがったが軟弱の東京大学グラウンドで戦い、昨年の国体出場の新瀉商高は予想外に強く特にバックスの体力・走力はすぐれ、健斗したが16分左C・T・Bに突破され、ポール直下に得点を許し(0-5)とリードされたまま前半を終った。

然しこの日のF・Wはずばらしい斗志を見せ、スクラムからよくボールを取り、後半1分P・Gをきめ(3-5)と迫り、なお急追51分再度P・Gをきめ(6-5)と逆点した、が相手もさるもの18分味方ゴール前のスクラムから右に廻し右隅にトライ(6-8)とリードされた、しかし斗志は加わり21分S・O小野里のパント・キックを右W・T・B藤井右中間のゴール・ライン上で押え、決勝のトライを挙げ、そのまま押切って辛勝、国体出場権を獲得したが、シーソーゲームの苦しい一戦であった。

四年振りに出場の国民体育大会は、一〇月二六日会場である立教大学グラウンドに優勝候補の筆頭、大阪府代表興国商高(優勝)を迎え、役員・校長・先輩などの声援の中で対戦したが、多数の声援に応えられず、残念ながら力量と経験の差は如何ともなし難く第一戦で敗退した。

試合は出足よく7分相手のゴール前の失策を右W・T・B藤井押えて先取点を挙げたが、12分・20分と得点を重ねられ(6-3)とリードされ前半を終った。

この日は初めて全国的大会に出場した故か選手があがり、予選の時のようなF・Wの斗志は見られず、終始防戦の状態であった。

後半になってもF・Wの守勢は立ち直らず、5分(ゴール)・24分と得点を許し完敗した。

高崎高	1	0	0	3
T	0	0	0	0
G	0	0	0	0
P. G	0	0	0	0
計	14	8	14	8
反則	7	8	8	7

国体に引続いてすぐ全国高校大会県予選を二月中旬に終了しなければならず、全国高校大会予選兼高校選手権を例年にならいリーグで開始した。その戦績は次の通り、

- 一月一日 桐生商校 0 — 0 桐生工校 (不戦引分)
- 桐生高校 (棄権) 前橋高校
- 高崎工校 12 — 0 藤岡高校
- 八日 高崎工校 24 — 0 桐生工校
- 高崎高校 (棄権) 桐生高校
- 藤岡高校 (棄権) 前橋高校
- 桐生商校 11 — 0 桐生高校
- 一一日 高崎工校 (棄権) 前橋高校
- 高崎高校 36 — 0 藤岡高校
- 一五日 高崎工校 6 — 0 桐生高校

高崎高校 29 — 0 桐生工校

桐生商校 5 — 0 藤岡高校

二二日 桐生工校 (棄権) 前橋高校

高崎高校 14 — 3 桐生商校

藤岡高校 6 — 3 桐生高校

二五日 桐生商校 (棄権) 前橋高校

桐生工校 0 — 0 桐生高校 (不戦引分)

高崎高校 17 — 0 高崎工校

二九日 藤岡高校 (棄権) 桐生工校

高崎高校 (棄権) 前橋高校

桐生商校 (棄権) 高崎工校

① 高崎高六戦全胜 ② 桐生商四勝一敗一分 ③ 高崎工四勝二敗

④ 藤岡高三勝三敗 ⑤ 桐生工一勝三敗二分 ⑥ 桐生高一勝四敗二分

⑦ 前橋高全敗

以上の成績で高崎高校は国体に引続き再度県代表校となり、全国高校大会北関東地区予選に出場、第一戦を二月六日強敵、新潟代表新潟商高と新潟大学理学部グラウンドで夜来の冷雨の降りしきる中で対戦、長蛇を逸し全国大会出場ははかなく破れ去った。

高崎高	0	1	0	5
T	0	0	0	0
G	0	0	0	0
P. G	0	0	0	0
計	10	5	10	5
反則	4	4	4	4

試合は一一時開始されたが凍てつく雨の中で調子がでず、2分(ゴール)先取点をゆるし(0-5)とリードされたが、18分主将一

二三が中央に飛び込み、ゴールなって(5-5)と返し、そのまま前半を終えた。後半になり冷雨はますますはげしさを加え、ボールが手につかず、3分(ゴール)得点を加えられ、急追したが雨と寒さのため反撃の機会を逸し、第四回国体関東地区予選以来一〇年目に新潟勢の軍門に降った。

以上で昭和三四年度的の本県高校ラグビー試合は全部終了した。

全国的にもレベルの高かった本県高校ラグビー界もここ数年他県の比でない試合経験の未熟さは練習だけではカバーできず、毎年苦杯をなめさせられている。真に遺憾の極みである。

軟式野球部報

委員長 萩原 一 男

高体連結成一〇周年を迎え、心からお祝い申し上げます。

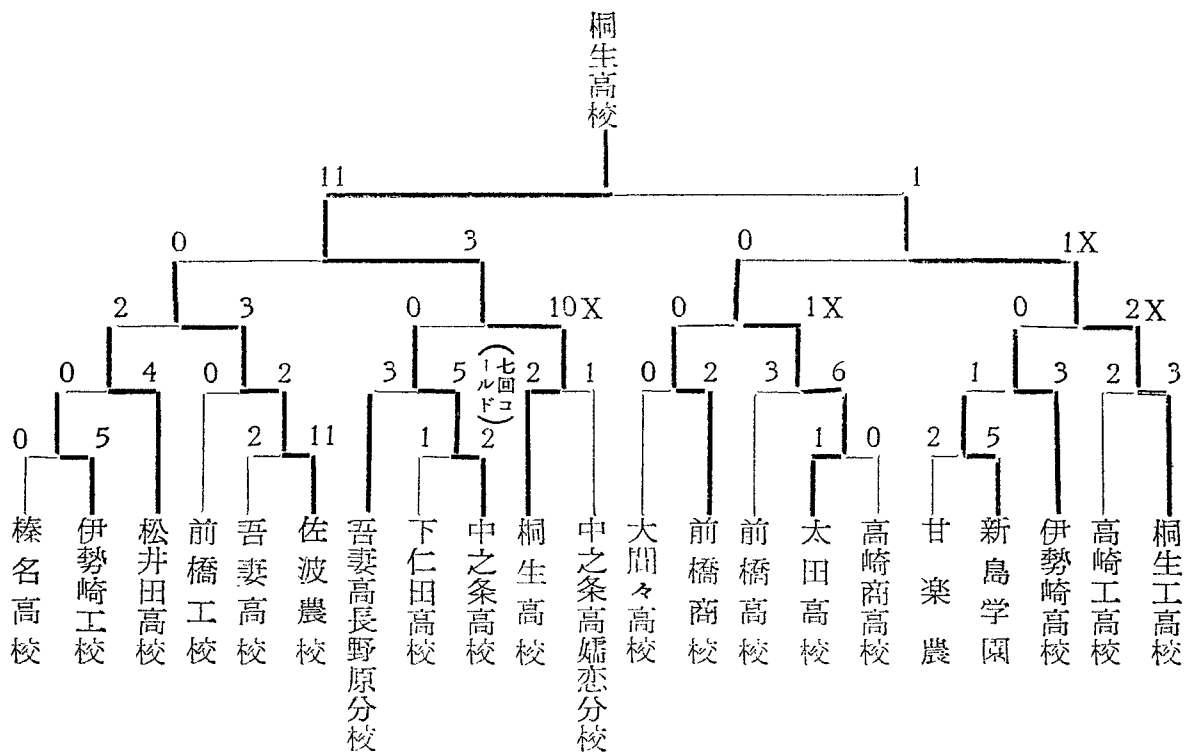
さて、昭和三四年度的の軟式野球部の歩みを回顧し、その経過を辿って報告致します。本年は一〇周年記念行事が各部で盛大に行われるので野球部も春季関東大会の県予選をその行事の一環として記念大会を行った。

◇関東高校軟式野球大会群馬県予選大会

○会期 一・二回戦 四月中に各地

準々決勝以降五月五〜七日

○会場 高崎城南球場



前年度優勝の原動力となったベテラン春木投手を擁する桐生高校が危気なく対中之条高・対中之条高・対佐波農・対桐生工と圧倒的強さを発揮し、予想通り優勝を遂げ、本県代表権を得、栃木県宇都宮市の関東大会に駒を進める事になった。

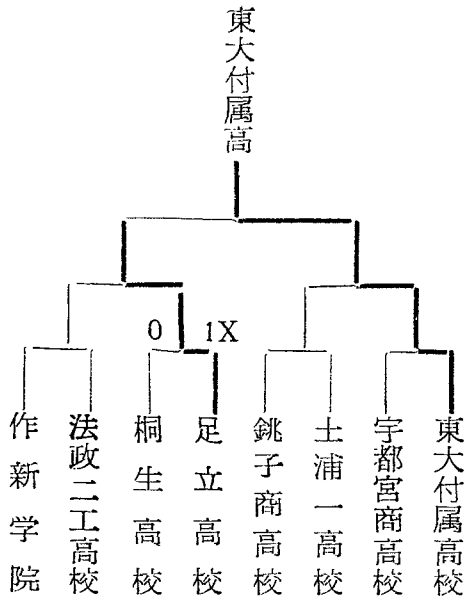
一〇周年記念に高体連より優勝旗が出たので、今後、毎年この春の大会の優勝校で持ち回る事にする。

例年のことではあるが、各チームとも新学期早々の事ではあるし、関西旅行等の行事が重なり練習不足が目立ち、全般的に内容が低調そのものであったのは遺憾であった。試合馴れと練習量をもつ桐生両校の決勝戦進出は順当であろう。関東大会出場の桐生高校に期待し。優勝を願う。

◇関東高校軟式野球大会

○期日 五月一六・一七日

○会場 栃木県営総合グラウンド



激しい予選を経て、勝ち進んで来た東京代表との対戦で惜敗、桐生高の善戦に敬意を表す。次に因みに過去の関東大会の結果をまとめて参考にしよう。

◎関東大会優勝校一覽表

年 度	優 勝 校	準優勝校	開催地
昭和二三年	桐生高校	佐倉高校	千葉市
" 二四 "	桐生工業	(東西對抗)	桐生市
" 二五 "	氏家高校	桐生工業	前橋市
" 二六 "	高崎商業	横浜商業	太田市
" 二七 "	小田原高校	室田高校(現榛名)	桐生市
" 二八 "	早稲田実業	本所工業	東京(上井草)
" 二九 "	早稲田実業	都立一商	東京(神宮)
" 三〇 "	早稲田実業	横浜商業	茅ヶ崎市
" 三一 "	都立一商	高崎商業	太田市
" 三二 "	早稲田実業	桐生高校	千葉市
" 三三 "	早稲田実業	東大付属高	土浦市
" 三四 "	東大付属高	足立高校	宇都宮市
" 三五 "			八王子市

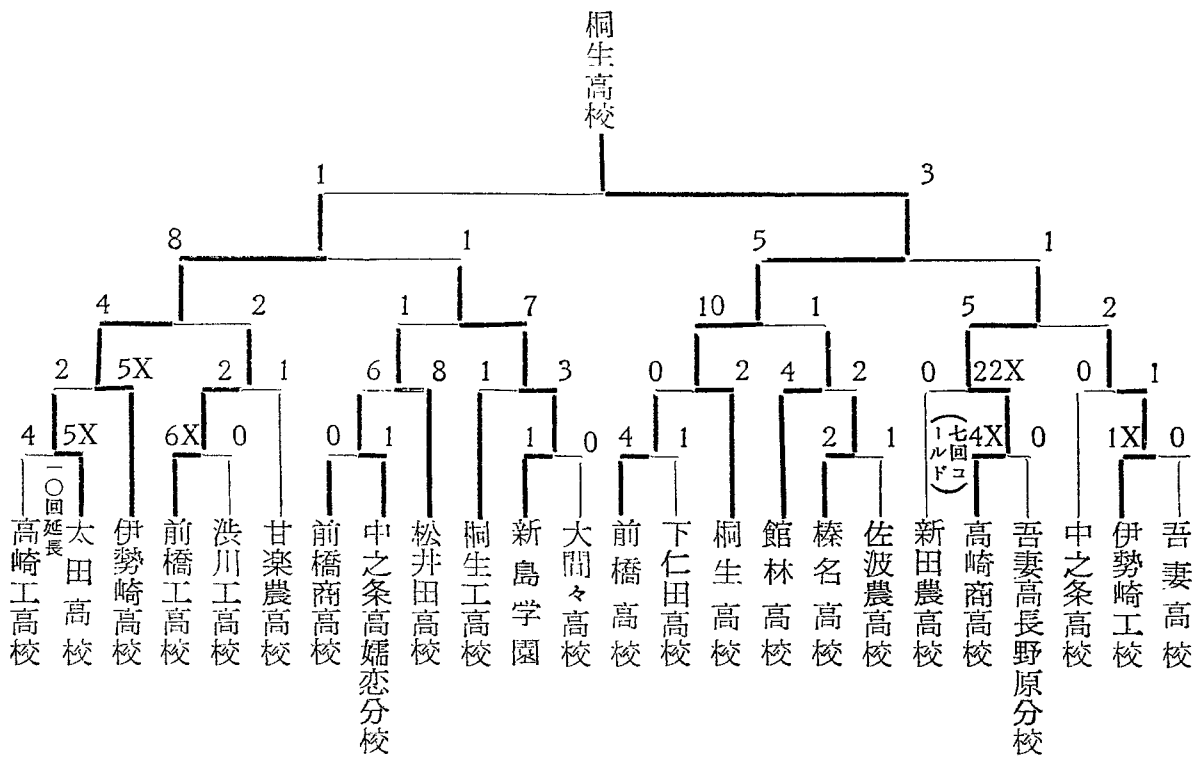
◇第四回全高国校軟式優勝大会兼

第一四回国体高校軟式野球群馬県予選大会

○会期 七月二四日(三一日)

○会場 高崎城南球場(一・二回戦)

桐生新川球場(準々決勝以降)



新鋭渋川工高、新田農高の新加入により二四チームによって熱戦を展開、各チーム共春より数段の進歩が目立ち、充実した試合が行われ、優勝の予断を許さぬものがあった。籤運にめぐまれたとは云え、炎暑のもと連日にわたる激戦のうち、学生野球の本分を守り、練習と斗志と団結の見事な成果が、母校軟式野球部の歴史と伝統に精華の一頁を残した連続優勝の桐生高校チームに敬意を表す。又一回戦以来敗退せし各校チームも捲土重来、精進をつづけ来年を期してもらいたい。

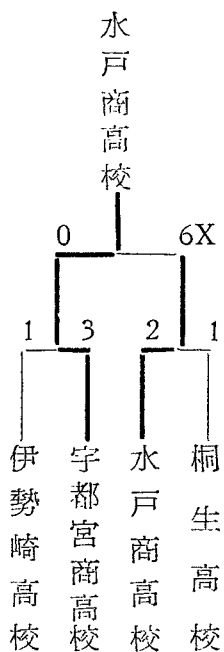
大会挙行に当り、高崎、桐生両市の関係各位、役員の皆様のご協力、御指導に厚く御礼申し上げます。

県代表権を獲得した桐生高校・伊勢崎高校は、来る八月高崎で行われる北関東大会に、群馬県参加二四チームの代表として、その名をはずかしめない活躍をし、ぜひとも地区代表権を握って欲しいと切望する。地元になるので萬般の準備を進め大会を待つ。

◆第四回全国大会北関東地区予選大会

○期日 八月五・六日

○会場 高崎城南球場



投の桐生高と打に勝る水戸商の四ツに組んでの五に食い下る手に汗握る激斗は、延長一四回に及び、ついに予選以来連続の投手春木

の疲れを打ち込まれて水戸商に凱歌上る。予想通り、この一戦の勝者が優勝し全国大会に出場する事になる。

尙、水戸商は八月二五日から大阪藤井寺球場、P・L教団両球場で挙行の全国大会に出場し善戦、又、第一四回国体（一〇、二六、二七、二八日）（府中）に関東代表として選ばれ万丈の気を吐く。

参考に過去四回をふり返って見よう。

○全国大会兼国体北関東地区大会

年度	優勝校	準優勝校	開催地
1回（三一）	高崎商業高校	宇都宮商業高校	太田市
2回（三二）	水戸一高校	桐生高校	宇都宮市
3回（三三）	宇都宮商高校（国体出場）	高崎商業高校	日立市
4回（三四）	水戸商業（国体出場）	宇都宮商業高校	高崎市
5回（三五）		宇都宮市	

年々才々心を新たに思うことではあるが、来年度こそは地区代表の栄冠を本県チームにもたらしたい。それには吾々役員も微力をささげて、数年来途絶えていた秋季の新人大会を復活させて、これを関東大会開催の運びにまでもって行つて、本県参加チームの心技の進歩向上に資するようしていかねばならない時期に來ていると思う。私はこれが実現に努力する所存である。

最後に、野球は特に多くの人達の協力なくしては行えないものであるが、春の大会以来、高崎市、高崎市教委、高崎審判協会の各位には、三たびに及ぶ大会の面倒を見て頂き誠に感謝に堪えず心から厚く御礼をかさねて申上げると共に、加盟二四チームの選手諸君の克己、自制をして明るく強い意志と、健康な身体の鍛練を重ねての来年度の活躍を楽しみにして筆を擱くことにする。

体 操 部

委員長 井 上 正 二

高体連発足十週年を經過し、我が体操部も堅実な努力と各方面の協力によって、年毎に発展し各種の大会にも立派な成績を挙げ、又世界的選手も輩出し県民等しく注目の的となり、伝統を誇る体操群馬もいよいよその輝きを増している。高体連体操部の責任の重大さを感じ心の躍動を禁じ得ない。十年一昔先輩の残した数々の涙ぐましい業績を省りみつつ大いに自重し、創意と工夫と努力と一段の躍進を願って止まない。

体操競技は他のスポーツとその性格を異にし判定競技であつて、高く跳べたから勝つ、ボールを多く入れたから勝つというものではない。種目の難易度の問題、組合せの問題、表現美の問題、印象点の問題等々採点の要素は広い。いわば全身全霊の表現である。それだけに難しさがある。練習も軽々しく考えるわけにはゆかない。

旺盛な研究心と絶ゆまざる努力と謙虚な心構えとは特に大切である。体操が形だけの問題でなく、秘められた微妙な表現技術は単に形を教えられることを待つのみでは上達しない。自ら種目をよく研究する心構えが大切であり、よく考えることである。微に入り細に亘つて考え実践することである。そして自らその動きを体得することである、その間には指導者や先輩の助言もあるであろう。友人の忠言もよく聞く、人の技もよく見る。合理的な練習は大切であるが樂をしてよい技術を身につけようとしても無理である。よく研究し

てほしい。

一、昭和三十四年度縣下高校体操選手権大会

第一部選手権

期日 昭和三十四年九月六日

場所 前橋市立女子高校体育館

男子の部

○団体総合

- 一位 高崎工業高校 三〇五、五五
- 二位 館林高校 三〇二、四〇
- 三位 太田高校 二九三、八五

○個人総合

- 一位 高井 康美(高高) 一〇五、八五
- 二位 浅見喜一郎(館高) 一〇五、二〇
- 三位 井上 隆司(高商) 一〇四、六五
- 四位 尾崎 勇(館高) 一〇二、二五
- 五位 須藤 晴真(高工) 一〇〇、三五
- 六位 柳沢 輝征(高工) 一〇〇、三〇

○個人種目別

- 徒手
 - 1 島崎 晴海(高工) 一八、五五
 - 2 井上 隆司(高商) 一八、二五
 - 3 浅見喜一郎(館高) 一七、九〇
 - 3 高井 康美(高高) 一七、九〇
- 平行棒
 - 1 浅見喜一郎(館高) 一八、一五
 - 2 井上 隆司(高商) 一八、一〇

鉄棒

鞍馬

吊環

跳馬

クライミング1 市根井 洋(高工)

ダンプリング1 西山 正乏(高工)

- 3 今井 忠夫(太高) 一七、七五
- 3 高井 康美(高高) 一七、七五
- 1 高井 康美(高高) 一八、七〇
- 2 浅見喜一郎(館高) 一七、五五
- 2 有泉 定雄(高工) 一七、五五
- 1 堀口 征宏(藤高) 一七、六〇
- 2 今井 忠夫(太高) 一七、四〇
- 3 尾崎 勇(館高) 一七、二五
- 1 高井 康美(高高) 一七、六五
- 2 須藤 晴真(高工) 一七、四五
- 3 浅見喜一郎(館高) 一七、三五
- 1 今井 忠夫(太高) 一七、八〇
- 2 浅見喜一郎(館高) 一七、七〇
- 3 井上 隆司(高商) 一七、六五
- 2 須藤 晴真(高工) 七秒四
- 3 金井 忠夫(高商) 八秒一
- 2 柳沢 輝征(高工)
- 3 島崎 晴海(高工)
- 女子の部
- 団体総合
 - 一位 前橋市立女子高校 二〇八、一七五
 - 二位 高崎市立女子高校 一九〇、八七三

○個人綜合

- 一位 土橋 妙子(前市女) 七二、二四九
- 二位 柳沢 玲子(前市女) 六九、九六六
- 三位 恵後原榮子(高商) 六八、七六五
- 四位 小柳 容子(高女) 六八、四四九
- 五位 福島 恵子(前市女) 六四、一九九
- 五位 大崎實美子(前市女) 六四、一九九

○個人種目別

- 徒手 1 土橋 妙子(前市女) 一七、九六六
- 2 柳沢 玲子(前市女) 一七、八〇〇
- 3 恵後原榮子(高商) 一七、二六六

- 平均合 1 土橋 妙子(前市女) 一七、七〇
- 2 恵後原榮子(高商) 一六、九五
- 3 柳沢 玲子(前市女) 一六、四五

- 平行棒 1 土橋 妙子(前市女) 一八、三三三
- 2 柳沢 玲子(前市女) 一七、三六六
- 3 恵後原榮子(高商) 一六、七九九

- 跳馬 1 柳沢 玲子(前市女) 一八、三五
- 2 土橋 妙子(前市女) 一八、二五
- 3 恵後原榮子(高商) 一七、七五

団体徒手体操男子(国体予選)

- 一位 高崎工業高校 八七、五(規四四、四 自四三、一)
- 二位 高崎商業高校 八二、〇(規四二、七 自三九、三)

団体徒手体操女子(国体予選)

- 一位 高崎女子高校 九一、八(規四五、七 自四六、一)
- 二位 榛名高校 七八、〇(規三九、三 自三八、七)
- 三位 太田女子高校 七三、三(規三五、七 自三七、六)

第二部選手権

期日 昭和三十四年十一月三日

場所 高崎商業高校体育館

男子の部

○団体綜合

- 一位 桐生工業高校 二五二、四六
- 二位 館林高校 二四一、一〇
- 三位 高崎高校 二三九、七八

○個人綜合

- 一位 柿沼 稔(桐工) 八八、六〇
- 二位 高川 邦弘(桐工) 八四、九五
- 三位 永島 武(関学) 八二、八〇
- 四位 井田賢次郎(高工) 八一、四〇
- 五位 岡野 正(館高) 八〇、八〇
- 六位 塚越 照雄(高商) 七九、八五

○個人種目別

- 徒手 1 柿沼 稔(桐工) 一七、八〇
- 2 花形紀久夫(高工) 一七、七五
- 3 西村 義久(高商) 一七、五五
- 平行棒 1 柿沼 稔(桐工) 一七、七〇
- 2 永島 武(関学) 一七、五五

鐵棒
 3 高川 邦弘(桐工) 一七、〇〇
 1 柿沼 稔(桐工) 一七、七〇

吊環
 2 井田賢次郎(高工) 一五、三五
 3 宮森 秀明(高商) 一五、三〇
 1 柿沼 稔(桐工) 一八、〇〇
 2 高橋 直樹(高高) 一七、〇五

跳箱
 3 高川 邦弘(桐工) 一六、七〇
 1 館野 勳夫(関学) 一八、〇〇
 2 井田賢次郎(高工) 一七、五五

鞍馬
 3 岡野 正(館高) 一六、九五
 1 山田 賢治(藤高) 一八、〇〇
 2 花形紀久夫(高工) 一七、〇五
 3 田中 清隆(桐高) 一六、三〇

女子の部

○団体総合

一位 前橋市立女子高校 一九〇、〇二六
 二位 前橋女子高校 一八七、六五九
 三位 太田尾島分校 一八七、〇六一

○個人総合

一位 斎藤 佳子(前市女) 六五、八九七
 二位 正田 史子(尾島) 六四、八六五
 三位 高橋 京子(高女) 六三、七三一
 四位 加藤 成子(前女) 六三、三六四
 五位 原田 瑞穂(前女) 六二、三六四

六位 大川 治枝(尾島) 六一、九三二
 ○個人種目別

徒手
 1 斎藤 佳子(前市女) 一七、〇六六

2 高橋 京子(高女) 一七、〇三三

3 田島 達枝(前市女) 一六、三三三

平行棒
 1 江田シズ子(館女) 一七、一三三

2 斎藤 佳子(前市女) 一六、九三三

3 正田 史子(尾島) 一六、七三二

平均台
 1 大友 勝代(渋女) 一六、四三三

2 斎藤 佳子(前市女) 一六、二六六

3 後藤 周子(桐女) 一五、八六三

跳箱
 1 正田 史子(尾島) 一六、八〇〇

2 原田 瑞穂(前女) 一五、七三三

3 四方田陽子(太女) 一五、七三二

二、關東高校体操選手権大会

期日 昭和三十四年六月二十日、二十一日

場所 横浜公園体育館、横浜商業高校体育館

男子の部

○団体総合

一位 本郷 高校(東京) 四二八、三〇〇
 二位 桐朋 高校(東京) 四二一、五五五
 三位 熊谷商工高校(埼玉) 四〇七、〇五五
 四位 銚子 高校(千葉) 四〇二、三五五
 五位 安房一高校(千葉) 四〇一、八五五

- 六位 結城一高校(茨城) 三九八、〇〇
- 八位 太田 高校(群馬) 三八〇、五五

太田高校前半よく頑張ったが、後半自由種目にやや力が不足入賞を逸してしまった。入賞成績は前記の通りで少くとも一種目平均八、五以上取らないと入賞はむづかしい。

女子の部

- 一位 二階堂高校(東京) 二七二、七二二
- 二位 前橋市女高校(群馬) 二六八、五五五
- 三位 大宮 高校(埼玉) 二六〇、九二一
- 四位 駒場 高校(東京) 二五六、六八九
- 五位 浦和一女高校(埼玉) 二五三、六二四
- 六位 高崎市女高校(群馬) 二五二、四五七

右の通り女子は成績よく、尙個人総合には土橋妙子(前市女)一位、柳沢玲子(前市女)二位、恵後原栄子(高商)六位と賞録を示した。残念に思われたのは、前市女チーム団体総合優勝確実を信じていたのに、試合開始最初の平行棒規定で、佐藤選手が捻坐を起し継続不可能となり、これがチームの大きな痛手となり、優勝を逸してしまった。

三、全日本高校選手権大会

期 日 昭和三十四年八月六日(九日)

場所 山形市山形体育館

本県男子高校で高井康美(高高)君が規定で五三、六五、平均八、九 浅見喜一郎(館高)君が五一、八五、平均八、六、予選通過者は規定個人総合二〇位まで、二〇位の記録が五四、九五で平均九、一

七五であるから平均九、二以上取って行かぬと予選通過は困難である、その点本県選手は大分力が足りなかった事が反省される。

(角 田)

高校女子第一位 藤花高校 二二七、一二五。第二位九州女子高二一一、三五九。第三位米沢商業、二〇九、六二五。本県代表前橋市立女子高校は第十四位で二〇〇、二九三であった。

全日本に於て昨年は第七位に入賞出来たので、今年の活躍に期待がかけられたが、第三位の佐藤利江選手が関東大会での負傷により不出場になったため、ベスト三の得点は大きくマイナスとなり、予選を九位で通過するにとどまってしまった。自由問題に於ても各校極めて強く五チームに追越され敗退のみじめをたたきつけられてしまった。昨年のレベルとは雲泥の差で二年間の同一規定種目はすばらしい進歩を見せ、平均八、七以上とらないと上位入賞困難である。自由種目のレベルも向上し昨年の力を遙かにしのぐ各チームの充実さを現出した。これからの練習計画に新しい方法が考えられねばならないであろう。

(田 口)

団体徒手体操については、高崎商業高校八三、五点で第十八位、女子は高崎女子高校八六、九点で第四位、毎年の事ながら絶対ゆるがぬ実力を示し感謝と喜びに堪えない。

四、国民体育大会

昨年十三回国体に於て女子総合第一位、男子第二位の好成績を挙げ、本年度又しても天皇杯第五位、皇后杯第三位の好成績を収めた、高校女子の器械第三位、高校女子団体徒手(高女)第四位、誠に喜ばしい限りである。高校男子の得点のないのがさびしい。

高校男子では一位東京で一六七点、一人平均九、二七八弱十七位までが平均九点以上の得点をしている、本県の成績が二十一一位で、一六〇、三五 一人平均八、八九。以上の成績から見ても、一人一種目平均九、〇以上出していないと予選通過には難しく、規定自由とも九、一の獲得をねらわれないと入賞は困難であると云える。その点本年は各選手共平均して点を取っていたが、いま一層の努力と斗志に欠けていた事を反省せねばならない。右規定種目 (角 田)

陸上競技部

委員長 下 田 仙 平

◇第一回縣下新人陸上競技大会

三四、四、二九 県営陸上競技場

△高校男子の部

百 米	①宮沢(高高) 12秒2	②松村(高商) 12秒3
二百 米	①宮沢(高高) 24秒3	②松村(高商) 24秒7
四百 米	①福島(高工) 54秒7	②中沢(勢農) 54秒8
八百 米	①金井(伊高) 2分10秒5	②奥野(前商) 2分10秒8
千五百 米	①金子(関学) 4分26秒2	②金井(伊高) 4分28秒0
五 千 米	①太田(玉高) 16分55秒4	②塚田(蚕糸) 17分6秒4
百 十 H	①横塚(太高) 17秒8	②諏訪(富高) 18秒4
走 十 跳	①長川(前高) 6米08	②高橋(富高) 6米02
走 高 跳	①金子(前高) 1米65	②綿貫(中高) 1米60

△高校女子の部

三段 跳	①永谷(沼高) 13米33	②川村(館高) 13米21
砲 丸 投	①山口(高商) 12米08	②塩谷(高工) 11米97
円 盤 投	①海野(伊高) 34米55	②西沢(高工) 34米32
槍 投	①山口(高商) 51米73	②八木(前商) 47米57
棒 高 跳	①大竹(利農) 3米10	②市川(桐高) 3米0
百 米	①小川(高市女) 14秒3	②新井(下高) 14秒4
二百 米	①平野(桐女) 29秒3	②小川(高市女) 29秒3
八十 H	①新井(下高) 14秒4	②石野(中高) 14秒8
走 十 跳	①松本(下高) 4米36	②西沢(高女) 4米20
走 高 跳	①斎藤(下高) 1米30	②角田(吾高) 1米30
砲 丸 投	①橋谷(藤女) 8米92	②伊藤(富高) 8米89
円 盤 投	①星野(伊女) 29米72	②松島(伊女) 25米34
槍 投	①佐藤(浜女) 28米07	②佐藤(吾高) 25米39

◇第十二回群馬高校陸上競技選手権大会兼

第十二回關東高校對抗選手権大会県予選会

三四年五月三〇・三一日 県営陸上競技場

△男子の部

百 米	①竹内(高高) 12秒0	②高橋(高商) 12秒0
二百 米	③桜井(太高) 12秒2	④加藤(前高) 12秒4
二百 米	⑤橋本(前商)	⑥中山(高商)
二百 米	①黒田(太高) 24秒0	②高橋(高商) 24秒4
二百 米	③竹内(高高) 24秒4	④大谷(太高) 24秒4
二百 米	⑤金井(高工) 25秒1	⑥坂上(高商)

四百米	①黒田(太高) 53秒0 ③木村(桐商) 54秒7 ⑤福島(高工)	②信沢(洪高) 53秒7 ④中沢(勢農) 56秒4 ⑥佐藤(中高)	三段跳	①中山(高商) 13米64 ③安井(伊高) 13米24 ⑤久保田(伊高) 12米82	②永谷(沼高) 13米25 ④川村(伊高) 13米22 ⑥岡戸(伊高) 12米78
八百米	①信沢(中高) 2分5秒8 ③金井(伊高) 2分6秒8 ⑤橋本(館高)	②沢田(藤高) 2分6秒1 ④関口(前商) 2分7秒7 ⑥黛(勢農)	走巾跳	①中山(高商) 6米40 ③新井(富高) 6米22 ⑤長川(前高) 6米09	②高橋(富高) 6米25 ④橋本(前商) 6米18 ⑥高橋(沼高) 6米02
千五百米	①橋爪(高工) 4分22秒 ③沢田(藤高) 4分24秒8 ⑤金子(関学)	②太田(玉高) 4分23秒 ④木村(中高) 4分25秒4 ⑥町田(中高)	棒高跳	①大竹(利農) 3米20 ③市川(桐高) 3米10 ⑤今井(下高) 3米10	②桜井(太高) 3米10 ④佐藤(藤高) 3米10 ⑥鈴木(高商) 3米10
五千米	①今井(大高) 16分23秒 ③飯塚(沼高) 16分45秒 ⑤奥野(前商)	②太田(玉高) 16分23秒 ④福島(伊高) 16分48秒8 ⑥金子(関学)	砲丸投	①西田(高商) 14米69 ③塩谷(高工) 11米88 ⑤広田(高商) 11米68	②山口(高商) 12米12 ④綿貫(中高) 11米86 ⑥八木(前高) 11米38
百十H	①塩谷(伊高) 16秒9 ③諏訪(館高) 18秒0 ⑤横塚(太高)	②安井(伊高) 17秒9 ④佐藤(藤高) 18秒0 ⑥高橋(高商)	円盤投	①西田(高商) 37米26 ③宮沢(藤高) 34米55 ⑤広田(高商) 34米06	②渡辺(伊高) 35米46 ④海野(伊高) 34米54 ⑥西田(高工) 33米02
二百H	①塩谷(伊高) 27秒5 ③橋本(前商) 28秒3 ⑤閑野(前商)	②松村(高商) 17秒9 ④横塚(太高) 29秒0 ⑥高橋(桐工)	槍投	①糸井(前工) 54米11 ③西田(高商) 47米84 ⑤坂上(館高) 45米54	②山口(高商) 48米47 ④神戸(高商) 45米54 ⑥佐藤(下高) 45米17
八百R	①中高 1分37秒9 ③高工 1分39秒0 ⑤富高	②高商 1分38秒5 ④伊高 1分39秒3 ⑥太高	ハンマー投	①西田(高工) 42米12 ③山口(高商) 36米04 ⑤海野(伊高) 33米40	②坂上(館高) 38米70 ④清塚(高商) 34米62 ⑥進藤(桐工) 27米43
走高跳	①中島(高高) 1米65 ③新井(中高) 1米60 ⑤遠藤(桐商定) 1米60	②松井(藤高) 1米65 ③高橋(高商) 1米60 ⑥金子(前高) 1米60	△女子の部 百米	①横田(高市女) 14秒0 ③片野(中高) 14秒2	②成瀬(高市女) 14秒2 ④新井(下高) 14秒2

二百米	⑤梁瀬(高商) 28秒9 ①平野(桐女) 28秒9 ③神保(中高) 29秒4 ⑤梁瀬(高商) 29秒7 ①樋口(渋谷) 13秒5 ③石野(中高) 14秒5 ⑤新井(下高) 54秒6 ①高市女 54秒6 ③中高 55秒6 ⑤藤女	⑥樋口(藤女) 29秒1 ②成瀬(高市女) 29秒1 ④樋口(藤女) 29秒4 ⑥浅見(吾高) 14秒2 ②児島(伊女) 14秒2 ④山口(高市女) 16秒6 ⑥神保(中高) 55秒5 ②吾高 57秒4 ④伊女 57秒4 ⑥富東
八十H	①横田(高市女) 4米84 ③片野(中高) 4米78 ⑤茂木(吾高) 4米65 ①樋口(渋谷) 1米40 ③赤石(高市女) 1米35 ⑤閑野(高市女) 1米30 ⑤川端(太女) 1米30 ①金沢(高市女) 10米25 ③松島(伊女) 9米14 ⑤金口(下高) 8米89 ①星野(伊女) 28米30 ③松島(伊女) 27米55 ⑤遠田(吾高) 24米77 ①山後(伊女) 31米26	②神保(中高) 4米84 ④赤石(高市女) 4米74 ⑥山田(高市女) 4米62 ②島田(伊市女) 1米40 ④石野(中高) 1米30 ⑤戸井田(館女) 1米30 ②小暮(伊市女) 10米07 ④橋谷(藤女) 8米99 ⑥田島(高市女) 8米76 ②金沢(高市女) 27米78 ④小暮(伊市女) 26米68 ⑥藤森(渋谷) 24米32 ②赤石(伊女) 31米21
走高跳	①横田(高市女) 4米84 ③片野(中高) 4米78 ⑤茂木(吾高) 4米65 ①樋口(渋谷) 1米40 ③赤石(高市女) 1米35 ⑤閑野(高市女) 1米30 ⑤川端(太女) 1米30 ①金沢(高市女) 10米25 ③松島(伊女) 9米14 ⑤金口(下高) 8米89 ①星野(伊女) 28米30 ③松島(伊女) 27米55 ⑤遠田(吾高) 24米77 ①山後(伊女) 31米26	②神保(中高) 4米84 ④赤石(高市女) 4米74 ⑥山田(高市女) 4米62 ②島田(伊市女) 1米40 ④石野(中高) 1米30 ⑤戸井田(館女) 1米30 ②小暮(伊市女) 10米07 ④橋谷(藤女) 8米99 ⑥田島(高市女) 8米76 ②金沢(高市女) 27米78 ④小暮(伊市女) 26米68 ⑥藤森(渋谷) 24米32 ②赤石(伊女) 31米21
走巾跳	①横田(高市女) 4米84 ③片野(中高) 4米78 ⑤茂木(吾高) 4米65 ①樋口(渋谷) 1米40 ③赤石(高市女) 1米35 ⑤閑野(高市女) 1米30 ⑤川端(太女) 1米30 ①金沢(高市女) 10米25 ③松島(伊女) 9米14 ⑤金口(下高) 8米89 ①星野(伊女) 28米30 ③松島(伊女) 27米55 ⑤遠田(吾高) 24米77 ①山後(伊女) 31米26	②神保(中高) 4米84 ④赤石(高市女) 4米74 ⑥山田(高市女) 4米62 ②島田(伊市女) 1米40 ④石野(中高) 1米30 ⑤戸井田(館女) 1米30 ②小暮(伊市女) 10米07 ④橋谷(藤女) 8米99 ⑥田島(高市女) 8米76 ②金沢(高市女) 27米78 ④小暮(伊市女) 26米68 ⑥藤森(渋谷) 24米32 ②赤石(伊女) 31米21
四百R	①高市女 54秒6 ③中高 55秒6 ⑤藤女	②吾高 55秒5 ④伊女 57秒4 ⑥富東
槍投	①山後(伊女) 31米26	②赤石(伊女) 31米21

参加選手五百余人、二日間にわたって覇を競うも記録的にはめぼしいものなく、唯高商西田選手の砲丸投に十四米六九の大会新記録、県高校新と、五〇〇〇米に大間々高・今井 玉高 太田両選手大会新記録と云う、低調なものであった。

◇第一二回關東高校陸上競技对抗選手権大会

三四年六月二七・二八日 埼玉県大宮競技場

本県関係の入賞者左記の如し。

△男子の部

二百米	⑤金井 尙弘(高工) 24秒2
四百米	①黒田 真史(太高) 52秒4 ②信沢 明(渋谷) 53秒0 ⑤佐藤 晴幸(中高) 55秒2 ③黛 秀信(勢農) 2分3秒8 ⑤信沢 明(渋谷) 2分5秒0
八百米	②塩谷 正夫(伊高) 16秒4 ⑥安井 毅史(伊高) 17秒4 ⑤塩谷 正夫(伊高) 27秒8
二百H	①高崎 商(高橋、松村) 1分35秒2 ⑥中之条高(劍持、吉沢) 1分36秒9 ⑥中之条高(綿貫、佐藤)
八百R	①高崎 商(高橋、松村) 1分35秒2
走巾跳	②中山 肇(高商) 6米52 ③橋本 昭(前商) 6米49

棒高跳	⑤新井 寿雄(富高)	6米44
	①桜井 忠道(太高)	3米40
	③大竹昭太郎(利農)	3米30
	⑥鈴木 彰(高商)	3米20
三段跳	②川村 勝良(館高)	13米91
	③中山 肇(高商)	13米84
	④永谷 宗次(沼高)	13米49
砲丸投	①西田 卓之(高商)	14米47
円盤投	③西田 卓之(高商)	39米92
槍投	②糸井 伝夫(前工)	52米77
	④西田 卓之(高商)	50米93
	⑥山口昭太郎(高商)	49米28
△女子の部		
二百米	③平野 柳子(桐女)	28秒5
八十H	⑤児島百合子(伊女)	14秒4
	⑥樋口 和子(洩女)	14秒6
四百R	②高市女(木檜、成瀬、山田、横田)	53秒5
走巾跳	③神保登志子(中高)	5米12
	④片野 洋子(中高)	5米9
走高跳	①島田 富江(伊市女)	1米45
	⑤樋口 和子(洩女)	1米35
槍投	④山後フミ江(伊女)	31米23
総合順位		

男子 二位 高崎商 四位 太田高 十位 伊勢崎高
 女子 七位 中之条高 十位 伊勢崎女

此の大会に高崎商は、埼玉の強豪川越高と終始得点争いを行い、高崎商の優勝ついに成ったかと思つたのに、総合点両校共、三十点と云う同点ながら、優勝数に於て川越高に破れ、宿願の優勝を逸したことは、かえすがえす残念であつた。

◇第一二回全国高校陸上競技対抗選手権大会

三四年八月七・八・九日 国立競技場

高校陸上競技者憧れの国立競技場で行われた全国大会ではあつたが本県勢以外に振わず左記二名が入賞するにとどまつた。

- 走巾跳 中山 肇(高商) 六米八五 第四位
- 砲丸投 西田卓之(高商) 一四米一〇 第六位

◇第一二回縣高校対抗陸上競技大会

一〇月一〇・一一日 県営陸上競技場

△男子一部		
百 米	①中山(高商)	12秒0
	③桜井(太高)	12秒0
二百米	①黒田(太高)	24秒1
	③大谷(太高)	24秒4
四百米	①黒田(太高)	53秒2
	③佐藤(中高)	55秒0
八百米	①木村(中高)	2分3秒6
	③沢田(藤高)	2分3秒9
千五百米	①木村(中高)	4分18秒5
	②橋爪(高工)	4分20秒3

五千米	③ 沢田(藤高) 4分22秒5 ① 奥野(前商) 16分30秒6 ③ 飯塚(沼高) 16分59秒0	② 田中(沼高) 16分56秒8
百十H	① 塩谷(伊高) 15秒6 ③ 安中(伊高) 16秒5	② 佐藤(藤高) 15秒6
二百H	① 塩谷(伊高) 27秒2 ③ 青池(沼高) 28秒5	② 橋本(前商) 28秒4
四百R	① 太高 45秒7 ③ 中高 47秒4	② 高商 46秒2
千六百R	① 伊高 3分39秒7 ③ 前商 3分42秒2	② 高工 3分40秒4
走巾跳	① 中山(高商) 6米58 ③ 岡戸(伊高) 6米9	② 横塚(太高) 6米25
走高跳	① 新井(中高) 1米68 ③ 阿部(沼高) 1米60	② 高橋(沼高) 1米60
三段跳	① 中山(高商) 13米77 ③ 横塚(太高) 13米60	② 永谷(沼高) 13米60
棒高跳	① 桜井(太高) 3米30 ③ 市川(桐高) 3米10	② 鈴木(高商) 3米30
砲丸投	① 西田(高商) 13米37 ③ 海野(伊高) 12米68	② 広田(高商) 12米69
円盤投	① 西田(高商) 40米0 ③ 海野(伊高) 12米68	② 広田(高商) 39米48
槍投	① 神戸(高商) 46米40 ② 塩谷(高工) 44米28	

ハンマー投 ③ 海野(伊高) 43米53
① 西田(高商) 43米1
② 西沢(高工) 39米54
③ 山口(高商) 37米2

総合順位

優勝 高崎商(八五、七五) 第二位 伊勢崎高(五五、七五)
第三位 太田高(四九、〇〇) 第四位 高崎工(四七、〇〇)
第五位 中之条高(三八、二五) 第六位 沼田高(三六、〇〇)

△男子二部

百 米	① 長谷川(富高) 12秒1 ② 中村(前高) 12秒2
二百 米	① 宮沢(高高) 24秒4 ② 高橋(富高) 24秒5
四百 米	① 信沢(渋高) 53秒3 ② 井野(前工) 55秒1
八百 米	① 信沢(渋高) 2分4秒9 ② 田島(桐工) 2分6秒3
千五百 米	① 金子(関学) 4分26秒8 ② 田島(桐工) 4分27秒9
百十 H	① 諏訪(館高) 16秒3 ② 高橋(桐工) 16秒9
二百 H	① 小林(利農) 28秒2 ② 高橋(桐工) 28秒2
四百 R	① 富高 46秒9 ② 高高 46秒6
千六百 R	① 桐工 3分41秒8 ② 桐商 3分42秒4
走巾跳	① 高橋(富高) 6米45 ② 新井(富高) 6米14
走高跳	① 金子(前高) 1米65 ② 高田(高高) 1米65
三段跳	① 長川(前高) 13米15 ② 松島(佐農) 13米6
棒高跳	① 大竹(利農) 3米45 ② 中里(桐工) 3米10
砲丸投	① 八木(前高) 11米53 ② 坂上(館高) 10米93
円盤投	① 八木(前高) 30米73 ② 皆川(桐工) 29米98
槍投	① 小林(蚕糸) 48米34 ② 坂上(館高) 47米12

ハンマー投 ①坂上(館高) 37米86 ②新藤(桐工) 31米87

優勝 桐生工(六四、〇) 第二位 富岡高(五二、〇)

第三位 前橋高(三六、〇) 第四位 高崎高(三五、〇)

第五位 利根農(三三、〇) 第六位 桐生商(三二、〇)

△男子三部

百 米 ①中里(桐工) 12秒8 ②小野(桐商) 12秒8

四百 米 ①小野(桐商) 54秒7 ②泉(桐工) 56秒9

千五百 米 ①田村(玉高) 4分39秒0 ②飯島(木崎) 4分41秒0

五千 米 ①太田(玉高) 16分47秒6 ②田村(玉高) 17分50秒8

四百 R ①小泉農 49秒4 ②桐工 50秒0

走巾跳 ①小林(太高) 5米82 ②中里(桐工) 5米60

走高跳 ①新島(伊高) 1米63 ②菊地(木崎) 1米55

砲丸投 ①大石(桐商) 11米13 ②羽切(吉井) 10米59

総合順位

優勝 桐工定 第二位 玉高 第三位 桐商定

△女子の部

百 米 ①神保(中高) 13秒8 ②小川(高市女) 14秒2

二百 米 ③片野(中高) 14秒2 ②小川(高市女) 29秒2

二百 米 ①平野(桐女) 28秒6 ②小川(高市女) 29秒2

二百 米 ③浅見(吾高) 29秒3 ②新井(下高) 13秒4

八十 H ①石野(中高) 13秒3 ②新井(下高) 13秒4

八十 H ③神保(中高) 13秒7 ②新井(下高) 13秒4

四百 R ①高市女 54秒9 ②中高 54秒9

③吾高 56秒3

走巾跳 ①神保(中高) 5米7 ②赤石(高市女) 4米82

③樋口(洩女) 4米74

走高跳 ①樋口(洩女) 1米40 ②関野(前市女) 1米35

③石野(中高) 1米35

砲丸投 ①小暮(伊市女) 10米19 ②金沢(高市女) 9米47

③新井(富東) 9米3

円盤投 ①星野(伊女) 27米99 ②小暮(伊市女) 27米10

③松島(伊女) 26米44

槍投 ①赤石(高市女) 31米87 ②山後(伊女) 29米76

③金沢(高市女) 26米21

総合順位

優勝 高崎市女(四六、〇) 第二位 中之条高(四一、〇)

第三位 伊勢崎女(二四、〇) 第四位 渋川女(一六、〇)

第五位 伊勢崎市女(一四、〇) 第六位 吾妻高(一三、〇)

◇第一〇回全国高校駅傳兼關東高校駅傳県予選会

三四年一月二九日 前橋新町コース

優勝 沼田高校 二時間二五分二一秒

第二位 大間々高校 二時間二五分三六秒

第三位 中高婦恋校 二時間二六分三〇秒

第四位 前橋商高校 二時間二六分四一秒

第五位 中之条高校 二時間二六分五三秒

第六位 勢多農高校 二時間二七分五三秒

沼田高全国大会出場権を獲得、沼田高より五位中之条高迄五校、

関東高校駅伝出場権を得る。

◇第十回全国高校駅伝大会

三四年二月二七日 大阪毎日マラソンコート

県代表沼田高校は山口監督引卒の下、勇躍壮途につき全員ベストを尽して敢斗するも、実力の差如何ともしがたく結局所用時間二時間二四分一四秒で五二位であった。監督、選手諸君の御労苦に対し感謝を表したい。

高体連陸上部発足以来、すでに十一年、長く十年一昔と云うが発足時代を顧みて、感慨ひとしお新たなるものがある。競技場だけを考へて見ても、前商の校庭時代、続いて高崎城南競技場時代、敷島県営競技場時代と、役員をやっと集めてどろんこの競技場でどうか、こうにか競技を終了した前商時代はもっとも印象的であったようだ。城南競技場ではじめて四〇〇米トラックを経験し、関東大会に出場した選手は競技場の広さからの圧力をはねのけて、面白いように入賞者がふえて来たなどは今から思えば一場のナンセンスにすぎない。昭和二十七年千葉で行われた関東大会に高崎工業が優勝、女子では高女が二位となり、大いに本県勢の為に氣勢を挙げ、以後選手達にやれば出来るの自信をもたらした様であった。続いて高市女、伊高の優勝、全国大会では、高工の八〇〇米リレーの優勝、高商の八百米リレー優勝、個人では短距離の星野(中高)、田中(高商)中跳の高橋(前女)、走高の滝(館)、円盤の金子(高工)等々の活躍はめざましいものがあり、本県高校のレベルを全国の二流どころにのしあげて来たのである、只中距離と長距離の記録が他の府県に比較しておとるのは何が原因なのか、いまだにその根底をつくことが

出来なして暗中もさくの有様である、結局練習場に恵まれなしか？。本県高校陸上が生んだ国際的選手高橋(前女)田村(沼高)金子(高工)等に続く大選手の出現を東京オリンピックを五年後にひかえて今日、今から期待したいものである。

バドミントン部

委員長 奥 泉 英 子

昨年度より今年度は男子校では佐波農高、女子校では境女子高・渋谷(定時制)と三校を迎え発展途上にあるわが部では新人校の入部を大いに歓迎し共に練磨され高校体育の目的を達成したいと念願している。

県内大会の部

◇第五回関東高校バドミントン選手権大会県予選会(団体戦)

於 前女性体育館

参加校 (男子三校) 桐商 伊工 伊高

(女子五校) 前女 高市 渋谷 太女 伊市女

成績

男子 一位 桐商 二位 伊工 三位 伊高

女子 一位 前女 二位 高市女 三位 太女

◇第一〇回全国高校バドミントン選手権大会県予選会(団体・個人選)

於 前女 桐女性体育館

参加校 (男子五校) 前商 桐高 伊工 伊高 桐商

(女子七校) 太女 澁女 前女 高市女 伊市女

桐女 前市女

成績

団体

男子 一位 桐生市立商業高校

女子 一位 県立桐生女子高校

個人

男子 W 一位 田中・田村組 (桐高)

二位 久保田・石坂組 (前商)

S 一位 田中 (桐高)

二位 鈴木 (桐商)

女子 W 一位 青山・関口組 (桐女)

二位 鈴木・石田組 (前市女)

S 一位 鈴木 (前市女)

二位 関口 (桐女)

◇第一四回国体県予選会

於 群大桐生工学部体育館

高校男子の部

W 一位 田村・田中組 (桐高)

S 一位 田村 (桐高)

高校女子の部

W 一位 青山・関口組 (桐女)

S 一位 関口 (桐女)

◇第一一〇回高校選手権大会

於 高市女体育館

参加者数 男子 三〇名 女子 四四名

成績

男子 W 一位 田村・田中組 (桐高)

二位 西村・鈴木組 (桐商)

三位 久保田・石坂組 (前商)

三位 町田・中川原組 (前商)

S 一位 鈴木 (桐商)

二位 西村 (桐商)

三位 町田 (前商)

三位 小林 (桐商)

女子 W 一位 関口・佐藤組 (桐女)

二位 柏原・山田組 (桐女)

三位 稲垣・稲井組 (前女)

三位 柳井・高橋組 (前市女)

S 一位 鈴木 (前市女)

二位 関口 (桐女)

三位 佐藤 (桐女)

三位 石原 (前女)

◇第九回高校新人競技大会

於 前女体育館

参加者数 男子 二九名 女子 四七名

成績

男子 一位 西村 (前商)

二位 石原 (前商)

三位 山田 (桐商)

三位 椎原 (桐高)

沼田水上分校	0	0	1	0	0	0	0	1	X
桐生商業高校	0	0	0	1	0	0	0	0	0
前橋商業高校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
榛名倉測分校	0	1	0	0	1	0	0	0	0
2 : 0									

準 決勝

桐生商業高校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高崎商業高校	0	0	0	0	0	0	0	0	1
1 : 0									

延長十回

榛名倉測分校	0	4	0	5	0	0	0	0	X
沼田水上分校	0	0	1	2	2	0	0	0	0
5 : 9X									

決 勝

高崎商業高校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
榛名倉測分校	1	0	0	0	0	0	0	3	0
4 : 0									

◎夏季大会（八月八日↓八月一日）兼全国大会予選
四ブロックの第一、二位校八校により城南球場で実施

準々決勝

① 榛名倉測分校	0	2	0	0	0	0	0	0	0
前橋商業高校	0	0	0	0	0	1	0	2	0
3 : 2									
② 高崎商業高校	0	1	0	0	0	0	0	1	X
桐生工業高校	0	0	0	0	0	1	0	0	0
前橋工業高校	0	1	0	2	1	0	0	0	0
1 : 2X									
③ 下仁田高校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0 : 4X									

④ 高崎工業高校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
伊勢崎高校	0	0	0	0	0	2	0	0	0
2 : 0									

① 春の優勝校榛名倉測は七安打を放ち三振十三を奪う池田の好投に前半の優勢のまま押し切ると思われたが八回一死、二、三塁から小西の二塁打で逆転され三安打の前商に名をなさしめた。

② 春の準優勝校高商は伏兵桐生工に接戦の末に敗れたが実力伯仲の好試合であった。

③ 前工が小林投手の好投とタイムリー安打で一方的に快勝した。初出場の下仁田高は善戦したが攻守とも、もう一步の精進が望まれる。前工の小林は二回長谷川に左前テキサス安打を許し、ノーヒット、ノーランの快記録を実現出来なかったが二塁を踏むもの僅か一人と云う好調を示した。

④ 高工は、さして好調と思えぬ武藤を打てず二安打を散発したのみで完敗した。

準 決勝

① 前橋商業高校	0	0	0	0	0	0	0	0	1X
桐生工業高校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0 : 1X									
延長十回									
② 前橋工業高校	0	2	0	1	0	0	0	0	X
伊勢崎高校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0 : 3X									

① 九回を終る迄一安打と抑えられた前商は延長十回裏トップ打者の藤井中越二塁打し沢田の遊ゴロ一塁暴投で一塁生還して決勝点をあげた。桐工は残塁十一を数えながら決定打なく粗雑な攻撃ぶりが惜しまれる。

軟式庭球部部報

委員長 田部井善作

◇全日本高校對抗軟式庭球大会県予選 昭三四、六、七 於桐生市営

男子の部

第三回戦

沼田高A 二―〇 桐生市商 太田高A 二―〇 高崎商B
 桐生高A 二―〇 前橋高B 前橋商A 二―〇 伊勢崎高A
 桐生工A 二―〇 藤岡高A 館林高A 二―〇 前橋工A
 佐農高A 二―一 前橋高A 高崎商A 二―〇 沼田高B

第四回戦

太田高A 二―〇 桐生市商 前橋商A 二―一 桐生高A
 館林高A 二―一 桐生工A 高崎商A 二―〇 佐農高

準決勝

太田高A 二―〇 前橋商A 前橋商A 二―一 館林高A
 高崎商A 二―一 太田高A
 新井・榊原 四―二 光山・小池
 浅見・武者 二―四 鹿山・山本
 小沼・城田 四―三 吉原・青木

女子の部

第二回戦

高崎女三―〇 大間々高 太田女A 三―〇 前橋市女
 桐生女二―一 沼田女B 前橋女二―一 吾妻高

第三回戦

桐丘高A 二―一 伊勢崎女B 藤岡女二―一 中之条高
 沼田女A 二―〇 富岡東A 高崎市女三―〇 伊勢崎市女A
 高崎女二―一 太田女A 前橋女二―〇 桐生女
 桐丘高A 二―〇 藤岡女 沼田女A 二―〇 高崎市女

準決勝

前橋女二―一 高崎女 沼田女A 二―〇 桐丘高A
 決勝 沼田女三―〇 前橋女

高橋・勝見 四―三 長谷川・石川
 後藤・林 四―一 皆川・中村
 後藤・星野 四―二 青柳・鶴田

全日学校對抗出場校 男子――高崎商業高校

女子――沼田女子高校

◇全日本並関東軟式庭球選手権大会県予選 昭三四、六、一四

於高崎市営コート

高校男子の部

第四回戦

(金子(桐工)四―二) 浅見(高商) 柳瀬(前商)四―一 (松井(高工))
 (上岡(桐工)四―二) 武者(高商) 吉海(前商)四―一 (中沢(高工))
 (金子(桐高)四―三) 磯貝(高商) 金子(沼高)四―三 (小沢(前高))
 (新井(桐高)四―三) 塚越(高商) 津金沢(沼高)四―三 (町田(前高))
 (光山(太高)四―一) 滝沢(前商) 増尾(藤高)四―二 (綾小路(富高))
 (小池(太高)四―一) 八木(前商) 沢田(藤高)四―二 (今井(富高))
 (金子(館高)四―三) 依田(前高) 中川(桐高)四―一 (江原(高商))
 (田中(館高)四―三) 龜田(前高) 正谷(桐高)四―一 (斎藤(高商))

(鹿山) (太高) 四―二 (石原) (桐工) (小池) (高商) 四―一 (加納) (前高)
 (田村) (前商) 四―〇 (縫島) (藤高) (恩田) (館高) 四―一 (宮内) (高商)
 (新井) (高商) 四―〇 (吉原) (太高) (野沢) (館高) 四―二 (下山) (桐高)
 (榎原) (高商) 四―三 (大島) (沼高) (中町) (桐工) 四―二 (中井) (中之)
 (栗原) (佐農) 四―三 (佐川) (沼高) (須田) (桐工) 四―二 (高橋) (条高)

第五回戦

(金子) (桐工) 四―〇 (柳瀬) (前商) (金子) (桐高) 四―〇 (金子) (沼高)
 (上岡) (桐工) 四―〇 (吉海) (前商) (新井) (桐高) 四―〇 (津金) (沼高)
 (光山) (太高) 四―〇 (増尾) (藤高) (田中) (館高) 四―二 (中川) (桐高)
 (小池) (太高) 四―〇 (沢田) (藤高) (田中) (館高) 四―二 (正谷) (桐高)
 (鹿山) (太高) 四―二 (小沼) (高商) (田村) (前商) 四―三 (恩田) (館高)
 (山本) (太高) 四―二 (城田) (高商) (蛭川) (前商) 四―三 (増山) (館高)
 (新井) (高商) 四―一 (野沢) (館高) (中町) (桐工) 四―二 (栗原) (佐農)

第六回戦

(金子) (新井) (金子) (中子) (金子) (中子) (光) (池山)
 (上岡) 四―〇 (新井) (金子) (中子) 四―三 (光) (池山)
 (田村) 四―一 (鹿山) (新井) (金子) (中子) 四―二 (須田) (田町)

準決勝

(金子) (田中子) (田村) 四―一 (新井) (原井)

決勝

田村、蛭川(前商) 四

5	4	1	5	8	1	0
3	1	4	3	6	4	4

三 金子、上岡(桐工)

高校女子の部
第四回戦

(佐藤) (吾高) 四―一 (中山) (高女) (後藤) (沼女) 四―〇 (岡部) (太女)
 (桑原) (吾高) 四―一 (大塚) (高女) (星野) (沼女) 四―〇 (矢沢) (太女)
 (都所) (吾高) 四―二 (樋口) (沼女) (長島) (太女) 四―二 (増田) (館女)
 (佐藤) (吾高) 四―二 (吉田) (沼女) (中沢) (太女) 四―二 (森田) (館女)
 (剣持) (桐女) 四―三 (吉田) (富東) (石川) (前女) 四―二 (福田) (藤女)
 (河村) (桐女) 四―三 (須田) (富東) (石川) (前女) 四―二 (清水) (藤女)
 (横田) (吾高) 四―〇 (中村) (沼女) (北山) (館女) 四―二 (高橋) (沼女)
 (市村) (吾高) 四―〇 (石原) (沼女) (黒野) (館女) 四―二 (勝見) (沼女)

第五回戦

(後藤) (佐藤) (長島) (都所)
 (星野) 四―〇 (桑原) (長島) 四―〇 (佐藤) (都所)
 (河村) 四―二 (長谷川) (北山) 四―三 (横村) (田町)

準決勝

(長沢) 四―三 (後藤) (河村) 四―一 (黒野) (山町)

決勝

長島、中沢(太女) 四

4	4	1	6	4	0
1	1	4	4	1	4

二 剣持、河村(桐女)

以上予選の結果全日本に出場組

高校男子

金子、上岡(桐工) 金子、新井(桐高) 光山、小池(太高)

金子、田中(館高) 中川、正谷(桐高) 鹿山、山本(太高)

増山、恩田(館高) 新井、榎原(高商) 中町、須田(桐工)

田村、蛭川(前商) 以上十組

高校女子

佐藤、桑原(吾高) 後藤、星野(沼女) 都所、佐藤(吾高)

増田、森田(館女) 長島、中沢(太女) 劍持、河村(桐女)

北山、星野(館女) 以上十組

関東選手権に出場組

高校男女子ともに全日本出場者の外に

高校男子 浅見武者、松井中沢、磯貝堀越、柳瀬吉海、張

山藤川、小沢町田、金子津金沢、滝沢八木、増尾沢田、

綾小路今井、依田龜田、江原斎藤、石原下山、加納津

久井、小沼城田、縫島塚越、沼賀宮口、吉原青木、野沢

曾我、下山矢部、栗原高橋、大島佐川、中井高橋、大月

伊藤、

高校女子 中山大塚、柴田堤、高橋竹沢、藤林塩見、服部

矢沢、石川浦野、須藤奥野、樋口諸田、蛭間中島、青柳

鶴田、高坂桜井、深井小池、林後藤、吉田須田、前田

多賀谷、高木上山、女井二渡、中村石原、君島蛭間、

皆川中村、茂木根岸

◇第十回関東軟式庭球選手権大会

七、二四、二六

於 高崎市営

高校男子

第三回戦

(荻野(甲府)四—〇)町田(前高) (木村(熊商)四—三)沼賀(高商)

(小松(工)四—〇)新井(桐高) (斎藤(東京)四—三)光山(太高)

(野口(児玉)四—三)金子(桐高) (滝沢(東京)四—三)小池(太高)

(今井(高)四—一)笠原(京華) (鹿山(太高)四—一)金子(東京)

(吉原(太高)四—一)羽根田(商) (山本(太高)四—一)金子(千才)

第四回戦

(藤井(松山)四—二)吉原(太高) (鹿山(太高)四—一)権正(山梨)

第五回戦

(矢島(高)四—二)青木(太高) (山本(太高)四—一)分部(谷村)

(土屋(山梨石和)四—〇) (鹿山(太高))

高校女子

第三回戦

(中山(高女)四—二)鈴木(神奈川) (須藤(渋谷)四—二)大久保(石岡)

(大塚(高女)四—二)青木(平沼) (後藤(渋谷)四—二)鴨志田(二)

(長島(太女)四—三)鈴木(石橋) (飯塚(真岡)四—三)高橋(沼田)

(中沢(太女)四—三)土野(石橋) (野沢(真岡)四—三)勝見(沼田)

第四回戦

(長谷川(行田)四—〇) (蛭間(桐生女))

(黒川(行田)四—〇) (中島(桐生女))

(飯田(行田)四—三) (中山(高女)) (須藤(渋谷)四—二) (鈴木(木更)

(須藤(渋谷)四—二) (奥野(渋谷)四—二) (長水(津二))

(榑原(川越)四—〇) (長島(太女)中沢)

第五回戦

(榑原(川越)四—二) (須藤(洩女)奥野)

◇全日本軟式庭球部大会 八、一、六 於小田原市営

学校対抗

第一回戦

高崎商業高校 二—一 甲南高校 (鹿児島)

第二回戦

高崎商業高校 〇—三 平商業高校 (福島)

沼田女高校 二—一 青森中央高校 (青森)

第三回戦

沼田女高校 〇—二 広島女子商高校 (優勝校)

選手権

高校男子

第二回戦

(中川(桐高)四—〇) (篠原(島根)梅津) (高橋(大坂)天王寺) 四—二 (金子(館高)田中)

(若原(岐阜)大垣北) 四—〇 (金子(桐工)上岡) (武者(高商)四—三) (梶原(岡山)宮崎)

(鹿山(太商)四—三) (前山(秋田)菅原) (宮本(東京)本井) 四—〇 (光山(太商)小池)

(合田(愛媛)三島) 四—〇 (田村(前商)蛭田) (河崎(広島)盈進) 四—二 (恩田(館高)増山)

(金子(桐高)四—一) (小松(長野)土橋) (岡谷)

第三回戦

(中川(桐高)四—〇) (徳田(法政)中村) (武者(高商)四—三) (坂本(盤城)斎藤)

(金子(桐高)四—一) (佐藤(福島)立原) (鹿山(太商)四—二) (権正(山梨)分部) (谷村)

第四回戦

(山崎(長野)北村) 四—三 (中川(正谷)武) (新井(蔵本)門田) (新宮)

(鹿山(本商)四—三) (沢田(松江)工) (浅沼(清水東)四—一) (金子(新井)志田)

第五回戦

(新井(武者)四—二) (岸(愛知)古橋) (池田(広島)丸本) 四—三 (鹿山(山本)山本)

第六回戦

中島、磯田(広島、誠之館) 四—三 新井、武者

高校女子

第二回戦

(長島(太女)四—三) (梶村(広島)金崎) (横田(吾妻)四—二) (穴井(樹岡)是繁) (上中)

(佐藤(名古屋)長縄) 女商 四—〇 (北山(館女)黒野) (剣持(桐女)四—〇) (三羽(京都)河村) (山城)

第三回戦

(長島(沢島)四—二) (高坂(青森)立中央) (瀨(大分)高司) (伯豊) 四—二 (横田(市村)市村)

(古沢(瀨戸)四—三) (河村(劍持)星野) 四—二 (和田(新)小千谷)

第四回戦

(大橋) (焼津) 四―一 (長島) (鈴木) (宇都宮) 四―一 (後藤) (池ヶ谷) (松本) (女商) (星野)

◇第十四回国体県予選 八、一五 於 高崎市営

高校女子
第四回戦

(長島) (太女) 四―一 (高橋) (吾高) (山野崎) (館女) 四―三 (佐藤) (吾高)
 (横田) (吾高) 四―三 (高橋) (沼女) (青柳) (伊市) 四―二 (大森) (榛高)
 (市村) (吾高) 四―三 (勝見) (沼女) (田幡) (女) 四―二 (本山) (榛高)
 (須藤) (洩女) 四―一 (劍持) (桐女) (丸橋) (伊女) 四―三 (長谷川) (前女)
 (奥野) (洩女) 四―一 (河村) (桐女) (丸橋) (伊女) 四―三 (今井) (前女)
 (中山) (高女) 四―一 (戸所) (吾高) (石川) (高市) 四―二 (女井) (桐丘)
 (大塚) (高女) 四―一 (佐藤) (吾高) (清水) (女) 四―二 (二渡) (桐丘)

第五回戦

(長島) 四―一 (山野崎) (横田) 四―〇 (青柳)
 (中沢) 四―一 (小野田) (市村) 四―〇 (田幡)
 (須藤) 四―二 (大沢) (中山) 四―一 (石川)
 (奥野) 四―二 (丸橋) (大塚) 四―一 (清水)

第五回戦勝者のリーグ戦成績

第一位 須藤、奥野 (洩女) 二勝二敗 対戦成績により
 第二位 中山、大塚 (高女) 二勝二敗 対戦成績により
 第三位 横田、市村 (吾高) 一勝二敗 対戦成績により
 第四位 長島、中沢 (太女) 一勝二敗 対戦成績により
 国体選手 須藤、奥野組 中山、大塚組

高校男子
第五回戦

(小林) (沼高) 四―二 (金子) (桐工) (新井) (高商) 四―二 (小沢) (前高)
 (佐川) (沼高) 四―二 (上岡) (桐工) (武者) (高商) 四―二 (町田) (前高)

(下山) (桐高) 四―〇 (荒井) (桐商) (江原) (高商) 四―一 (張山) (前工)
 (新井) (桐高) 四―〇 (内田) (桐商) (斎藤) (高商) 四―一 (藤川) (前工)
 (小林) (桐工) 四―〇 (滝沢) (前商) (鹿山) (太高) 四―一 (石原) (桐工)
 (須田) (桐工) 四―〇 (八木) (前商) (小池) (太高) 四―一 (下山) (桐工)
 (浅見) (高商) 四―二 (吉田) (前高) (金子) (館高) 四―二 (依田) (前高)
 (城田) (高商) 四―二 (津久井) (前高) (田中) (館高) 四―二 (龜田) (前高)

第六回戦

(新井) 四―一 (小林) (下山) 四―一 (江原)
 (武者) 四―一 (佐川) (新井) 四―一 (斎藤)
 (鹿山) 四―二 (小林) (金子) 四―三 (浅田)
 (小池) 四―二 (須田) (田中) 四―三 (城田)

第六回戦勝者のリーグ戦成績

第一位 新井、武者 (高商) 三勝〇敗
 第二位 鹿山、小池 (太高) 二勝一敗
 第三位 金子、田中 (館高) 一勝二敗
 第四位 下山、新井 (桐高) 〇勝三敗
 国体選手 新井、武者組 鹿山、小池組

◇第十四回国体關東ブロック予選 於 大宮県営

高校男子は予選なくストレートで本大会に出場
 高校女子 三勝三敗第四位にて本大会出場資格を獲得する。

◇第十四回国民体育大会 一〇、二七―二八

高校男子
 第一回戦 群馬 二―〇 山口
 第二回戦 群馬 二―一 京都
 第四回戦 群馬 二―一 福岡

準決勝 群馬 馬〇—二 広島

鹿山、小池 一—四 杉山、木本

新井、武者 二—四 池田、藤本

第三位決定戦 群馬 馬一—二 兵庫

新井、武者 二—四 藤田、永谷

鹿山、小池 四—三 宮島、櫻田

〃 一—四 藤田、永谷

群馬県第四位

高校女子

第一回戦 群馬 馬二—一 香川

第一回戦 〃 一—二 大阪

◇第六回県下高校新人軟式庭球大会

高体連十周年記念大会 一〇、一八 於高崎市営

高校男子

第四回戦

(石原)桐工 三—一 (金子)館高 (吉田)前高 三—〇 (柳田)伊工

(張山)前工 三—二 (須内)前商 (磯貝)高商 三—二 (小林)沼高

(東地)前高 三—二 (須田)高工 (秋山)関学 三—二 (滝沢)前商

(小沢)前高 三—二 (篠原)館高 (金子)桐工 三—二 (沼賀)高商

第五回戦

(石原)桐工 三—〇 (吉田)前高 (張山)前工 三—二 (磯貝)高商

(東地)前高 三—一 (秋山)関学 (小沢)前高 三—二 (金子)桐工

準決勝戦

(張山)四 (石原)二

Score table for Zhangshan vs Shiyuan: 4 4 4 6 4 2 | 2 0 1 8 2 4

(小沢)四 (東地)一

Score table for Xiaoze vs Dongdi: 4 10 4 2 4 | 0 8 1 4 0

決勝戦

(小沢)四 (張山)三

Score table for Xiaoze vs Zhangshan: 2 9 4 4 6 2 5 | 4 7 2 6 4 4 3

高校女子 第四回戦

(横田)吾高 三—〇 (坂牧)高市 (林)後藤 沼女 三—二 (藤林)前市

(河村)桐女 三—〇 (服部)太女 (樋口)沼女 三—〇 (増田)館女

(山崎)館女 三—〇 (佐藤)吾高 (高橋)沼女 三—〇 (小野沢)洪女

(長谷川)前女 三—〇 (宮崎)境高 (石川)高市 三—〇 (唐沢)中之

第五回戦

(後藤)沼女 三—一 (横田)吾高 (樋口)沼女 三—二 (河村)桐女

準決勝戦
 (高橋) 勝見(沼女) 三―〇 (山崎) 小野田(館女) (長谷川) 石川(前女) 三―〇 (石川) 清水(高市) 女

決勝戦

林		後藤		四	
4	2	4	4	1	4
0	4	6	2	4	1
三		三		高橋	
諸田		樋口		勝見	
四		四		四	
5	5	4	1	7	7
3	3	1	4	5	5
一		一		長谷川	
石川		長谷川		女	

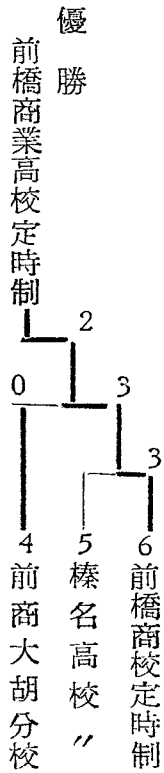
高橋		勝見		四	
6	0	2	9	4	4
4	4	4	9	1	1
三		三		林	
後藤		林		女	

高体連よりの十周年記念事業の優勝旗は、
 男子 前高 小沢、町田組
 女子 沼女 高橋、勝見組 獲得する。

◇定時制高校対抗

十月十八日県高新人大会と同時に開催する、雨天のため中止となり十一月一日、前橋工業高校コートで開催する。

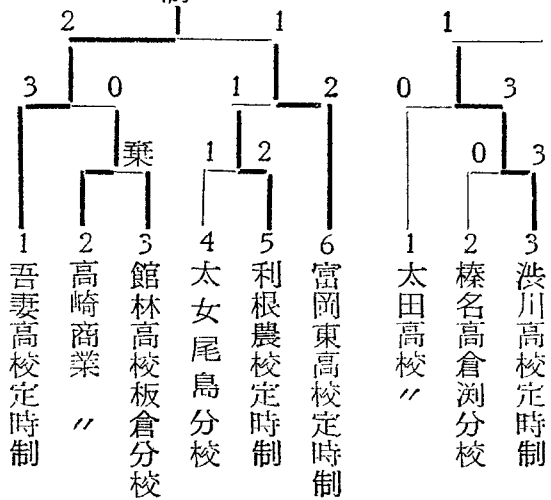
男子の部



女子の部

優勝

吾妻高校定時制

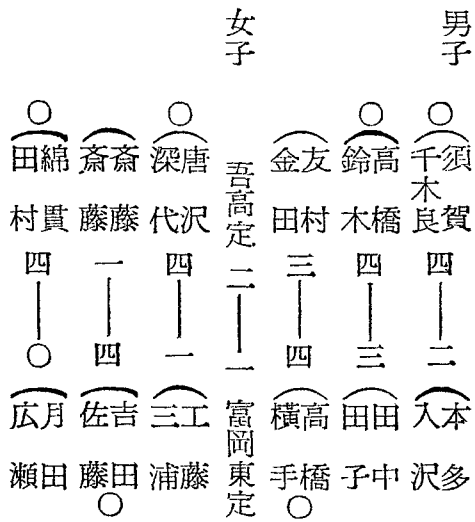


高体連よりの十周年記念事業の優勝旗は男子前橋商高定時制、女子吾妻高定時制獲得する。

決勝戦 前商定二―一 浪高定

男子

女子



相 撲 部

委員長 浅 見 一 也

全国的水準から見れば、相撲人口も少く、相撲技倆も劣りますが、それでも桐生、高崎地区の相撲愛好者の努力で、本年より大間々高校、桐生高校、桐生市立商業高校、桐生工業高校、高崎商業高校の生徒諸君が初出場して例年よりも参加校の増加したことは大変喜ばしいことであります。尙、県高校選手権では毎年のように二、三位で惜しくも優勝を逃していた利根農林高校が高体連相撲部発足以来長年努力してただけに十年の宿願を達成して誠に嬉しいことでもあります。更に県高校選手権大会団体戦で一、二位となった利根農林高校、高崎高校とも入賞者全員が二年生であったことは、明年に期待がもって心強い限りであります。

◇第七回関東高校相撲大会群馬県予選会

五月一七日 県営相撲場で開催

初出場の桐商、大間々高、高商を加えて八校の総当りリーグ戦の結果左の通り決定

優勝	高崎高校	六勝一敗	一五・五
二位	桐生市立商業高校	五勝二敗	一五・五
三位	新島学園高校	五勝二敗	一三・三
四位	利根農林高校	四勝三敗	一二・二
五位	大間々高校	二勝五敗	八・二

◇第七回関東高校相撲大会

五月二十三日 水戸市東町グラウンド特設相撲場で開催

東京(一五校)、神奈川(五校)、千葉(五校)、埼玉(四校)、山梨(五校)、栃木(二校)、茨城(六校)とともに本県からは、高商桐市商、新島学園、利農、大間々高の五校参加した。雨天のため個人戦は一、二回戦で中止するやむなきに至った。

本県関係の成績左の通り

団体予選一回戦

高崎高校	1	—	2	早稲田実業高校(東京)
桐市商高校	2	—	1	安房農業高校(千葉)
新島学園	0	—	3	神奈川工業高校(神奈川)
利根農林高校	1	—	2	湘南高校(神奈川)
大間々高校	0	—	3	逗子開成高校(神奈川)

団体予選二回戦

高崎高校	0	—	3	錦城高校(東京)
桐生市商高校	0	—	3	日川高校(山梨)
新島学園	1	—	2	横須賀工業高校(神奈川)
利根農林高校	0	—	3	笠間高校(茨城)
大間々高校	0	—	3	馬頭高校(栃木)

団体予選三回戦

高崎高校 1—2 水戸農業高校(茨城)
 桐生市商高校 0—3 市川工業高校(千葉)
 新島学園 1—2 烏山高校(栃木)
 利根農林高校 0—3 逗子開成高校(神奈川)
 大間々高校 2—1 水戸農石塚分校(茨城)

早実、神工、湘南高等比較的強剛との組合せもあり、桐生市立商業、大間々高校が夫々一勝しただけで、優秀十六団体決勝トーナメントに出場することは一校もできなかった。(一位早実、二位本郷高、三位神奈川工、湘南高)

◇第一四回群馬高等学校相撲選手権大会

七月一九日 桐生市新川相撲場に於て 第三七回全国高校県予選会を兼ねて開催。

団体戦では利根農林高校が長年の宿願を果して優勝、高体連十周年記念として製作された優勝旗を獲得、桐生市長杯の表彰を受け、第二位高崎高校が桐生市議会議長杯、個人戦では桐生市立商業高校朝倉康次君が優勝して桐生市教育長賞(楯)の贈呈を受けた成績左の通り

団体戦

参加九校一〇チームを二群に分け夫々総当りリーグ戦を行い、各群の上位二チームずつで決勝リーグ戦を行ったが、決勝リーグで利根農林と高崎高校が同率同点となったので更に優勝決定戦を行った。

A 組

	伊(定)	利農	高商	高高	勢B	勝数	得点	順位
伊(定)	—	0	3	1	2	二	6	三
利農	3	—	3	1	3	三	10	二
高商	0	0	—	1	1	〇	2	五
高高	2	2	2	—	2	四	8	一
勢B	1	0	1	2	—	一	4	四

B 組

	桐高	伊(全)	桐商	新島	勢農	勝数	得点	順位
桐高	—	2	2	1	2	三	7	一
伊(全)	1	—	2	1	0	一	4	五
桐商	1	1	—	2	1	一	5	四
新島	2	2	1	—	2	三	7	二
勢農	1	3	2	1	—	二	7	三

決勝リーグ

	利農	高高	桐高	新島	勝数	得点	順位
利農	—	2	1	2	二	5	一
高高	1	—	2	2	二	5	二
桐高	2	1	—	1	一	4	三
新島	1	1	2	—	一	4	三

三位決定戦

桐生高校 2—1 新島学園高校

吉田 博茂 ○— 勅使河原軍司

不戦勝

野口 雄望 ○— 山田健次郎

鶴見 能治 ○— 斎藤 吉祥

優勝決定戦

利根農林高校 3—0 高崎高校

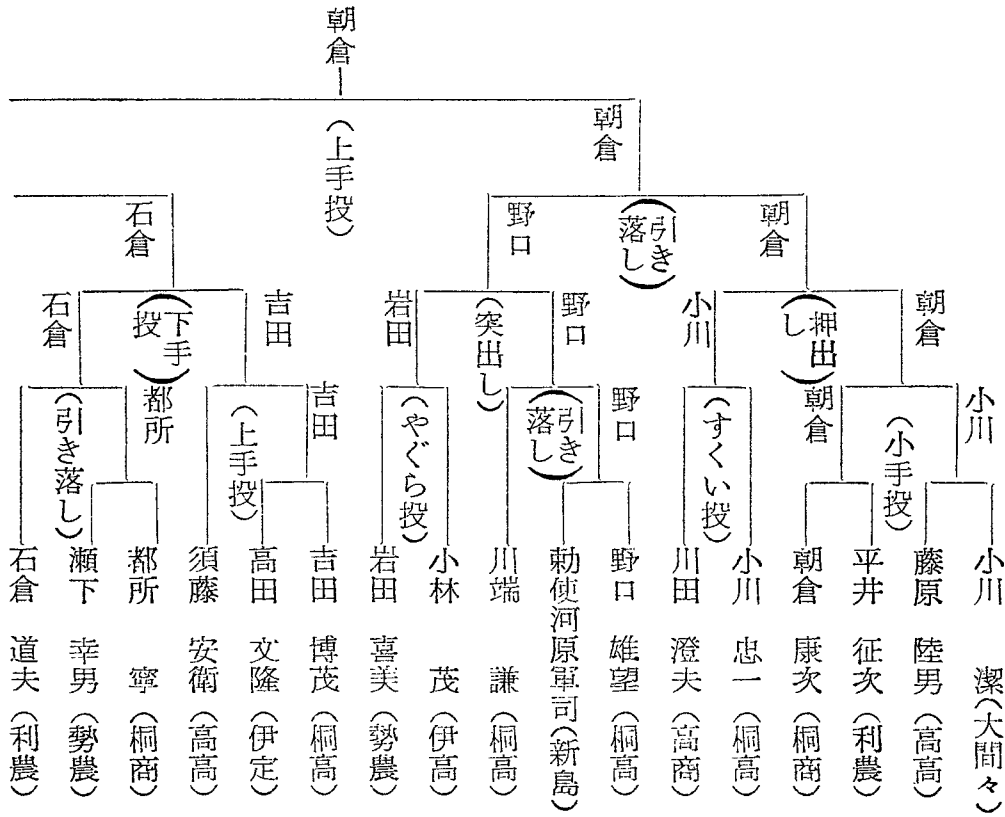
石倉 道夫 ○— 須藤 安衛

平井 征夫 ○— 川田 正彦

大金 利治 ○— 藤原 陸男

個人戦

参加者四十一名のうち予選三回戦で二勝以上の者二名で決勝トーナメントを行い、桐生市立商業朝倉康次君が利根農林大金利治君を上手投げで破り優勝した。



◆第三七回全国高校相撲選手権大会

八月二二、二三日 大阪府立体育会館に於て開催

群馬県予選で団体優勝した利農(石倉、平井、大金、鈴木)個人戦優勝者桐生市立商業高校朝倉君が参加した。

団体戦では利根農林の善戦及ばず、福島県田島高、京都府中京商、鳥根県隠岐水産にいずれも 3-0で敗れた。

個人戦では利根農林大金君が一回戦に熊本農井上君を破り、二回戦で桐生市商朝倉君を破つて県選手権大会の逆結果となつたが、大金君も三回戦で大阪府桃山学院坂口君に敗れた。

◆第五回全国高校相撲東西対抗大会

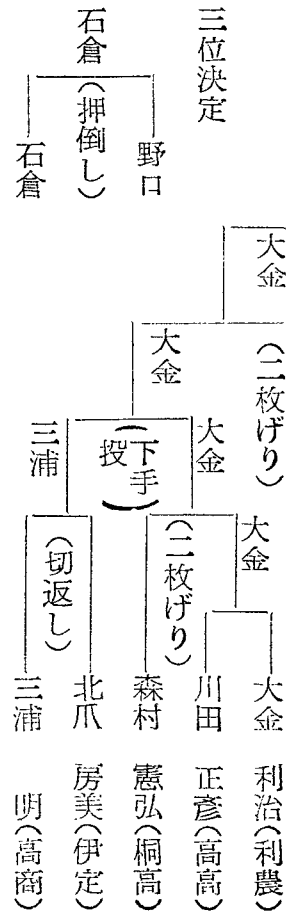
八月二五日 伊勢神宮如雪園相撲場で開催

本県代表朝倉君は東軍B組六陣として出場、二回戦で西軍C組和歌山県川端君を浴せ倒して破つたが一、二回戦に不調であった。

◆第一四回国体群馬県予選会

参加者一七名を四群に分け予選リーグ戦を行い、各群二名ずつ計八名で決勝リーグ戦の結果左の通り決定

- 一位 野口 雄望 (桐生高校)
- 二位 小川 忠一 (桐生高校)



- 三位 朝倉 康次 (桐市商高)
- 四位 川端 謙 (桐市商高)
- 五位 石倉 道夫 (利根農林)
- 六位 小川 潔 (大間々高)

以上六名が本県代表と決定した。

◇第一四回国体高校相撲関東予選

九月六日 東京靖国神社相撲場に於て開催

本県選手の善戦及ばず、二勝四敗一二点で第六位となった。

	群馬	千葉	埼玉	栃木	神奈川	山梨	茨城
先鋒	朝倉	×	×	○	×	×	○
二陣	野口	×	○	○	×	○	○
中堅	小川忠	○	×	○	×	×	×
副将	石倉	×	×	×	×	×	×
					小川潔		
大将	川端	○	×	○	×	○	○

◇昭和三四年関東高校相撲個人戦

五月二三日 水戸市に於ける第七回関東高校相撲大会は雨のため個人戦中止のやむなきにいたったので、あらためて九月六日午後一時より東京靖国神社相撲場で開催。

桐生市商朝倉君がA組準決勝で帝京高深沢君に敗れ、桐生高小川忠一君もC組決勝まで進出したが明大中野高政浦君に敗れたが、本県選手としてはすばらしい好成績であった。

剣道部

前商 堅山 清治

群馬県高体連に剣道部が誕生したのは昭和二十八年四月であった。全国的に見てその出発は極めて遅かった、然し高体連に於ける先輩各部の御指導御支援によって翌二十九年には第一回関東高校剣道大会が千葉市に於て開催されるや本県も前商、前高、高商、沼高の四校が出場したが、技術的には数段のへだたりがあった。それから八年関東地方は勿論、全国大会に於ても準決勝に進出する程に向上し群馬県剣道部の名声を高からしめるに至ったことはお互いによるこばしいことである。我々高体連剣道部はこれに甘んずることなく全国優勝を目ざして毎日精進し県下に於ても殆どの男子高校に於て実施され、さらに中学校剣道の振興にもその指導支援を惜しまないものである。本年は特に高体連十周年記念として剣道部にも優勝旗をつくり斯道奨励のために若人の血を躍らしている。

左に本年度行事を反省しつつ記載し諸兄の参考の資にしたいと思ふ。

◇第六回関東高校剣道大会予選

昭和三十四年五月十六日

於前商

C グループ

順位	1	3	4	2	5
勝数	4	2	1	3	0
桐商	5	3	3	3	/
小農	3	1	1	/	2
伊工	4	3	/	4	2
中高	5	/	2	4	2
前商	/	0	1	2	0
/	前商	中高	伊工	小農	桐商

A グループ

順位	2	3	5	1	4	6
勝数	4	3	1	4	3	0
前工(定)	5	4	3	5	3	/
前高	2	4	1	3	/	2
桐高	3	2	0	/	2	0
渋高	5	5	/	5	4	2
佐農	3	/	0	3	1	1
高工	/	2	0	2	3	0
/	高工	佐農	渋高	桐高	前高	前工(定)

D グループ

順位	1	2	4	3	4
勝数	3	3	1	2	1
富高	3	4	1	4	/
高商	3	4	0	/	1
勢農	5	2	/	5	4
館高	2	/	3	1	1
高商	/	3	0	2	2
/	高商	館高	勢農	高高	富高

B グループ

順位	1	3	5	3	2
勝数	4	2	0	2	2
伊高	3	1	1	3	/
前工	4	3	1	/	2
太高	4	4	/	4	4
藤高	3	/	1	2	4
沼高	/	2	1	1	2
/	沼高	藤高	太高	前工	伊高

A グループ

順位	4	5	1	3	2
勝数	1	0	3	3	3
高工	1	1	1	3	/
伊高	1	0	4	/	2
館高	0	0	/	1	4
高商	5	/	5	5	4
前定	/	0	5	4	4
小農	/	0	5	4	4
/	小農	高商	館高	伊高	高工

B グループ

順位	1	3	4	5	2
勝数	4	2	1	0	3
佐農	4	1	0	1	/
勢農	4	3	4	/	4
藤高	4	4	/	1	5
前工	3	/	1	2	4
前商	/	2	1	1	1
/	前商	前工	藤高	勢農	佐農

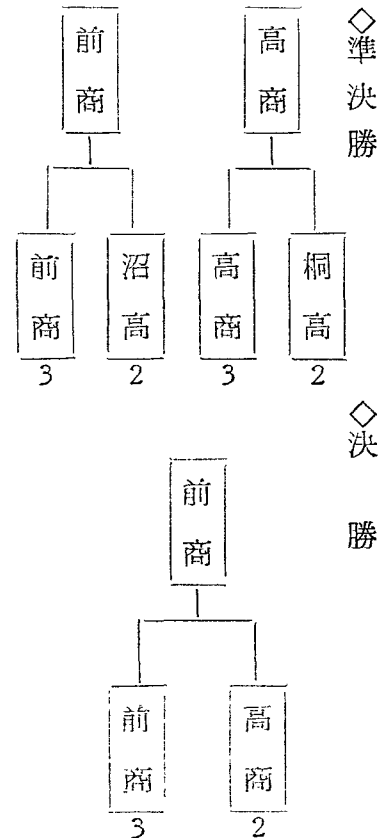
◇第六回全国高校大会県予選

昭和三十四年六月二八日 於高商

この結果関東大会本県代表は前商、高商、沼高、桐高の四校に決定。
 本県より審判として吉永、堅山、中島三名参加、代表校は前記四校、善戦健闘したが前商準々決勝、高商、沼高、桐高は何れも予選リーグで破れたが堂々たる斗いであった。

◇第六回関東高校剣道大会

昭和三十四年六月七日、八日 於甲府商業



C グループ

順位	1	2	5	3	4
勝数	4	3	0	2	1
前工定	4	5	1	4	/
前高	4	5	1	/	1
太商	5	5	/	4	4
高商	4	/	0	0	0
沼高	/	1	0	1	1
	沼高	高商	太商	前高	前工定

◇準決勝

高商高校 3 — 2 沼高校
前商高校 3 — 2 館高校

D グループ

順位	1	2	3	4	5
勝数	4	2	2	2	0
高工定	5	4	5	4	/
沼利	5	3	2	/	1
富高	4	2	/	3	0
高商	3	/	3	2	1
	/	2	1	0	0
	高商	富高	利農	沼高	高工定

◇決勝

高商高校 3 — 2 前商高校

◇第六回全国大会

於熊本体育館

本県代表団体高商、個人高工一場、高商大沢両君に暨山専門委員、堀越、中島両監督出場して元氣一杯健闘し団体は二回戦個人は準々決勝に進出した。

◇第十四回国体剣道県予選

昭和三十四年八月二四日 於前商

◇準決勝

高工高校 3 — 2 沼高校
前商高校 3 — 2 高商高校

◇決勝

前商高校 3 — 2 高工高校

A グループ

順位	2	6	3	4	1	5
勝数	3	0	3	3	4	2
前高	5	2	2	3	4	/
佐農	2	0	3	2	/	1
富高	4	1	2	/	3	2
館高	2	1	/	3	2	3
桐商	4	/	4	4	5	3
前工	/	1	3	1	3	0
	前工	桐商	館高	富高	佐農	前高

B グループ

順位	2	4	3	5	1
勝数	3	1	3	0	3
高商	3	1	1	1	/
太商	5	3	3	/	4
利農	2	0	/	2	4
小農	4	/	5	2	4
高工	/	1	3	0	2
	高工	小農	利農	太商	高商

◇第十四回国体関東地区予選会

昭和三十四年九月一三日 於横浜市

本県より前商チーム参加関東代表として国体出場権を獲得す。

◇第十四回国体

昭和三十四年一〇月二七・八・九 於八王子市

関東地区代表として前商チーム出場奮闘せしも鳥取代表境校に破る。

◇第六回県高等学校対抗及個人選手権大会

昭和三十四年一月八日 於高商

C グループ

順位	1	5	2	3	4
勝数	4	0	3	2	1
藤高	5	1	4	3	/
桐高	5	2	3	/	2
高商	3	0	/	2	1
沼高	5	/	5	3	4
前商	/	0	2	0	0
	前商	沼高	高商	桐高	藤高

D グループ

順位	6	2	1	3	5	4
勝数	0	4	5	3	1	2
伊工	1	4	4	4	2	/
中高	2	4	5	3	/	3
勢農	0	3	4	/	2	1
沼高	0	1	/	1	0	1
伊高	1	/	4	2	1	1
大間々	/	4	5	5	3	4
	大高	伊高	沼高	勢農	中高	伊工

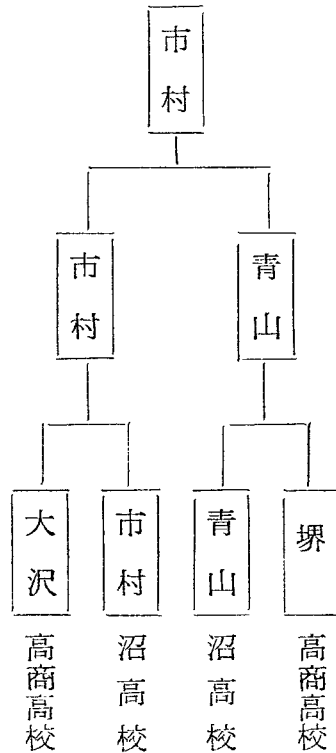
◇準決勝

前商高校 5 — 0 沼高高校
 佐農高校 3 — 2 高商高校

◇決勝

前商高校 3 — 2 佐農高校
 (先)小池コ・メ — 斎藤
 (次)中里見コ・メ — 松原
 (中)高村ド — コ・メ北爪
 (副)土井 — メ・メ竹沢
 (大)倉賀野コ — 窪田

◇個人戦



◇第四回県下定時制学校対抗及個人選手権会

昭和三四年一月一四日 於前商

◇決勝リーグ

富高校 3 — 2 大間々高校
 富高校 3 — 2 前工高校
 前工高校 3 — 2 大間々高校

◇個人戦

一位 富高校
 二位 前工高校
 三位 大間々高校
 一位 桐生(富高)
 二位 佐前(前工)
 三位 羽鳥(前工)

◇第六回県下新人大会 昭和三四年一月二〇日 於前商

三十四年度の一線現役をのぞいて、三十五年を占うべき初の大会として注目されただけに天候も空ッ風ものすこくさしも立派? な前

商体育館は黄塵で埋まり再三清掃しての続行の結果左記の通りの成績で新旧変動なしの感がした。

◇準決勝

前商高校 4 — 1 高商高校

沼高高校 3 — 2 前工高校

◇決勝

前商高校 3 — 2 沼高校

◇第四回県下定時制新人大会

昭和三四年二月六日 於 前商

定時制も年一年と盛んになってゆくことはよろこばしいことであるがやはり職場という一つのしょうがいと身体的つかれからか参加が少なかつた。成績左の如し

一位 富高校 二位 沼高校 三位 前工校

スキー部

スキー部の活動

高体連スキー部委員長 林 千 春

今年のスキー界は、ザイラーブームに乗って国内はものすごくスキーについての談議が多かつた。

高体連スキー部のように、競技スキー中心に計画を進めているうちでも、どうしても一般スキーに引きづられて考え方をこの方面に

も顔出しをしなければならぬようなことも多かつた。

今年の行事として計画し実施してきたのは左のようなことであつたが、大体好成績のうちに終えることの出来たのはうれしいことであり、又次の年への発展の足がかりとなりよろこばしいことであると思つてゐる。

一、部 会 利根農、渋川女子校、夫来荘、三回

二、大 会 全国高校予選会、高校選手権大会、二部大会

三、参加大会 国体予選、県選手権、全国高校大会、上越大会

四、行 事 各高校スキー教室、スキー研修会

大体右のような、大会・行事・等を行つてきたが、全般的に実施要領も亦内容も充実し、成績もよくて向上の跡のみられたことは、皆さんの御援助が大きかつたと感謝する次第です。

次に大会記録は左のようであつた。

一、全国高校群馬県予選会 一月七日 於戸倉スキー場

1. 男子大回転

一位 渋高市川連一、一四、四 二位 利農園部(兄)一、一九、四

三位 利農園部(弟)一、二二、二 四位 利農石井一、二四、七

五位 高高市川(昭)一、二五、四 七位 利農笠原一、二九、五

七位 前商松沢一、二八、三 八位 孺恋田中一、三三、七

九位 沼高山口一、三八、七

回転 一位 前工阿部四二、七 二位 利農園部(弟)四三、四

三位 利農笠原四三、六 四位 渋高市川連四四、〇

五位 利農石井四八、五 六位 沼高山口四九、二

2. 女子大回転、回転

大回転一位 前女相川一、二、七 二位 長野原沖津一、二五、五

三位 利商津端

回転 一位 利商津端一、一〇、〇 二位 前女相川一、二二、〇

二位 利商中島一、二一、〇

複合 一位 沼高阿部、二位 沼高片桐、三位 沼高高沢、

四位 水上鈴木

純飛 一位 利農松井、二位 中之条山口、長距離高工林

二、国体予選会

男子高校(少年組) 一位 渋高市川、三位 利農園部(弟)、四位 利農
等原 以上出場

女子一位 前女相川、三位 利商津端、相川のみ出場

ノルデック、では沼高阿部、片桐、浦野が夫々出場した。

三、高校選手権大会並県選手権大会 於草津 一月二十九日～三十一日

全日程に出場出来なかった。次の日全国高校出場の為、林良正杯
のアルペン総合優勝だけと、全国高校に出場しない生徒は一般人に
入って選手権大会に出場した為成績を記録することが出来なかった。

四、全国高校大会 於小樽市 二月五日～八日

男子大回転 利農笠原43位、〃 石井49位、高高市川58位、渋高
市川65位、参加一三〇名

〃 回 転 利農園部(兄)11位、高高市川39位、利農園部(弟)48位

女子大回転 前女相川33位、利商津端34位、長野原沖津44位

回転失格

男子距離 高工林37位、複合 沼高阿部28位

飛 躍 沼高阿部18位、沼高高沢37位

五、第九回高校二部大会 於向山 二月一四日

男子大回転及回転成績

一位 利商井 昌隆 二三、二 一位 長野原 武田伸夫二六、五

二位 水分 阿部正次 二三、五 二位 中高 信太彦政二七、一

三位 水分 須田文男 二四、九 三位 利農 藤重幸重二九、一

四位 沼定 野上大蔵 二五、〇 四位 利商 田村 清二九、四

四位 婦恋 上原 貢 二五、〇 五位 利商 井 昌隆二九、五

大回転 以上

回 転 以上

十位迄の総合得点により優勝校を決めて、男女共に第一回の優勝
旗(高体連)を授与した。

男子 優勝校 二三点 利根商業高校

女子 優勝校 三八点 高崎女子高校

女子大回転及回転成績

一位 高女 落合久美子 一七、四 一位 水分 萩原 光子 一九、五

二位 水分 森下きみ江 一八、四 二位 高女 黒岩 充子 二一、二

三位 婦恋 田中さだ子 二〇、〇 三位 前女 中村 悦子 二一、八

四位 水分 萩原 光子 二一、〇 四位 利農 藤井 勝枝 二三、二

五位 利農 藤井 勝枝 二四、四 五位 婦恋 田中さだ子 二三、三

大回転 以上

回 転 以上

六、行 事

毎年の大きな行事としてスキー教室並にスキー技術講習会がある、
スキー教室については一番頭の痛い行事で相当時間をかけて内容を
練っても思うようにゆかない。

各校ごとに夫々の都合と又雪の状況等によって変更をよぎなくさ

れることで然も場所と休憩所と第三者が間にあるので実にうるさい。この点で各校共に一層の御協力を願うものである。

本年は実施校三八校でそれでも雪に恵まれた為完了出来たことは何んとしてもよかった。

宿泊訓練を伴って実施した学校も多かったが効果が上り、関係者からも実施状況の充実しているのに驚いていた。

次に、スキー研修会について

シーズンオフの練習が如何に大切であるかはどの運動部も一様に言っているが、スキーに於ては本当に大切な練習である。

三月期末休暇を利用して、職員も兼ねて、スキー連盟の後援により実施している。

尾瀬を利用するのであるが、大体職員十五名生徒二十名位である。職員は競技スキーと一般スキーの研究を行い、生徒は競技スキー専門に連盟の競技、技術員からコーチを受けて、シーズンオフの練習方法を身につける訳である。

団体、全日本の成績が余り思わしくないので県連としてはこの強化合宿に大きな期待と応援をしてきているので今後益々充実した研修会になると思われる。

七、林 良正 杯について

第九回の高校選手権のアルペンの勝者に「林 良正杯」を出すことに決定し、第一回が草津で行われた第九回高校選手権のアルペン競技の優勝者、利根農林高校園部日出雄君に授与された。

「林 良正杯」とは昭和三十三年県スキー連盟の強化合宿を赤城で行った際不慮の死をとげた選手の杯である。

前橋工業高校出身で高校時代又卒業しても「アルペン」選手として第一人者であった、丁度良正君の死の際高校としては全国高校大会に出場の為誰も御見舞又は会葬に出席出来ず、何んとかしたいと考へ碑にも考へたが現地の関係者等からの話もあって、各校の芳志と出身校前橋工業高校からの話し合いで立派な杯を持廻り出すことの出来たことは「良正君」の霊をとむろう上にも誠によいことだと関係者は思っている次第である。

ダンス部

ダンス部の歩み

委員長 佐藤 たく

群馬県高体連ダンス部加入者五〇〇名、としどしに増員する状況は本連盟の伸展を語るものとして喜びに堪えない、ダンス部長の県立高崎女子高校々長田中友次郎氏のこの部への御理解と御支援は、言をまたないが、各加入校の熱意ある研究とお互の練磨もまた、この部の発展の基盤である。

県内競技会に又ダンス発表会に講習会にと、としどしに参加人員を増し、新しい工夫と高度な技術を表わして来ていることも周知のところ、この部のために又県体育向上のために微笑ましい姿である。

関東大会に出場した前橋市立女子高校、県立高崎女子高校の成績

も関東フロック内で決して恥かしくないものであった、規定種目についてはもっと大胆な強さのある動きが必要かも知れないが、女性らしい「せんさいさ」と柔軟性と自然性を十分持っている群馬チームの「よさ」は又他県に見られないものであると確信する。自由種目に至っては群馬県民性を、いやが上にも高く表現されていることは頼母しくも嬉しいことである。

山形市に開かれた盛夏の全国大会に出場した県立高崎女子高校の活躍は、例年通り目ざましいものではあるが、規定種目は大胆さと思欲が乏しいように思われた、やや神経質な感じを与える点は今後十分研究を要する、自由種目に至ってはせんさいさ、柔軟性、自然運動の把握は躍動的で県民性を遺憾なく發揮された点は大会の注目するところであったが、選手の体格のふぞろいの点はチームとしての美しさの盛りあげに相当苦心したものであろう、謙虚で明朗で品位ある群馬チームとして他県に恥じない点は本県高体連ダンス部のために喜ばしい。

今年度の国体は会場が東京であったことは、選手の張り切りも一段と強く、関東フロック代表チームだけに責任を感じた選手はかなり固くなったように見受けられた、なぜか会場の練習中から注目される群馬チーム、いざ試合でコートに立つと幾分あがり気味な小心そうな感じを与えるのはなぜか、「練習」練習の不足以外のなにものもないのではなからうか、規定種目に重点的に猛練習をしているチームであるのに……、指導者の反省と研究が絶対に必要であることを素直に認めたい、要は技術ばかりでないもの、人間的なものをもっと追及してゆかねばならない、指導者も選手も、

試合は意欲が大切である、遅ましい意欲が、国体成績第四位、これも「ミス」のために減点、残念なことである、実力を十二分に發揮して余裕を持ちながらコートオーバーによって減点、第四位とは、然しこの時の選手の立ちなおりの早さ、真剣さ、退場の態度の立派さは成績を超越して賞すべきものがあつた。

東京会場だけに県や体育指導者、この道への協力者、フロック内の体育指導者等数多い応援のもとになされた試合だけに選手も一層熱演したものの如く推察される、たゆまない練習、真剣な練習、チームワークを乱さない日常の生活態度、生徒としての本分に精進する選手、生徒の集団生活の中から生れ出る選手、生み出す選手こそ望ましい選手である、飽くまで真剣に自然運動の原理の把握と、この上になつての表現の自由と豊かさが高雅さを求めて、来るべき年にそなえて研究と練習を毎日積みあげてほしい、金魂を打ち込んだ集団のトレーニングこそ「人間形成」の鍵ではなからうか、指導者と共に流す汗、ある時は共に涙にぬれながら自らを励まし、自らを戒め自らを敬愛してゆくことの尊さを知って、今日からの練習に励まれるよう、高体連ダンス部加入各校に念願する。

尙、今年度から民踊の研究講習を行い、且つ広く世界各国のフォークダンスの研究と、巾を持ったものに育ててゆきたい、学窓を巣だつた後に地域の方々と楽しい一時を持つように努力して、明るく、楽しく、健やかな心身の持ち主として逞ましく生き抜いてほしい、と願って一歩踏み出したことを皆様とともに喜びたい。

水 泳 部

委員長 津 田 貞

昭和三十四年度記録

◇第四回県下高校地区対抗水上競技 34・6・21 伊勢崎プール

- 百米自由形 ①谷紀広(前工) 1分9秒 ②山本(前工) 1分10秒7
 ③高橋(沼高) 1分10秒8 ④坂上(伊工) 1分11秒6
 ⑤高井(伊工) 1分17秒1 ⑥高橋(伊高) 1分18秒0
- 二百米自由形 ①谷紀広(前工) 2分42秒8 ②高橋(伊高) 2分46秒5
 ③高橋(沼高) 2分48秒3 ④山本(前工) 2分53秒5
 ⑤星野(伊高) 2分54秒7 ⑥高井(伊工) 2分58秒4
- 四百米自由形 ①安田征之(高工) 6分8秒1 ②高橋(伊高) 6分11秒6
 ③小鮎(前工) 6分17秒8 ④長尾(高工) 6分20秒2
 ⑤星野(伊高) 6分22秒 ⑥谷内(桐工) 7分44秒1
- 千五百米自由形 ①安田征之(高工) 25分13秒5 ②長尾(高工) 26分25秒
 ③小鮎(前工) 26分30秒2 ④山本(前工) 26分37秒9
 ⑤森田(高工) 26分41秒3 ⑥谷内(桐工) 27分32秒
- 百米背泳 ①湯沢秀男(前工) 1分17秒 ②高田(伊高) 1分21秒1
 ③新井(伊高) 1分23秒6 ④宮崎(高商) 1分24秒
 ⑤田口(沼高) 1分32秒1 ⑥森田(高工) 1分34秒
- 二百米背泳 ①湯沢秀男(前工) 2分57秒 ②高田(伊高) 3分3秒1
 ③新井(伊高) 3分6秒3 ④宮崎(高高) 3分14秒7
 ⑤大山(前工) 3分42秒

百米平泳 ①古沢俊彦(伊高) 1分22秒3 ②星野(高工) 1分25秒5

③萩原(沼高) 1分25秒8 ④高塚(太商) 1分27秒8
 ⑤長井(前工) 1分29秒 ⑥石井(伊高) 1分33秒

二百米平泳 ①古沢俊彦(伊高) 3分2秒2 ②高塚(太商) 3分11秒
 ③長井(前工) 3分11秒8 ④星野(高工) 3分11秒8
 ⑤石井(伊高) 3分25秒9 ⑥渡辺(前工) 3分27秒

百米蝶泳 ①山川晃央(伊高) 1分22秒2 ②大沢(高工) 1分32秒3
 ③木村(前工) 1分34秒5 ④星野(高工) 1分36秒
 ⑤大駒(伊高) 1分36秒8 ⑥小池(桐工)

二百米蝶泳 ①山川晃央(伊高) 3分13秒9 ②大沢(高工) 3分40秒4
 ③大駒(伊高) 3分44秒 ④萩原(前工) 4分1秒1
 ⑤青柳(高工) 4分50秒

八百米継泳 ①小鮎、木村、山本、谷(前橋) 11分30秒6 ②伊勢崎
 11分30秒6 ③高崎11分50秒 ④沼田12分9秒3
 ⑤分32秒7 ③高崎5分39秒5 ④沼田5分50秒2
 ⑤太田6分26秒7

四百米混継泳 ①高田、古沢、山川、高橋(伊高) 5分20秒6 ②前橋
 △地区総合順位 一位伊勢崎地区(88点) 二位前橋(75点) 三位高崎(62点)
 四位沼田(20点) 五位太田(10点) 六位桐生(3点)

◇女子の部 五〇米自由形 ①細谷ミヨ子(沼田) 40秒3 ②星野(利農) 56秒7

百米自由形 ①小林佐江子(高技) 1分31秒2 ②藤沢(沼女) 1分
 36秒2 ③細谷(沼田) 1分36秒6 ④渡辺(高女) 1分

50秒5

四百米自由形①星野楊(沼女) 7分0秒9 ②小林(高技) 7分6秒

8 ③藤沢(沼女) 8分15秒④渡辺(高女) 9分37秒6

五〇米背泳 ①村上洋子(高女) 47秒3

百米背泳 ①星野楊(沼女) 1分46秒 ②村上(高女) 1分47秒6

百米平泳 ①桜井洋子(高技) 1分44秒 ②清水(高女) 2分7秒

8 ③星野(利農) ④後藤(利農)

二百米平泳 ①桜井洋子(高技) 3分59秒5 ②斎藤(沼女) 4分15

秒4 ③清水(高女) 4分40秒4

五〇米蝶泳 ①星野楊(沼女) 50秒2 ②斎藤(沼女) 53秒8 ③桜井

(高技) 55秒5

百米蝶泳 ①斎藤フサ江(沼女) 2分3秒7 ②藤沢(沼女) 2分

9秒5

四百米リレー①星野、斎藤、細谷、藤沢(沼田) 6分26秒2 ②高崎

7分1秒1

四百米混継泳①星野、斎藤、藤沢、細谷(沼田) 7分29秒2 ②高崎

7分43秒8

△女子順位

一位 沼田(89点) 二位 高崎(67点)

◇第四回一般対高校対抗水上競技大会 7・19 伊勢崎プール

記録省略 学生軍低調の為一般社会人の先輩連に二二点の差をつけられて敗退した。僅に伊高一年古沢が百、二百の平泳に好記録で優勝したのが光っていた。

尚女子軍は一般が少いので高校生を東西に分けて対抗競技を行

ったが次の選手は県新記録を生んだ。

百米平泳 ①桜井 洋子(高技) 1分39秒3 (県新)

二百米平泳 ①桜井 洋子(高技) 3分34秒7 (〃)

百米蝶泳 ①斎藤フサ江(沼女) 1分41秒1 (〃)

②星野 楊(沼女) 1分50秒4 (〃)

◇関東高校選手権水上競技県予選会 7・26 高崎プール

◇男子成績

百米自由形 ①谷 紀広(前工) 1分11秒7 ②高橋(沼高) ③大前

(高高) ④坂上(伊工) ⑤高塚(太高) ⑥森井(桐工)

二百米自由形①谷 紀広(前工) 2分44秒3 ②高橋(沼高) ③内野

(桐工) ④小鮎(前工) ⑤高橋(伊高) ⑥川原(高高)

四百米自由形①小鮎 隆(前工) 6分6秒3 ②高橋(伊高) ③森田

(高工) ④川原(高高) ⑤安田(高工) ⑥長谷川(沼高)

千五百米自由形①内野正美(桐工) 24分45秒3 ②安田(高工) ③吉

田(太高) ④上野(桐工) ⑤桜井(高高) ⑥高塚(太

高) (25分以内の一位内野のみ参加資格)

百米背泳 ①高田広一(伊高) 1分20秒 ②湯沢(前工) ③新井

(伊高) ④田中(高商) ⑤田口(沼高) ⑥宮崎(高商)

二百米背泳 ①高田広一(伊高) 2分59秒4 ②湯沢(前工) ③新井

(伊高) ④宮崎(高商) ⑤田中(高商) ⑥加藤(前商)

百米平泳 ①古沢俊彦(伊高) 1分25秒7 ②牧田(伊高) ③星野

(高工) ④高塚(太高) ⑤設楽(前商) ⑥長井(前工)

二百米平泳 ①古沢俊彦(伊高) 3分4秒8 ②高塚(太高) ③牧田

(伊高) ④星野(高工) ⑤設楽(前商) ⑥長井(前工)

百米蝶泳 ①山川晃央(伊高) 1分22秒8 ②木村(前工) ③萩原(前工) ④上野(桐工) ⑤大駒(伊高) ⑥大沢(高工)

二百米蝶泳 ①山川晃央(伊高) 3分8秒8 ②木村(前工) ③上野(桐工) ④萩原(前工) ⑤大駒(伊高) ⑥大沢(高工)

八百米蝶泳 ①小鮎、木村、湯沢、谷(前工) 11分27秒 ②伊高 ③沼高 ④桐工 ⑤高商 ⑥太高

四百米混継泳 ①高田、古沢、山川、高橋(伊高) 5分23秒2 ②前工 ③高工 ④沼高 ⑤桐工 ⑥高商

◇女子成績

百米自由形 ①藤沢澄子(沼女) 1分41秒

二百米自由形 ① 〃 3分45秒5

四百米自由形 ①星野楊(沼女) 6分45秒 ②小林(高技)

八百米自由形 ① 〃 14分11秒8 ②小林(高技)

百米背泳 ①村上洋子(高女) 1分46秒5 ②田中(高女) ③高橋(沼女)

(沼女)

二百米背泳 ①村上洋子(高女) 3分49秒 ②田中(高女)

百米平泳 ①桜井洋子(高技) 1分42秒5 ②赤井(桐丘) ③清水(高女)

(高女)

二百米平泳 ①桜井洋子(高技) 3分39秒3 ②清水(高女)

百米蝶泳 ①斎藤フサ江(沼女) 1分44秒2

二百米蝶泳 ① 〃 3分58秒

◇第十回関東高校選手権水上競技大会 8・89 宇都宮プール

記録省略、男子は低調で決勝に進出する者一人もなく、僅に女子の左記選手が気を吐いたに過ぎなかった。

百米バタフライ六位入賞 斎藤フサ江(沼女) 1分48秒7

二百米バタフライ六位入賞 〃 4分8秒4

八百米自由形決勝 ⑦星野楊(沼女) 14分9秒2

〃 ⑨小林佐江子(高技) 15分1秒

◇第九回群馬県都市親睦水上競技 8・16 桐生東プール

記録省略、但し左記選手は県新記録を樹立した。

◇女子の部

二百米自由形 ①星野楊(沼女) 3分9秒 ②小林佐江子(高技) 3分9秒2 共に県女子新記録

百米平泳 ①桜井洋子(高技) 1分40秒

二百米平泳 〃 3分35秒

五十米蝶泳 ①斎藤フサ江(沼女) 47秒2

百米蝶泳 ①斎藤フサ江(沼女) 1分48秒

◇第十二回県下高校選手権兼学校対抗 8・19 伊勢崎プール

◇男子成績

百米自由形 ①高橋千尋(伊高) 1分8秒1 ②高橋(沼高) ③谷(前工) ④星野(伊高) ⑤坂上(伊工) ⑥森田(高工)

二百米自由形 ①高橋千尋(伊高) 2分35秒7 ②高橋(沼高) ③谷内(桐工) ④谷(前工) ⑤森田(高工) ⑥星野(伊高)

四百米自由形 ①内野正美(桐工) 5分34秒 ②高橋(伊高) ③小鮎(前工) ④安田(高工) ⑤高橋(太高) ⑥川原(高高)

八百米自由形 ①内野正美(桐工) 11分39秒4 ②安田(高工) ③小鮎(前工) ④長谷川(沼高) ⑤田島(高商) ⑥早津(高工)

百米背泳 ①湯沢秀男(前工) 1分18秒 ②高田(伊高) ③新井

(伊高) ④宮崎(高商) ⑤田口(沼高) ⑥加藤(前商)

二百米背泳 ①湯沢秀男(前工) 2分55秒2 ②宮崎(高商) ③高田

(伊高) ④新井(伊高) ⑤田口(沼高) ⑥加藤(前商)

百米平泳 ①古沢俊彦(伊高) 1分21秒5 ②牧田(伊高) ③星野

(高工) ④高塚(太高) ⑤設楽(前商) ⑥長井(前工)

二百米平泳 ①古沢俊彦(伊高) 2分57秒4 ②高塚(太高) ③星野

(高工) ④設楽(前商) ⑤長井(前工) ⑥石井(伊高)

百米蝶泳 ①山川晃央(伊高) 1分19秒3 ②星野(高工) ③木村

(前工) ④上野(桐工) ⑤萩原(沼高) ⑥宮崎(高商)

二百米蝶泳 ①山川晃央(伊高) 3分2秒3 ②上野(桐工) ③萩原

(沼高) ④大駒(伊高) ⑤萩原(前工)

四百米継泳 ①星野、新井、山川、高橋(伊高) 4分44秒2 ②前工

③桐工 ④沼高 ⑤高工 ⑥高商

四百米混継泳 ①高田、古沢、山川、高橋(伊高) 5分9秒5 ②前工

③桐工 ④高工 ⑤前高 ⑥伊工

△男子総合順位 (高体連十周年記念優勝旗を一位に授与)

①伊高(89点) ②前工(48点) ③桐工(34点) ④高工(30点) ⑤沼

高(20点) ⑥高商(12点) ⑦太高(10点) ⑧前商(7点) ⑨伊工

(4点) ⑩前高(2点) ⑪高高(1点)

◇女子成績

五十米自由形 ①藤沢澄子(沼女) 38秒4 ②星野(沼女) ③小林(高

技)

百米自由形 ①斎藤フサ江(沼女) 1分29秒5 ②小林(高技) ③藤

沢(沼女)

二百米自由形 ①星野楊(沼女) 3分12秒8 (大会新)

四百米自由形 ①星野楊(沼女) 6分36秒8 (県新) ②小林(高技)

③藤沢(沼女)

五十米背泳 ①藤沢澄子(沼女) 46秒2 ②星野(沼女) ③村上(高

女) ④小林(高技)

百米背泳 ①星野楊(沼女) 1分42秒9 ②村上(高女) ③高橋

(沼女)

百米平泳 ①桜井洋子(高技) 1分41秒 (県新) ②斎藤(沼女)

③星野(沼女) ④清水(高女)

二百米平泳 ①桜井洋子(高技) 3分38秒9 (県新) ②清水(高女)

五十米蝶泳 ①斎藤フサ江(沼女) 46秒4 (県新) ②桜井(高技)

49秒7 (県新) ③藤沢(沼女) 50秒 (大会新)

百米蝶泳 ①斎藤フサ江(沼女) 1分45秒2 (県新) ②藤沢(沼

女) 1分47秒8 (県新) ③桜井(高技) 1分53秒4 (県

新)

二百米継泳 ①高橋、斎藤、藤沢、星野(沼女) 3分6秒6

四百米混継泳 ①高橋、星野、斎藤、藤沢(沼女) 7分35秒2 (大会新)

△女子総合順位 (高体連十周年記念優勝旗を一位に授与)

①沼女(110点) ②高技(40点) ③高女(17点)

◇第九回三県対抗水上競技大会 9・6 会場長野

開催地長野は大水害の為群馬は不参加に決定

◇第十四回国体夏季大会 9・20(23) 神宮プール

百米自由形予選C組⑨高橋千尋(伊高) 1分8秒2
 四百米自由形予選D組⑦〃 5分54秒4

〃
 百米背泳予選 F組⑦内野正美(桐工) 5分40秒7
 G組④湯沢秀男(前工) 1分22秒4

二百米平泳予選 D組⑦古沢俊彦(伊高) 3分9秒4
 F組⑧山川晃史(伊高) 3分10秒8

二百米蝶泳予選 E組⑧高橋、湯沢、山川、内野 11分4秒7
 四百米混継泳予選C組⑧湯沢、古沢、山川、高橋 5分15秒3

女子百米自予選 D組⑥嘉山加代子(沼田) 1分32秒
 G組⑧小林佐江子(高技) 1分28秒9

〃
 四百米自由形予選C組⑤〃 7分12秒8
 G組④星野 楊(沼女) 6分52秒1

百米背泳予選 A組⑧藤沢 澄子(沼女) 1分42秒4
 C組⑧村上 洋子(高女) 1分42秒4

〃
 二百米平泳予選 C組⑦桜井 洋子(高技) 3分44秒7
 百米蝶泳予選 A組⑦斎藤フサ江(沼女) 1分42秒(県長新)

〃
 四百米継泳予選 B組④星野、小林、藤沢、斎藤 5分56秒1 県新
 四百米混継泳予選B組⑨藤沢、桜井、斎藤、星野 6分41秒4

(本年度評)

記念すべき高体連十周年を迎えたが、男子競泳陣は誠に低調そのもので新記録を樹立した者は一名もなく批評の限りではない。ハードトレーニングを嫌っていることが原因である。

それに引換え女子軍は沼女、高崎技芸の選手により続々県新記録が更新されたことは誠に頼もしいことで特に沼女の選手はオール一年生であることは来年度の活躍が大いに楽しみである。

柔道部

委員長 今井孝造

◇群馬県民体育祭高体連十周年記念体育大会 兼第七回関東高等学校柔道大会県下予選

期日 昭和三四年五月一六日(土) 午前九時

会場 群馬県警察学校柔道場

主催 群馬県教育委員会 群馬体育協会

群馬県高等学校体育連盟 前橋市教育委員会

第一回戦 上段勝

前橋高校 3—1 佐波農(定) 桐生工高 2—1 蚕糸高校

桐生市商 4—0 利根商校 渋川高校 5—0 安中高(定)

高崎商高 3—1 前橋高(定)

第二回戦

富岡高校 3—1 前橋高校 前橋商(定) 棄権 甘楽農(定)

太田高校 4—1 小泉農高 前橋商高 4—1 桐生工(定)

勢多農高 4—1 沼田高(定) 佐波農高 3—0 渋川高(定)

高崎工高 4—0 高崎高(定) 前橋工高 5—0 桐生工高

沼田高校 3—2 代表戦 桐生市商 榛名高校 2—1 藤岡高校

高崎商(定) 4—1 伊勢崎高(定) 伊勢崎高 3—1 渋川高校
 伊勢崎工 4—1 小泉農(定) 館林高校 3—1 中之条高
 桐生高校 5—0 太田高(定) 高崎商高 3—2 高崎高校

第三回戦

富岡高校 5—0 前橋商(定) 太田高校 4—1 前橋商高
 佐波農高 4—1 勢多農高 高崎工高 2—1 前橋工高
 沼田高校 4—1 榛名高校 伊勢崎高 4—1 高崎商(定)
 館林高校 4—1 伊勢崎工 桐生高校 3—2 高崎商高

第四回戦

富岡高校 5—0 代表戦 太田高校 佐波農高 3—2 高崎工高
 沼田高校 3—2 伊勢崎高 館林高校 3—2 桐生高校
 準決勝戦
 富岡高校 3—0 佐波農高 館林高校 3—2 沼田高校

三位決定戦

佐波農高校 3—2 沼田高校
 先二段 松本〇(釣込腰) 一級 本多
 初段 田島 (釣込腰) 〇二段 石沢
 中初段 井田 (釣込腰) 〇二段 角屋
 二段 磯〇(優勢) 一級 佐藤
 大二段 石原〇(小外刈) 初段 梶山
 決勝戦
 富岡高校 4—0 館林高校
 先二段 細山昂三 〇(大外落) 初段 荒井恭雄

初段 吉田 勉 〇(優勢) 初段 久保庭隆
 中初段 田村忠男 〇(合技) 初段 渋沢真一
 初段 吉田進一 〇(合技) 初段 中村勝行
 大二段 大井田利興 (引分) 初段 木村仁志

富高は他チームに比較して一段と実力を持っているが他の上位進出校の間ではその差は少なくその時の出来不出来により関東大会出場権を獲得した感があった。今一步の精進を望みたい。
 優勝 富岡高校 二位 館林高校 三位 佐波農高 以上三校は六月七日水戸市で行われる関東大会出場権を得る。

◇第七回関東高等学校柔道大会

期 日 昭和三四年六月七日
 会 場 水戸市立第二中学校体育館
 主 催 関東高等学校体育連盟 茨城県教育委員会
 関 東 柔 道 連 合 会 東 京 都 柔 道 連 盟

本県代表富岡高等学校、館林高等学校、佐波農業高等学校、各校とも良く奮戦したが、八校トーナメント戦に進出出来たのは富高チームのみであった。それも一回戦にて第一回第四回第五回大会に優勝している安房一高(千葉県)と対戦完敗した。

予選リーグ戦成績
 B組 佐波農業高校(群馬) 1—4 安房水産高校(千葉)
 佐波農業高校(群馬) 0—5 日大高校(神奈川)
 C組 館林高校(群馬) 2—3 身延高校(山梨)
 館林高校(群馬) 0—4 龍ヶ崎一高校(茨城)

F組 富岡高校(群馬) 2—0 那珂湊一高校(茨城)
 富岡高校(群馬) 4—1 春日部高校(埼玉)
 決勝トーナメント一回戦

富岡高校(群馬) 1—4 安房一高(千葉)

第九回県下高校柔道選手権大会
 兼第八回全国高校柔道大会県下予選

期日 昭和三四年七月一二日(日) 午前九時

会場 群馬県立高崎商業高等学校体育館

主催 群馬県高等学校体育連盟 群馬県教育委員会

群馬県柔道連盟

成績 第一回戦 上段勝

桐生高校 5—0 安中高(定) 利根商高 不戦勝 前橋高校(定)
 高崎工高 4—1 前橋商(定) 渋川高(定) 4—1 富岡高校(定)

第二回戦

富岡高校 4—0 桐生高校 高崎商高 2—1 渋川高校
 館林高(定) 3—2 伊勢崎工 松井田高 4—1 佐波農(定)
 藤岡高校 4—1 甘楽農高 太田高校 3—2 前橋工高
 前橋商高 3—2 小泉農(定) 沼田高校 3—0 利根商高
 代表戦二回後抽せん
 高崎工高 1—1 佐波農高 高崎高校 5—0 榛名高校
 高崎商(定) 3—1 桐生市商 中之条高 2—1 蚕糸高校
 伊勢崎高 4—1 太田高(定) 前橋高校 4—0 勢多農高
 小泉農高 4—1 利根農高 渋川高(定) 2—1 館林高校

第三回戦

富岡高校 4—0 高崎商高 館林高(定) 2—0 松井田高
 太田高校 4—1 藤岡高校 沼田高校 5—0 前橋商高
 高崎高校 4—1 高崎工高 高崎商(定) 3—1 中之条高
 前橋高校 3—1 伊勢崎高 渋川高(定) 2—1 小泉農高

第四回戦

富岡高校 5—0 館林高(定) 太田高校 3—2 沼田高校
 高崎高校 4—1 高崎商(定) 前橋高校 3—0 渋川高(定)

準決勝戦

富岡高校 5—0 太田高校 前橋高校 4—0 高崎高校

決勝戦

富岡高校 5—0 前橋高校

先二段 細山 ○(支釣込足) 二段 佐々木

二段 吉田勉 ○(背負投) 二段 曾我

中二段 田村 ○(縦四方固) 二段 松島

初段 吉田進 ○(払巻込) 初段 矢野

大二段 大井田 ○(合 技) 二段 高木

優勝 富岡高校 二位 前橋高校 三位 太田高校 三位 高崎高校

最初から最後まで富岡高校は失点なく予想通り連続三回優勝の偉業をなしとげ堂々八月八日、九日福岡市で行われる第八回全国高校柔道大会への出場権を得る。

本大会現在迄の優勝校名

第一回 桐生高等学校 会場伊勢崎北小学校 昭二六年一月一六日

第二回 高崎高等学校 “ 前橋高校 昭二七年一月一五日

第三回 桐生高等学校 “ 高崎高校 昭二八年七月五日

第四回	前橋高等学校	会場佐波農業高校	昭二九年七月四日
第五回	高崎高等学校	前橋高校	昭三〇年七月一日
第六回	渋川高等学校	前橋高校	昭三一年七月八日
第七回	富岡高等学校	高崎高校	昭三二年七月七日
第八回	富岡高等学校	高崎高校	昭三三年七月一三日
第九回	富岡高等学校	高崎商業高校	昭三四年七月一二日

◇第八回全国高等学校柔道大会

期日 昭和三四年八月八日(土) 九日(日)

会場 福岡市スポーツセンター

主催 全国高等学校体育連盟 全日本柔道連盟

福岡県教育委員会 福岡市教育委員会

本県代表富岡高校チームは良く敢闘したが、全国高校柔道界の名門福岡県嘉穂高校(本年度第三位)と同一グループに入り一点差で惜敗トーナメント戦に出場出来なかった。

予選リーグ戦成績

富岡高校(群馬)	1—2	嘉穂高校(福岡)
二段 細山 昂三	○(優勢)	初段 福丸 邦英
二段 吉田 勉	(大内刈)	○初段 吉原 敏明
初段 田村 忠勇	(引分)	初段 山木道太郎
初段 吉田 進一	(崩上四方固)	○二段 吉村 巖
二段 大井田利興	(引分)	初段 津野 正人
富岡高校(群馬)	3—0	島根農大附農林(島根)
二段 細山 昂三	(引分)	二段 門脇 哲夫
二段 吉田 勉	(引分)	二段 福井 邦昭

初段 田村 忠勇	○(払腰)	二段 井上 功
初段 吉田 進一	○(払腰)	二段 川島 俊
二段 大井田利興	○(跳腰)	二段 綿織 功

富岡高校は全国大会連続三回出場の為表彰された。

◇第十四回国民体育大会柔道競技(高校)の部

期日 昭和三四年一〇月二八日

会場 東京都両国日本大学講堂

主催 日本体育協会 文部省 東京都

本県選手 監督 山口 智

先鋒 角屋 光宏	沼田高校三年	二段
佐藤 勇夫	渋川高(定)四年	二段
中堅 都丸 一明	高崎工高三年	二段
大井田利興	富岡高校三年	二段
大将 石井 公明	高崎高校三年	二段

本県選手は富山大会(三位)に引き続いて上位入賞を目指して敢闘したが昨年三位決定戦にて三対二で降した京都府と第一回戦で対戦四対一と完敗した。

先 二段 角屋 光宏	(大外落)	○無	西堀孝三郎
二段 佐藤 勇夫	(払釣込足)	○初段	山本 忠史
中 二段 都丸 一明	○(優勢)	二段	橋本 公宏
二段 大井田利興	(優勢)	○二段	北中 隆史
大 二段 石井 公明	(跳腰)	○三段	藤原 良平

◇第七回県下高校新人柔道大会

期日 昭和三十四年十一月八日

会場 群馬県立沼田高等学校体育館

主催 群馬県高等学校体育連盟

成績 第一回戦 上段勝

渋川高(定) 5—0 伊勢崎高(定) 中之条高 棄権 沼田高校
 前橋商高 5—0 玉村高校 前橋高(定) 3—2 沼田高校

第二回戦

藤岡高校 5—0 渋川高(定) 勢多農高 代表戦二回後 利根商高
 抽せん

前橋工高 5—0 桐生工高 太田高校 4—0 桐生市商

高崎工高 3—1 渋川高校 佐波農高 4—0 榛名高校

伊勢崎工 3—1 伊勢崎高 中之条高 4—0 高崎高(定)

前橋商高 4—1 松井田高 富岡高校 5—0 利根農高

太田高(定) 4—1 渋川工高 桐生高校 3—2 前橋高校

佐波農(定) 2—1 富岡高(定) 高崎商高 5—0 館林高(定)

高崎高校 1—1 小泉農高 館林高校 4—0 前橋高(定)

第三回戦

藤岡高校 3—1 勢多農高 前橋工高 3—0 太田高校

佐波農高 2—0 高崎工高 中之条高 4—0 伊勢崎工

富岡高校 3—0 前橋商高 桐生高校 4—1 太田高(定)

高崎商高 4—0 佐波農(定) 高崎高校 3—0 館林高校

第四回戦

前橋工高 4—0 藤岡高校 中之条高 3—1 佐波農高

富岡高校 1—0 桐生高校 高崎高校 2—1 高崎商高

準決勝戦

前橋工高 3—1 中之条高 富岡高校 2—1 高崎高校

決勝戦

富岡高校 3—2 前橋工高校

先 初段 柴山 (跳腰) ○初段 斎藤

初段 中沢 (引分) 初段 木附

中 二段 田村○(上四方固)初段 宮下

初段 桜井 (優勢) ○初段 浜野

大 二段 田中○(優勢) 初段 飯塚

代表戦

二段 田村○(大外刈) 初段 斎藤

優勝 富岡高校 二位 前橋工業高校

三位 高崎高校 三位 中之条高校

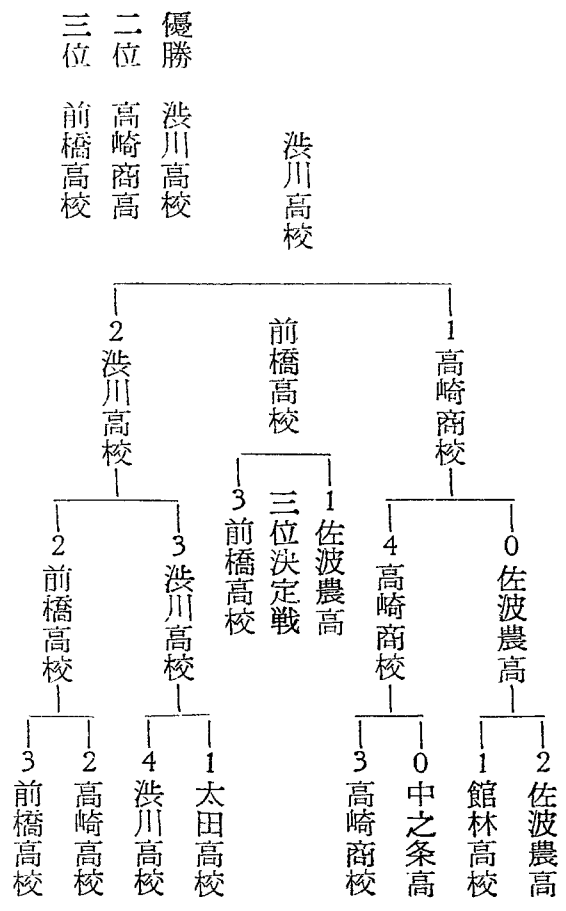
今年の新人戦は低調で目立ったチームもなく、来年度の関東大会、全国大会及び国体等を考え一寸心細く感じた。今より半年後に来年度の大会をひかえて、選手諸君の奮起を切望したい。

◇昭和三四年度定時制選技柔道大会

期日 昭和三十四年十一月十五日

会場 群馬県立太田高校

主催 群馬県高等学校体育連盟



ハンドボール部

委員長 町田 歳雄

◇県民大会兼関東予選(リーグ)

富岡高校 25	—	5	甘農高校	富岡高校 12	—	6	前商高校
前商高校 13	—	4	甘農高校	(前商)			
16日				富岡高校 11	—	3	桐生高校
前商高校 3	—	2	桐工高校	桐生高校 12	—	4	甘農高校
桐工高校 14	—	2	甘農高校	(前商)			
17日				前商高校 12	—	6	桐生高校
富岡高校 10	—	5	桐工高校				

優勝 富岡高校 4勝

女子 富東高校 7 — 1 桐女高校 高市女高 3 — 0 高女高校

高市女高 3 — 1 富東高校 高女高校 7 — 3 桐女高校

◇全日本県予選 6月28日 (於前商)

富岡高校 14 — 9 前商高校

7月5日

高女高校 6	—	1	桐女高校	高市女校 8	—	2	富東高校
高市女校 10	—	2	桐女高校	富東高校 7	—	3	高女高校
7月12日				(富高)			
富岡高校 11	—	7	桐工高校	富岡高校 27	—	7	桐生高校
前商高校 13	—	4	桐生高校	桐工高校 13	—	7	前商高校

女子 高市女校 8 — 3 高女高校

優勝 富岡高校 3勝

◇全日本大会 八、二 (於仙台)

第一回戦 静岡農高校 17 — 11 富岡高校

高市女高校 (勝) — 尼崎 (兵庫)

第二回戦 高市女高校 (負) — 熊本市高校 (本大会優勝校)

◇国体県予選 八、三〇 (於高女)

高市女高校 12	—	1	高女高校	九、六 (於前商)
一回戦 富岡高校 13	—	4	桐工高校	
二回戦 桐生高校 8	—	7	甘農高校	
富岡高校 15	—	8	前商高校	

9月13日

(於前商)

決勝戦 富岡高校 16 — 4 桐生高校
優勝 富岡高校

◇国体関東ブロック大会 9月26日 (於土浦)

一回戦 富岡高校 11 — 9 浦和市立高校
準決勝 日川高校 11 — 8 富岡高校

◇国体ブロック予選

女子は高崎市女が出場して入賞し、本大会に出場する。

◇国民体育大会 一〇、二七、二八 (於東京)

第一回戦 高市女高校 5 — 2 高岡高校 (高知)
準々決勝 徳山高校 (山口) 5 — 3 高市女高校

◇県新人大会 一一、二三、二九 (於前商)

富岡高校 11 — 6 前商高校 高崎高校 8 — 7 桐工高校
前商高校 8 — 6 桐生高校 桐工高校 13 — 5 前商高校
富岡高校 18 — 5 桐生高校
優勝 富岡高校 三勝

第十回全国高校ハンドボール大会に参加して

富岡高校ハンドボール部 須藤忠正

第十回全日本高校ハンドボール選手権大会が八月一日より六日まで

で仙台市において十周年記念を兼ね盛大に開催された。日頃の練習が実を結び、我々は激しかった県予選に優勝しこの大会に出場した。全国の精鋭七一チームが参加し最後の勝利を目指して熱戦が宮城野原競技場に展開された。本県は第三回大会に桐生工が優勝した実跡を持っているが近年は振わず、昨年は富岡高校が三回戦で敗れ、今年も富岡高校が二回戦で敗れた。大会二日目富岡高は静岡農高と対戦した。試合は終始静岡のリードで進められた。開始まもなく静岡の早いペースに乗り敵のフリースローを阻止する事あたわず、連続四ゴールを許した。結局これが敗因となった。その後本校も漸く立直り、フォワードも奮起して得点を重ねその差二点につめ、4—6で前半を終えた。後半よく頑張れ、一時同点にするチャンスがあつたが、味方のあせりで同点にこぎつけなかつたのは残念だつた。バックもゴール前の守備で反則が多くなり、静岡農高のポイントゲッター斎藤の長身からのフリースローに得点を重ねられ、結局11—17で遂に敗れた。この大会の各試合の状況を見ても得点は十点以上両者共獲得しているのは、十年の歳月を経て各県共技術が向上したことを示している。特に試合で富岡高のフォワードが悩まされた静岡農のフリースロー及びバック前からのロングシュートは本校と比較して一段と研究されていた。

最後に体力の充実と試合の掛引も重要なポイントだと思ふ。

弓 道 部

◇県下高校弓道大会親善試合 四月二六日

- 1 会場 前橋高校道場
- 2 出場校 伊工 前高 富高 富東高

◇関東ブロック県予選 五月一七日

- 1 会場 前橋県営弓道場
- 2 出場校及成績

BA 伊工
 B 富高
 DC 前高
 富東

全チーム予選通過

◇関東ブロック大会 六月二〇、二一日

- 1 会場 宇都宮弓道場
- 2 出場校及成績

A 伊工 蘇原、品川、高木(三中) 予選落 前高(七中) 失格
 B 富高 今井、阿部、松井 予選十五中第二位
 決勝トーナメント戦 太田原校(栃木) 富高(六中)
 優勝 太田原校(七中)

D 富東校中野(四中) 築瀬(二中) 若林(一中) 予選失格

◇全国高校弓道予選 七月五日

- 1 会場 前橋県営道場
- 2 出場校 伊工 前高 富高 富東高
- 3 成績 予選結果出場校左の通り
前高 富高 富東高と決定

◇全国高校弓道大会 八月六・七・八・九日

- 1 会場 宮崎市大湊高校
- 2 成績 A 富高校(今井、阿部、松井、牛込) 十一中(予選失格)

B 前高校(田島三中) 大熊(三中) 美濃部(三中) 計九中
 C 富東校 中野(二中) 築瀬(二中) 若林(三中) 予選失格

一〇月二六日～二九日

- 1 会場 東京都駒沢弓道場 富岡高校出場
- 2 成績 AB 小的予選(十六中) 決勝八チームに入る

決勝 富高(十中) 照国高(八中)
 優勝 富岡高等学校

B 大的 富高(七四点) 入賞を逸す

◇県下高校優勝旗争奪戦 十一月二八日

- 1 会場 富岡弓道場
- 2 成績 A 男子の部一位富高 二位前高 三位伊工
B 女子の部一位富岡東高

◇群馬県昇段試験 一二月六日

- 1 会場 前橋県営弓道場
- 2 成績左の通り

伊工初段合格(細井、前沢、三井田、茜久保) 前高

二段〃(品川、蘇原、花房、田島) 前高

三段〃(高木、美濃部) 前高

B 富岡東校 初段(瀬間、石黒、黒沢、矢島)

二段(中野、若林、築瀬)

D 富高 初段(青木、鈴木) 二段(牛込)

三段(今井正、新井、松井)

昭和三十五年度六年度高体連役員

会長 松岡重三郎
副会長 大島礼爾

理事長 田中友次郎
常務理事 茂木正夫
正木徳次郎

東部 関田博重(桐生市立商) 飯島徳治(館高)

中部 新井喜雄(太田高) 下田満寿男(前女)

北部 神谷賢男(伊女) 山口由治(沼高)

西部 高橋啓二(渋工) 武井源三郎(富東女)

定時制 鈴木勳治(藤女) 木暮得雄(太高)

藤井清司(渋高) 須藤初治(高商)

指導部長 田中友次郎(高女)

指導委員長 北井柳太郎(高女)

部員 新井喜雄 神谷賢男 松川喜久治 山口由治

荻原房夫 鈴木勳治 木暮得雄 藤井清司

須藤初治

編集部長 大島礼爾(前工)
編集委員長 松井国平(前工)

部員 下田満寿男 関口博重 飯島徳治 神辺英男
高橋啓二 武井源三郎 横山清三郎 高橋新次

部名 部長名 委員長名 学校名

陸上競技 沼賀健次 田村泰一 高崎商業高校

バスケット 田中悦平 清水貞保 高崎高校

軟式庭球 大島礼爾 田部井善作 前橋工業高校

排球 野村吉之助 多胡善夫 前橋高校

卓球 〃 石井好男 〃

ラグビー 田中悦平 岡田由重 高崎高校

サッカー 笠原治久 飯島徳治 館林高校

ハンドボール 山口好見 町田歳雄 富岡高校

ソフトボール 森村祿爾 岡田博重 桐生商業高校

水泳 長谷川喜重 津田貞 伊勢崎工業高校

体操 直田昇 井上正二 前市女高校

相撲 山本六十二 浅見一也 勢農林高校

バトミントン 直田昇 奥泉英子 前市立女子高校

登山 松岡重三郎 大隅宏 前橋商業高校

スキー 久田精之助 林千春 利根農林高校

スケート 井関保 塩原正孝 渋川高校

ダンス 長沢義雄 下山りよ子 桐丘高校

軟式野球(全) 門伝誠吾 荻原一男 高崎工業高校

〃(定) 大島礼爾 竹内宗雄 前橋工業高校

レスリング部 笠原 治久 久保田利重 館林高等学校
 弓道部 野村吉之助 奥本新太郎 前橋高校
 自転車部 井関 保 塩原 正孝 渋川高等学校
 ボクシング部 門伝 誠吾 大橋 文夫 高崎工業高校
 ウェイトリフティング部 門伝 誠吾 大橋 文夫 高崎工業高校

事務局職員

事務局

前橋商業高等学校
 正木 徳次郎
 竹 田 芳文
 高 橋 潔
 山 本 義男
 福 島 功
 滝 沢 武司

編集後記

高体連も発足以来満十年を経過し、その歩みも正常に進みつつある。発足当時を回想すると、敗戦に於ける国内の混乱と戦後国民の虚脱と窮乏の中に、希望を失い混乱する若い生徒達に明るい希望と気魄を培い民主国家の再建を願いつつ、スポーツ本来の使命を目指して出発したものの、資材も用具も不備の中で涙ぐましい努力により現在までに発展育成されて来ました。その過去を考える時常に高体連の前進に教育的示唆と主導性を与えて下さった方々の事を忘れることは出来ません。特に中村初代会長先生の熱心な御指導御努力により高体連の基盤を築いて戴きました。尙当初事務局を引受けて下さった前橋高校の先生方の御苦心御努力を忘れる事は出来ません。その後を引受けられた大村先生、野村先生の御指導は高い教育的理想のもとに高校体育のあり方を賢実の方向に育てて下さいました。この御苦労に対し心から感謝申し上げます。尙現会長松岡先生は若人を凌ぐ熱情と信念によりスポーツを通しての高校生教育に常に御努力されて居られる様に感じます。歴代会長の先生方が御忙しい中で大会の運営に高体連の会合に休日を返上して御出席下され、今日までに導き発展させて下さいましたことに対し体育人一同心から感謝致して居ります。尙今後共よろしく御指導下さいませ様御願ひ申し上げます。扱今回この十周年を記念しての「高校の体育」を発刊することになり歴代会長及び体育関係者御指導御協力によりまして漸く発刊出来る様になりました。編集に当りましては各部署委員長の先生方の御協力に対し心から感謝致します。尙先輩の方々御寄稿に対して御高配下さいました出身校の先生方に対し深甚なる謝意を表す次第です。御蔭様で先輩の方々より多数の御寄稿を戴き

厚く御礼申し上げます。その他深町先生よりは特別に「スケート群馬十年の歩み」を御寄せ下さい有難うございました。

特にこの記念号編集に当り校正を一手に引受けられた前工の田部井先生の御苦勞に対し心から御礼の言葉を申し上げます。出版の時期に関しては原稿到着の遅延もありまして思う様に行かなかつたことに対して深く御詫び申し上げます。毎年編集することになっていゝ一高校の体育一の御寄稿につきましては御礼申し上げますと共に今年以上の御協力を御願ひ致します。三五、五、三一 松井国平記

昭和三十五年七月一日印刷

昭和三十五年七月十五日発行

高校の体育

編集
と
行

群馬県高等学校体育連盟

前橋市曲輪町八一

印刷人 原 田 直 吉

前橋市曲輪町八一

印刷所 有限 原 田 印刷 所

電話二、六六五番